



## **Cisco Identity Services Engine CLI リファレンス ガイド、リリース 1.3**

初版：2014 年 10 月 31 日

最終更新：2014 年 10 月 31 日

### **シスコシステムズ合同会社**

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター

0120-092-255（フリーコール、携帯・PHS含む）

電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>

**【注意】** シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（[www.cisco.com/jp/go/safety\\_warning/](http://www.cisco.com/jp/go/safety_warning/)）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザー側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: <http://www.cisco.com/go/trademarks>. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1110R)

© 2014 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



## 目次

### はじめに ix

目的 ix

対象読者 ix

このマニュアルの使用方法 x

マニュアルの構成 x

表記法 x

関連資料 xii

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート xiv

### Cisco ISE コマンドライン インターフェイス 1

CLI を使用した Cisco ISE の管理および設定 1

ローカル システムを使用した Cisco ISE CLI へのアクセス 1

セキュア シェルによる Cisco ISE CLI へのアクセス 2

Cisco ISE CLI 管理者アカウント 3

Cisco ISE CLI ユーザ アカウント 4

Cisco ISE CLI ユーザ アカウントの作成 4

Cisco ISE CLI ユーザ アカウントの権限 4

Cisco ISE CLI でサポートされるハードウェアおよびソフトウェアのプラットフォーム 5

### EXEC モードの Cisco ISE CLI コマンド 7

EXEC モードで開始される Cisco ISE CLI セッション 8

application install 9

application configure 10

モニタリング データベースの設定 11

プロファイリング イベントのライブ統計情報 14

内部 CA ストアのエクスポートおよびインポート 14

欠落したインデックスの作成 16

ACS の移行をイネーブルにする 17

application remove	18
application reset-config	19
application reset-passwd	21
application start	22
application stop	25
application upgrade	26
backup	30
Cisco ISE 設定データのバックアップ	32
Cisco ISE 動作データのバックアップ	33
backup-logs	33
clock	35
configure	37
copy	38
実行コンフィギュレーション	40
リモート ロケーションへの実行コンフィギュレーションのコピー	41
リモート ロケーションからの実行コンフィギュレーションのコピー	41
スタートアップ コンフィギュレーション	41
リモート ロケーションへのスタートアップ コンフィギュレーションのコピー	41
リモート ロケーションからのスタートアップ コンフィギュレーションのコピー	42
ログ ファイルのコピー	42
crypto	42
debug	44
delete	49
dir	50
exit	51
forceout	52
halt	52
help	53
mkdir	54
nslookup	55
password	56
patch install	57

patch remove	59
ping	60
ping6	61
reload	62
restore	63
バックアップからの Cisco ISE 設定データの復元	65
バックアップからの Cisco ISE 動作データの復元	67
バックアップからの Cisco ISE 設定データおよび Cisco ADE OS データの復元	67
rmdir	68
ssh	69
tech	70
telnet	72
terminal length	73
terminal session-timeout	73
terminal session-welcome	74
terminal terminal-type	75
traceroute	76
undebug	76
write	80
<b>EXEC Show モードの Cisco ISE CLI コマンド</b>	<b>81</b>
show	82
show application	83
show backup	85
show banner	86
show cdp	87
show clock	88
show cpu	89
show crypto	91
show disks	92
show icmp-status	93
show interface	95
show inventory	97
show ip	98
show logging	99
show logins	101

show memory	102
show ntp	102
show ports	103
show process	105
show repository	107
show restore	107
show running-config	108
show startup-config	109
show tech-support	110
show terminal	112
show timezone	113
show timezones	113
show udi	114
show uptime	115
show users	116
show version	117
<b>コンフィギュレーションモードの Cisco ISE CLI コマンド</b>	<b>121</b>
EXEC モードでのコンフィギュレーションモードへの切り替え	122
コンフィギュレーションモードでの Cisco ISE の設定	123
コンフィギュレーションサブモードでの Cisco ISE の設定	124
CLI コンフィギュレーション コマンドのデフォルト設定	125
cdp holdtime	125
cdp run	126
cdp timer	127
clock timezone	128
Cisco ISE ノードの時間帯の復元	129
共通の時間帯	130
オーストラリアの時間帯	131
アジアの時間帯	131
conn-limit	132
do	133
end	136
exit	137
hostname	138
icmp echo	140

interface	140
ipv6 address autoconfig	142
IPv6 自動設定の設定	143
プライバシー拡張機能の確認	144
ipv6 address dhcp	144
ip address	145
ip default-gateway	147
ip domain-name	148
ip host	149
ip name-server	150
ip route	152
kron occurrence	153
kron policy-list	156
logging	157
max-ssh-sessions	158
ntp	159
ntp authenticate	160
ntp authentication-key	161
ntp server	162
NTP サーバ認証の信頼キーの設定	164
同期化のステータスの確認	165
ntp trusted-key	165
rate-limit	166
password-policy	167
repository	169
service	172
shutdown	174
snmp-server community	175
snmp-server contact	176
snmp-server host	177
snmp-server location	178
username	179







## はじめに

---

- [目的, ix ページ](#)
- [対象読者, ix ページ](#)
- [このマニュアルの使用方法, x ページ](#)
- [マニュアルの構成, x ページ](#)
- [表記法, x ページ](#)
- [関連資料, xii ページ](#)
- [マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート, xiv ページ](#)

## 目的

このガイドでは、コマンドラインインターフェイス（CLI）を使用して Cisco Identity Services Engine（Cisco ISE）を設定および保守する方法について説明します。各コマンドの項では、サポートされるアプライアンスを実行する Cisco Application Deployment Engine（ADE）OS Release 3.0 で Cisco ISE CLI を使用する方法を詳細に説明します。

リリース 1.3 の Inline Posture の ISO イメージはありません。リリース 1.3 導入ではリリース 1.2 の Inline Posture ノードを引き続き使用できます。リリース 1.2 イメージで Inline Posture ノードをインストールする方法およびこれらのノードで証明書を設定する方法については、『*Cisco Identity Services Engine CLI Reference Guide, Release 1.2*』を参照してください。

このガイド全体で、管理者ポータルという用語は、プライマリ管理ノードの Cisco ISE ユーザーインターフェイスを示します。

## 対象読者

Cisco ISE CLI 管理者および適切な権限を持つユーザがこの CLI リファレンス ガイドを使用できます。このガイドで説明するコマンドは、ほとんどがわかりやすい内容ですが、中には複雑な事項

も含まれています。したがって、上級ユーザのみがこのようなコマンドを使用する必要があります。



(注) このガイドは、「関連資料」に示す各ドキュメントとあわせて使用してください。

## このマニュアルの使用方法

- 全体を通して読んでください。各章の説明は、それ以前の章の情報や推奨事項を前提としています。
- CLI コマンドを実行するときの Cisco ISE に関する包括的な情報について、このドキュメントを参照してください。
- 表記で説明するコマンドラインの表記法を変更しないでください。

## マニュアルの構成

- 第 1 章「Cisco ISE のコマンドライン インターフェイス」：Cisco ISE CLI 環境およびコマンドモードの概要を示します。
- 第 2 章「EXEC モードの Cisco ISE CLI コマンド」：EXEC モードでの Cisco ISE CLI コマンドの使用法の簡単な説明、コマンドの構文、使用上のガイドライン、および使用例を示します。
- 第 3 章「EXEC Show モードの Cisco ISE CLI コマンド」：EXEC show モードでの Cisco ISE CLI コマンドの使用法の簡単な説明、コマンドの構文、使用上のガイドライン、および使用例を示します。
- 第 4 章「コンフィギュレーションモードの Cisco ISE CLI コマンド」：コンフィギュレーションモードでの Cisco ISE CLI コマンドの使用法の簡単な説明、コマンドの構文、使用上のガイドライン、および使用例を示します。

## 表記法

このマニュアルでは、次の表記法を使用しています。

表記法	説明
? (ヘルプ)	すべてのモード (EXEC モード、Exec show モード、およびコンフィギュレーションモード) のコマンドプロンプトで使用可能なコマンドと説明、キーワード、および引数とともに各コマンドの説明を一覧表示します。

表記法	説明
<cr>	復帰。Enter キーを押してコマンドを完了します。
Tab	コマンド プロンプトで入力された部分コマンドおよびキーワードを完成させます。
Ctrl+C	実行中のコマンドすべてを中止し、前のモードに戻ります。
End、Exit、Ctrl+Z	現在のコンフィギュレーション モードを終了し、前のモードに戻ります。
ise	Cisco ISE サーバのホスト名。
admin	CLI 管理者アカウント。
太字	コマンド、キーワード、およびユーザが入力したテキストは、 <b>太字</b> で示しています。
イタリック体	ドキュメント名、新規用語または強調する用語、値を指定するための引数は、イタリック体フォントで示しています。
[x]	角カッコ内のキーワードまたは引数は省略可能です。
[ ]	システム プロンプトに対するデフォルトの応答は、角カッコで囲んで示しています。
	パイプと呼ばれる縦棒は、一連のキーワードまたは引数の選択肢であることを示します。
[x   y]	どれか 1 つを選択できる省略可能なキーワードは、角カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
{x   y}	どれか 1 つを選択しなければならない必須キーワードは、波カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
[x {y   z}]	角カッコまたは波カッコが入れ子になっている箇所は、任意または必須の要素内の任意または必須の選択肢であることを表します。角カッコ内の波カッコと縦棒は、省略可能な要素内で選択すべき必須の要素を示しています。
courier フォント	画面表示、プロンプト、およびスクリプトの例は、等巾の固定幅フォントで示しています。

表記法	説明
太字の <code>courier</code> フォント	ユーザが入力する情報の例を表します。
<>	非表示の文字（パスワードなど）は、山カッコで囲んで示します。

### 読者への警告の表記法

このマニュアルでは、読者への警告に次の表記法を使用しています。



(注) 「注釈」です。役立つ情報や、このマニュアル以外の参照資料などを紹介しています。



ヒント この情報が問題の解決などに役立つ情報をであることを示しています。



注意 「要注意」の意味です。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。



ワンポイントアドバイス 時間を節約する方法です。記述されている操作を実行すると時間を節約できます。



警告 「警告」の意味です。人身事故を予防するための注意事項が記述されています。

## 関連資料

### リリース固有のドキュメント

Cisco ISE の一般的な製品情報は、<http://www.cisco.com/go/ise> で入手できます。エンドユーザ向けのマニュアルは、Cisco.com (<http://www.cisco.com/c/en/us/support/security/identity-services-engine/tsd-products-support-series-home.html>) で参照できます。

表 1: *Cisco Identity Services Engine* の製品マニュアル

『 <i>Release Notes for Cisco Identity Services Engine, Release 1.3</i> 』	<a href="http://www.cisco.com/en/US/products/ps11640/prod_release_notes_list.html">http://www.cisco.com/en/US/products/ps11640/prod_release_notes_list.html</a>
--	---

『Cisco Identity Services Engine Network Component Compatibility, Release 1.3』	<a href="http://www.cisco.com/en/US/products/ps11640/products_device_support_tables_list.html">http://www.cisco.com/en/US/products/ps11640/products_device_support_tables_list.html</a>
『Cisco Identity Services Engine User Guide, Release 1.3』 『Cisco Identity Services Engine Sponsor Portal User Guide, Release 1.3』	<a href="http://www.cisco.com/en/US/products/ps11640/products_user_guide_list.html">http://www.cisco.com/en/US/products/ps11640/products_user_guide_list.html</a>
『Cisco Identity Services Engine Hardware Installation Guide, Release 1.3』 『Cisco Identity Services Engine Upgrade Guide, Release 1.3』 『Cisco Identity Services Engine, Release 1.3 Migration Tool Guide』 『Regulatory Compliance and Safety Information for Cisco Identity Services Engine 3400 Series Appliance and Cisco 3400 Secure Access Control System』	<a href="http://www.cisco.com/en/US/products/ps11640/prod_installation_guides_list.html">http://www.cisco.com/en/US/products/ps11640/prod_installation_guides_list.html</a>
『Cisco Identity Services Engine CLI リファレンスガイド、リリース 1.3』 『Cisco Identity Services Engine API Reference Guide, Release 1.3』	<a href="http://www.cisco.com/en/US/products/ps11640/prod_command_reference_list.html">http://www.cisco.com/en/US/products/ps11640/prod_command_reference_list.html</a>
『Cisco Identity Services Engine In-Box Documentation and China RoHS Pointer Card』	<a href="http://www.cisco.com/en/US/products/ps11640/products_documentation_roadmaps_list.html">http://www.cisco.com/en/US/products/ps11640/products_documentation_roadmaps_list.html</a>

### プラットフォーム固有のマニュアル

その他のプラットフォーム固有のマニュアルへのリンクは、次の場所にあります。

表 2: プラットフォーム固有のマニュアル

Cisco ISE	<a href="http://www.cisco.com/en/US/products/ps11640/tsd_products_support_series_home.html">http://www.cisco.com/en/US/products/ps11640/tsd_products_support_series_home.html</a>
Cisco NAC Appliance	<a href="http://www.cisco.com/en/US/products/ps6128/tsd_products_support_series_home.html">http://www.cisco.com/en/US/products/ps6128/tsd_products_support_series_home.html</a>
Cisco NAC Guest Server	<a href="http://www.cisco.com/en/US/products/ps10160/tsd_products_support_series_home.html">http://www.cisco.com/en/US/products/ps10160/tsd_products_support_series_home.html</a>
Cisco NAC Profiler	<a href="http://www.cisco.com/en/US/products/ps8464/tsd_products_support_series_home.html">http://www.cisco.com/en/US/products/ps8464/tsd_products_support_series_home.html</a>
Cisco Secure Access Control System	<a href="http://www.cisco.com/en/US/products/ps9911/tsd_products_support_series_home.html">http://www.cisco.com/en/US/products/ps9911/tsd_products_support_series_home.html</a>

Cisco UCS C シリーズ サーバ

[http://www.cisco.com/en/US/docs/unified\\_computing/ucs/overview/guide/UCS\\_rack\\_roadmap.html](http://www.cisco.com/en/US/docs/unified_computing/ucs/overview/guide/UCS_rack_roadmap.html)

## マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

マニュアルの入手、Cisco Bug Search Tool (BST) の使用、サービス要求の送信、追加情報の収集の詳細については、『*What's New in Cisco Product Documentation*』を参照してください。このドキュメントは、<http://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/general/whatsnew/whatsnew.html> から入手できます。

『*What's New in Cisco Product Documentation*』はシスコの新規および改訂版の技術マニュアルの一覧を提供するもので、RSS フィードとして購読できます。また、リーダーアプリケーションを使用すると、コンテンツがデスクトップに直接配信されるようになります。RSS フィードは無料のサービスです。



## 第 1 章

# Cisco ISE コマンドラインインターフェイス

この章では、Cisco ISE の設定および管理に使用できる Cisco Identity Services Engine (ISE) のコマンドラインインターフェイス (CLI) について説明します。

- [CLI を使用した Cisco ISE の管理および設定, 1 ページ](#)
- [Cisco ISE CLI 管理者アカウント, 3 ページ](#)
- [Cisco ISE CLI ユーザ アカウント, 4 ページ](#)
- [Cisco ISE CLI ユーザ アカウントの権限, 4 ページ](#)
- [Cisco ISE CLI でサポートされるハードウェアおよびソフトウェアのプラットフォーム, 5 ページ](#)

## CLI を使用した Cisco ISE の管理および設定

Cisco ISE コマンドライン インターフェイス (CLI) では、EXEC モードでシステム レベルの設定、コンフィギュレーション モードでその他の設定作業（一部は Cisco ISE 管理者ポータルから実行できません）を実行し、トラブルシューティングのための操作ログを生成できます。

Cisco ISE 管理者ポータルまたは CLI を使用して、Cisco ISE アプリケーションソフトウェアのパッチを適用し、トラブルシューティングのための操作ログを生成し、Cisco ISE アプリケーションデータをバックアップできます。また、Cisco ISE CLI を使用して、Cisco ISE アプリケーションソフトウェアを起動および停止し、アプリケーションデータをバックアップから復元し、アプリケーションソフトウェアをアップグレードし、トラブルシューティングのためにすべてのシステム ログとアプリケーション ログを表示し、Cisco ISE デバイスをリロードまたはシャットダウンできます。

## ローカル システムを使用した Cisco ISE CLI へのアクセス

有線ローカル エリア ネットワーク (LAN) に接続せずに Cisco ISE をローカルに設定する必要がある場合は、ヌルモデム ケーブルを使用して、システムを Cisco ISE デバイスのコンソール ポー

トに接続できます。シリアル コンソール コネクタ (ポート) は、コンソール ポートに端末を接続することで、Cisco ISE CLI にローカルアクセス可能にします。端末は、ターミナルエミュレーションソフトウェアまたは ASCII 端末を実行するシステムです。コンソールポート (EIA/TIA-232 非同期) で必要なのは、ヌルモデム ケーブルのみです。

- ターミナルエミュレーションソフトウェアを実行するシステムをコンソールポートに接続するには、DB-9 メス型 - DB-9 メス型のヌルモデム ケーブルを使用します。
- ASCII 端末をコンソールポートに接続するには、片方が DB-9 メスでもう一方が DB-25 オスのストレートケーブルと、DB-25 メスから DB-25 メスへの変換アダプタを使用します。

コンソールポートのデフォルトパラメータは、9600 ボー、8 データビット、パリティなし、1 ストップビット、およびハードウェアフロー制御なしです。



(注) 接続の相手側が Cisco Switch の場合、スイッチポートを duplex auto、speed auto (デフォルト) に設定します。

- 
- ステップ 1** Cisco ISE デバイスのコンソールポートとシステムの COM ポートをヌルモデムケーブルで接続します。
- ステップ 2** Cisco ISE と通信するようにターミナルエミュレータを設定します。ターミナルエミュレータの接続では、9600 ボー、データビット 8、パリティなし、ストップビット 1 の設定を使用します。ハードウェアのフロー制御はなしです。
- ステップ 3** ターミナルエミュレータが起動したら、Enter キーを押します。
- ステップ 4** ユーザ名を入力し、Enter キーを押します。
- ステップ 5** パスワードを入力し、Enter キーを押します。
- 

## セキュア シェルによる Cisco ISE CLI へのアクセス

Cisco ISE はセットアップユーティリティにより、CLI 管理者を受け入れるように事前設定されています。(Windows XP 以降のバージョンを使用してシステムを介して有線ワイドエリアネットワーク (WAN) に接続している) SSH クライアントを使用してログインするには、管理者としてログインします。



### はじめる前に

Cisco ISE CLI にアクセスするには、SSH v2 をサポートするセキュア シェル (SSH) クライアントを使用します。

- 
- ステップ 1 任意の SSH クライアントを使用して SSH セッションを開始します。
  - ステップ 2 Enter キーまたはスペースバーを押して接続します。
  - ステップ 3 ホスト名、ユーザ名、ポート番号、および認証方式を入力します。たとえば、リモートホストの IP アドレスまたはホスト名「ise」を入力し、ユーザ名に「admin」、ポート番号に「22」を入力して、認証方式としてドロップダウンリストから [パスワード (Password)] を選択します。
  - ステップ 4 [接続 (Connect)] をクリックするか、Enter キーを押します。
  - ステップ 5 割り当てられた管理者パスワードを入力します。
  - ステップ 6 (任意) プロファイル名を [プロファイルの追加 (Add Profile)] ウィンドウに入力し、[プロファイルに追加 (Add to Profile)] をクリックします。
  - ステップ 7 [プロファイルの追加 (Add Profile)] ウィンドウで [閉じる (Close)] をクリックします。
- 

## Cisco ISE CLI 管理者アカウント

セットアップ中に、CLI 管理者アカウントを作成するユーザ名とパスワードを入力するように促されます。初期設定後に最初に再起動するときに、このアカウントを使用して Cisco ISE サーバにログインします。

CLI 管理者アカウントのクレデンシャルを常に保護し、このアカウントを使用して、Cisco ISE サーバへのアクセス権限を持つ追加管理者アカウントとユーザアカウントを明示的に作成し、管理する必要があります。

CLI 管理者は、Cisco ISE サーバで、システム レベルの設定を実行するすべてのコマンドを EXEC モード (ルートアクセス) で実行し、その他の設定作業をコンフィギュレーションモードで実行できます。管理者は、Cisco ISE アプリケーション ソフトウェアの開始と停止、Cisco ISE アプリケーション データのバックアップと復元、Cisco ISE アプリケーション ソフトウェアへのパッチとアップグレードの適用、すべてのシステム ログとアプリケーション ログの表示、Cisco ISE デバイスのリロードまたはシャットダウンを実行できます。

サブモードに関係なく、管理者アカウントのプロンプトの末尾にポンド記号 (#) が表示されます。

# Cisco ISE CLI ユーザ アカウント

Cisco ISE 管理者ポータルからアカウントを作成するユーザは、Cisco ISE CLI に自動的にログインできません。CLI 管理者アカウントを使用して、CLI にアクセスできるユーザアカウントを明示的に作成する必要があります。

## Cisco ISE CLI ユーザ アカウントの作成

CLI ユーザアカウントを作成するには、コンフィギュレーションモードで **username** コマンドを実行します。

---

**ステップ 1** CLI 管理者アカウントを使用して Cisco ISE CLI にログインします。

**ステップ 2** コンフィギュレーションモードを開始し、**username** コマンドを実行します。

```
ise/admin# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
ise/admin(config)# username duke password plain Plain@123 role user email duke@cisco.com
ise/admin(config)# exit
ise/admin#
```

**ステップ 3** CLI ユーザアカウントを使用して Cisco ISE CLI にログインします。

---

## Cisco ISE CLI ユーザ アカウントの権限

ユーザアカウントには、次のコマンドを含む、限定された数のコマンドへのアクセス権がありません。

- crypto
- exit
- nslookup
- ping
- ping6
- show cdp
- show clock
- show cpu
- show disks
- show icmp\_status
- show interface

- show inventory
- show logins
- show memory
- show ntp
- show ports
- show process
- show terminal
- show timezone
- show udi
- show uptime
- show version
- ssh
- telnet
- terminal
- traceroute

## Cisco ISE CLI でサポートされるハードウェアおよびソフトウェアのプラットフォーム

Cisco ISE サーバに接続し、次を使用して CLI にアクセスできます。

- Microsoft Windows XP または Vista を実行するシステム。
- Red Hat や Fedora などの Linux を実行するシステム。
- Mac OS X 10.4 以降の Apple コンピュータ。
- VT100 または ANSI 互換の端末デバイス。VT100 タイプ デバイスおよび ANSI デバイスでは、左矢印、右矢印、上矢印、下矢印、Delete および Backspace キーを含むカーソル制御キーおよびカーソル移動キーを使用できます。Cisco ISE CLI は、カーソル制御キーの使用を検出し、自動的に最適なデバイス文字を使用します。

すべての端末の完全なリストについては、`/usr/share/terminfo/**` の `terminfo` データベース（端末機能データベース）を参照してください。コンパイルされた `terminfo` ファイルは次の場所にある可能性があります。

`/usr/lib/terminfo/v/vt100`、`/usr/share/terminfo/v/vt100`、`/home/.../terminfo/v/vt100`、または `/etc/terminfo/v/vt100`。 `terminfo` は、アプリケーションプログラムと通信する端末のすべてのモデルで利用可能な端末機能データベースです。これは、カーソルを新しい場所に移動する、画面の一部を消す、画面をスクロールする、モードを変更する、外観（色、明るさ、点

滅、下線、反転表示など)を変更するといった操作を実行する場合に端末に送信するエスケープシーケンス (または制御文字) を提供します。

たとえば、ルートから "locate vt100" と入力すると、使用している端末に関する情報が表示されます。

Cisco ISE CLI には、次の有効な端末タイプからアクセスできます。

- 1178
- 2621
- 5051
- 6053
- 8510
- altos5
- amiga
- ansi
- apollo
- Apple\_Terminal
- att5425
- ibm327x
- kaypro
- vt100



## 第 2 章

# EXEC モードの Cisco ISE CLI コマンド

---

この章では、EXEC モードで使用される Cisco ISE コマンドライン インターフェイス (CLI) コマンドについて説明します。この章では、コマンドごとに、その使用方法の簡単な説明、コマンドの構文、使用上のガイドライン、および使用例を示します。

- EXEC モードで開始される Cisco ISE CLI セッション, 8 ページ
- application install, 9 ページ
- application configure, 10 ページ
- application remove, 18 ページ
- application reset-config, 19 ページ
- application reset-passwd, 21 ページ
- application start, 22 ページ
- application stop, 25 ページ
- application upgrade, 26 ページ
- backup, 30 ページ
- backup-logs, 33 ページ
- clock, 35 ページ
- configure, 37 ページ
- copy, 38 ページ
- crypto, 42 ページ
- debug, 44 ページ
- delete, 49 ページ
- dir, 50 ページ
- exit, 51 ページ

- [forceout, 52 ページ](#)
- [halt, 52 ページ](#)
- [help, 53 ページ](#)
- [mkdir, 54 ページ](#)
- [nslookup, 55 ページ](#)
- [password, 56 ページ](#)
- [patch install, 57 ページ](#)
- [patch remove, 59 ページ](#)
- [ping, 60 ページ](#)
- [ping6, 61 ページ](#)
- [reload, 62 ページ](#)
- [restore, 63 ページ](#)
- [rmdir, 68 ページ](#)
- [ssh, 69 ページ](#)
- [tech, 70 ページ](#)
- [telnet, 72 ページ](#)
- [terminal length, 73 ページ](#)
- [terminal session-timeout, 73 ページ](#)
- [terminal session-welcome, 74 ページ](#)
- [terminal terminal-type, 75 ページ](#)
- [traceroute, 76 ページ](#)
- [undebug, 76 ページ](#)
- [write, 80 ページ](#)

## EXEC モードで開始される Cisco ISE CLI セッション

Cisco ISE CLI でセッションを開始する場合、EXEC モードから始めます。EXEC モードでは、Cisco ISE サーバのすべてにアクセスしてシステム レベルの設定を実行し、操作ログを生成する権限があります。

# application install



(注) Cisco Identity Services Engine (ISE) アプリケーションは、サポートされるすべてのアプライアンスおよび VMware に Cisco IOS イメージがプリインストールされているため、通常の動作では、コマンドラインインターフェイス (CLI) から **application install** コマンドを実行できません。

Cisco ISE 以外の特定のアプリケーションをインストールするには、EXEC モードで **application install** コマンドを使用します。Cisco ISE 以外のアプリケーションを削除するには、**application remove** コマンドを使用します。

**application** [ **install** {*application-bundle*} {*remote-repository-name*}]

## 構文の説明

<b>install</b>	特定のアプリケーションをインストールします。
<i>application-bundle</i>	アプリケーションバンドルのファイル名。最大 255 文字の英数字をサポートします。
<i>remote-repository-name</i>	リモートリポジトリ名。最大 255 文字の英数字をサポートします。

## コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンド モード

EXEC

## 使用上のガイドライン

指定したアプリケーションバンドルをアプライアンスにインストールします。アプリケーションバンドル ファイルは、指定したリポジトリから取得されます。

アプリケーションをインストールまたは削除している間に、**application install** コマンドや **application remove** コマンドを別途実行すると、次の警告メッセージが表示されます。

```
An existing application install, remove, or upgrade is in progress. Try again shortly.
```

### 例

```
ise/admin# application install ise-appbundle-1.1.0.362.i386.tar.gz myrepository
```

```

Do you want to save the current configuration? (yes/no) [yes]? yes
Generating configuration...
Saved the running configuration to startup successfully
Initiating Application installation...
Extracting ISE database content...
Starting ISE database processes...
Restarting ISE database processes...
Creating ISE M&T session directory...
Performing ISE database priming...
Application successfully installed
ise/admin#

```

### 関連トピック

- [application configure, \(10 ページ\)](#)
- [application remove, \(18 ページ\)](#)
- [application reset-config, \(19 ページ\)](#)
- [application reset-passwd, \(21 ページ\)](#)
- [application start, \(22 ページ\)](#)
- [application stop, \(25 ページ\)](#)
- [application upgrade, \(26 ページ\)](#)
- [show application, \(83 ページ\)](#)

## application configure

M&T 操作を実行するには、プロファイラに関連する統計情報を更新して表示し、Cisco ISE CA 証明書とキーを Cisco ISE でバックアップおよび復元するオプションをエクスポート/インポートし、EXEC モードで **application configure** コマンドを使用します。

```
application [ configure {application-name}]
```

### 構文の説明

<b>configure</b>	特定のアプリケーションを設定します。
<i>application-name</i>	アプリケーション名。最大 255 文字の英数字をサポートします。

### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンド モード

EXEC



## 使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、M&T データベースとインデックスを更新できます。また、Cisco ISE ノードで Cisco ISE CA 証明書およびキーをエクスポートおよびインポートすることもできます。

## 例

```
ise/admin# application configure ise
Selection ISE configuration option
[1]Reset M&T Session Database
[2]Rebuild M&T Unusable Indexes
[3]Purge M&T Operational Data
[4]Reset M&T Database
[5]Refresh Database Statistics
[6]Display Profiler Statistics
[7]Export Internal CA Store
[8]Import Internal CA Store
[9]Create Missing Config Indexes
[10]Create Missing M&T Indexes
[11]Enable/Disable ACS Migration
[12]Exit

2
You are about to rebuild the M&T database unusable indexes.
Are you sure you want to proceed? y/n [n]: y
Starting to rebuild indexes
Completed rebuild indexes
```

## 関連トピック

- [application install, \(9 ページ\)](#)
- [application remove, \(18 ページ\)](#)
- [application reset-config, \(19 ページ\)](#)
- [application reset-passwd, \(21 ページ\)](#)
- [application start, \(22 ページ\)](#)
- [application stop, \(25 ページ\)](#)
- [application upgrade, \(26 ページ\)](#)
- [show application, \(83 ページ\)](#)

# モニタリング データベースの設定

## はじめる前に

Cisco ISE サーバが導入に含まれていない場合だけモニタリングデータベースをリセットする必要があります。



(注) ログ ファイルの不一致を回避するために、プライマリおよびセカンダリのモニタリング ノード データベースを同時にリセットすることを推奨します。

モニタリング データベース関連のタスクを設定するには、**application configure ise** コマンドで次のオプションを使用します。

- モニタリング セッション データベースをリセットするには、オプション 1 を使用します。
- モニタリング データベースの使用不可能なインデックスを再構築するには、オプション 2 を使用します。
- モニタリング 動作データをパージするには、オプション 3 を使用します。
- モニタリング データベースをリセットするには、オプション 4 を使用します。
- モニタリング データベースの統計情報を更新するには、オプション 5 を使用します。

#### 例

モニタリング セッション データベースをリセットするには、オプション 1 を使用します。

```
ise/admin# application configure ise
Selection ISE configuration option
[1]Reset M&T Session Database
[2]Rebuild M&T Unusable Indexes
[3]Purge M&T Operational Data
[4]Reset M&T Database
[5]Refresh Database Statistics
[6]Display Profiler Statistics
[7]Export Internal CA Store
[8]Import Internal CA Store
[9]Create Missing Config Indexes
[10]Create Missing M&T Indexes
[11]Enable/Disable ACS Migration
[12]Exit
1
You are about to reset the M&T session database. Following this operation, an application
restart will be required.
Are you sure you want to proceed? y/n [n]: y
TimesTen Daemon stopped.
TimesTen Daemon startup OK.
Restarting application
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Log Collector...
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Log Processor...
ISE Identity Mapping Service is disabled
ISE pxGrid processes are disabled
Stopping ISE Application Server...
Stopping ISE Certificate Authority Service...
Stopping ISE Profiler Database...
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Session Database...
Stopping ISE AD Connector...
Stopping ISE Database processes...
iptables: No chain/target/match by that name.
iptables: No chain/target/match by that name.
Starting ISE Monitoring & Troubleshooting Session Database...
Starting ISE Profiler Database...
Starting ISE Application Server...
Starting ISE Certificate Authority Service...
Starting ISE Monitoring & Troubleshooting Log Processor...
Starting ISE Monitoring & Troubleshooting Log Collector...
Starting ISE AD Connector...
Note: ISE Processes are initializing. Use 'show application status ise'
```

CLI to verify all processes are in running state.

2

You are about to rebuild the M&T database unusable indexes.  
Are you sure you want to proceed? y/n [n]: y  
Starting to rebuild indexes  
Completed rebuild indexes

3

Enter number of days to be retained in purging MnT Operational data [between 1 to 90 days]  
For instance, Entering 20 will purge MnT Operational data older than 20 days  
Enter 'exit' to return to the main menu without purging  
Enter days to be retained: 20  
You are about to purge M&T data older than 20 from your database.  
Are you sure you want to proceed? y/n [n]: y  
M&T Operational data older than 20 is getting removed from database

4

You are about to reset the M&T database. Following this operation, application will be restarted.  
Are you sure you want to proceed? y/n [n]: y  
Stopping application  
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Log Collector...  
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Log Processor...  
ISE Identity Mapping Service is disabled  
ISE pxGrid processes are disabled  
Stopping ISE Application Server...  
Stopping ISE Certificate Authority Service...  
Stopping ISE Profiler Database...  
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Session Database...  
Stopping ISE AD Connector...  
Stopping ISE Database processes...  
Starting Database only  
Creating ISE M&T database tables...  
Restarting application  
ISE M&T Log Collector is not running  
ISE M&T Log Processor is not running  
ISE Identity Mapping Service is disabled  
ISE pxGrid processes are disabled  
ISE Application Server process is not running  
ISE Certificate Authority Service is not running  
ISE Profiler Database is not running  
ISE M&T Session Database is not running  
ISE AD Connector is not running  
Stopping ISE Database processes...  
Starting ISE Monitoring & Troubleshooting Session Database...  
Starting ISE Profiler Database...  
Starting ISE Application Server...  
Starting ISE Certificate Authority Service...  
Starting ISE Monitoring & Troubleshooting Log Processor...  
Starting ISE Monitoring & Troubleshooting Log Collector...  
Starting ISE AD Connector...  
Note: ISE Processes are initializing. Use 'show application status ise'  
CLI to verify all processes are in running state.

5

You are about to Refresh Database statistics  
Are you sure you want to proceed? y/n [n]: y  
Starting to terminate long running DB sessions  
Completed terminating long running DB sessions

Gathering Config schema(CEPM) stats .....  
Gathering Operational schema(MNT) stats ....  
Completed Refresh Database statistics

## プロファイリング イベントのライブ統計情報

プローブとタイプ別にプロファイリングイベントからライブ統計情報を表示するには、**application configure** コマンドで **Display Profiler Statistics** オプションを使用します。このデータは、ポリシーサービス ノードだけで収集され、モニタリング ノードではこのデータは表示されません。

このコマンドでは、以前は取得用にルート パッチを必要としていた既存の JMX カウンタまたは外部 JConsole を活用するため、このデータをキャプチャするためにルート パッチを使用する必要はありません。

### 例

```
ise/admin# application configure ise
Selection ISE configuration option
[1]Reset M&T Session Database
[2]Rebuild M&T Unusable Indexes
[3]Purge M&T Operational Data
[4]Reset M&T Database
[5]Refresh Database Statistics
[6]Display Profiler Statistics
[7]Export Internal CA Store
[8]Import Internal CA Store
[9]Create Missing Config Indexes
[10]Create Missing M&T Indexes
[11]Enable/Disable ACS Migration
[12]Exit
```

6

Create an RMI connector client and connect it to the RMI connector server

Get an MBeanServerConnection  
Retrieve MXBean

Press <Enter> to continue...  
Timestamp,Elapsed,EndpointsProfiled,NetflowPacketsReceived,  
EndpointsReProfiled,EndpointsDeleted...  
Press Ctrl + c

## 内部 CA ストアのエクスポートおよびインポート

Cisco ISE CA 証明書およびキーをプライマリ管理ノード (PAN) から PAN の障害発生時にセカンダリ管理ノードにインポートできるようにエクスポートするには、EXEC モードで **application configure** コマンドを使用します。

セカンダリ管理ノードをプライマリ管理ノード (PAN) に昇格させる場合は、元の PAN からエクスポートした Cisco ISE CA 証明書およびキーをインポートする必要があります。

- Cisco ISE CA 証明書およびキーのコピーをエクスポートするには、**application configure ise** コマンドのオプション 7 を使用します。

- Cisco ISE CA 証明書およびキーのコピーをインポートするには、**application configure ise** コマンドのオプション 8 を使用します。

### 例 1

Cisco ISE CA 証明書およびキーのコピーをエクスポートするには、オプション 7 を使用します。

```
ise/admin# application configure ise
Selection ISE configuration option
[1]Reset M&T Session Database
[2]Rebuild M&T Unusable Indexes
[3]Purge M&T Operational Data
[4]Reset M&T Database
[5]Refresh Database Statistics
[6]Display Profiler Statistics
[7]Export Internal CA Store
[8]Import Internal CA Store
[9]Create Missing Config Indexes
[10]Create Missing M&T Indexes
[11]Enable/Disable ACS Migration
[12]Exit

7
Export Repository Name: sftp
Enter encryption-key for export: Test1234
Export on progress.....

The following 4 CA key pairs were exported to repository 'sftp' at
'ise_ca_key_pairs_of_ise60':
  Subject:CN=Certificate Services Root CA - ise60
  Issuer:CN=Certificate Services Root CA - ise60
  Serial#:0x66cfded7-2f384979-9110c0e1-50dbf656

  Subject:CN=Certificate Services Endpoint Subordinate CA - ise60
  Issuer:CN=Certificate Services Root CA - ise60
  Serial#:0x20ff700b-d5844ef8-a029bf7d-fad64289

  Subject:CN=Certificate Services Endpoint RA - ise60
  Issuer:CN=Certificate Services Endpoint Subordinate CA - ise60
  Serial#:0x483542bd-1f1642f4-ba71b338-8f606ee4

  Subject:CN=Certificate Services OCSP Responder Certificate - ise60
  Issuer:CN=Certificate Services Root CA - ise60
  Serial#:0x0ad3ccdf-b64842ad-93dd5826-0b27cbd2

ISE CA keys export completed successfully
```

### 例 2

Cisco ISE CA 証明書およびキーのコピーをインポートするには、オプション 8 を使用します。

```
ise/admin# application configure ise
Selection ISE configuration option
[1]Reset M&T Session Database
[2]Rebuild M&T Unusable Indexes
[3]Purge M&T Operational Data
[4]Reset M&T Database
[5]Refresh Database Statistics
[6]Display Profiler Statistics
[7]Export Internal CA Store
[8]Import Internal CA Store
[9]Create Missing Config Indexes
[10]Create Missing M&T Indexes
[11]Enable/Disable ACS Migration
[12]Exit
```

8

```

Import Repository Name: sftp
Enter CA keys file name to import: ise_ca_key_pairs_of_ise60
Enter encryption-key: Test1234
Import on progress.....

The following 4 CA key pairs were imported:
  Subject:CN=Certificate Services Root CA - ise60
  Issuer:CN=Certificate Services Root CA - ise60
  Serial#:0x66cfded7-2f384979-9110c0e1-50dbf656

  Subject:CN=Certificate Services Endpoint Subordinate CA - ise60
  Issuer:CN=Certificate Services Root CA - ise60
  Serial#:0x20ff700b-d5844ef8-a029bf7d-fad64289

  Subject:CN=Certificate Services Endpoint RA - ise60
  Issuer:CN=Certificate Services Endpoint Subordinate CA - ise60
  Serial#:0x483542bd-1f1642f4-ba71b338-8f606ee4

  Subject:CN=Certificate Services OCSP Responder Certificate - ise60
  Issuer:CN=Certificate Services Root CA - ise60
  Serial#:0x0ad3ccdf-b64842ad-93dd5826-0b27cbd2

Stopping ISE Certificate Authority Service...
Starting ISE Certificate Authority Service...
ISE CA keys import completed successfully

```

## 欠落したインデックスの作成

インデックスの欠落によるアップグレードの失敗を回避するには、EXEC モードで **application configure** コマンドを使用します。

- 欠落した CEPM データベース インデックスを作成するには、オプション 9 を使用します。
- 欠落したモニタリング データベース インデックスを作成するには、オプション 10 を使用します。

### 例 1

CEPM データベース インデックスを作成するには、オプション 9 を使用します。

```

ise/admin# application configure ise
Selection ISE configuration option
[1]Reset M&T Session Database
[2]Rebuild M&T Unusable Indexes
[3]Purge M&T Operational Data
[4]Reset M&T Database
[5]Refresh Database Statistics
[6]Display Profiler Statistics
[7]Export Internal CA Store
[8]Import Internal CA Store
[9]Create Missing Config Indexes
[10]Create Missing M&T Indexes
[11]Enable/Disable ACS Migration
[12]Exit

9
You are about to create missing config indexes.
Are you sure you want to proceed? y/n [n]: y
Starting to create missing config indexes
Completed creating missing config indexes

```

## 例 2

欠落したモニタリングデータベースインデックスを作成するには、オプション 10 を使用します。

```
ise/admin# application configure ise
Selection ISE configuration option
[1]Reset M&T Session Database
[2]Rebuild M&T Unusable Indexes
[3]Purge M&T Operational Data
[4]Reset M&T Database
[5]Refresh Database Statistics
[6]Display Profiler Statistics
[7]Export Internal CA Store
[8]Import Internal CA Store
[9]Create Missing Config Indexes
[10]Create Missing M&T Indexes
[11]Enable/Disable ACS Migration
[12]Exit

10
You are about to create missing MnT indexes.
Are you sure you want to proceed? y/n [n]: y
Starting to create missing MnT indexes
Completed creating missing MnT indexes
```

## ACS の移行をイネーブルにする

ISE に ACS 設定を移行するには、EXEC モードで **application configure** コマンドを使用します。ISE への ACS 設定の移行をイネーブルまたはディセーブルにするには、オプション 11 を使用します。



(注) Cisco ISE 1.3 は、ACS バージョン 5.5 および 5.6 の移行をサポートしています。

## 例

ACS 設定をイネーブルにするには、オプション 11 を使用します。

```
ise/admin# application configure ise
Selection ISE configuration option
[1]Reset M&T Session Database
[2]Rebuild M&T Unusable Indexes
[3]Purge M&T Operational Data
[4]Reset M&T Database
[5]Refresh Database Statistics
[6]Display Profiler Statistics
[7]Export Internal CA Store
[8]Import Internal CA Store
[9]Create Missing Config Indexes
[10]Create Missing M&T Indexes
[11]Enable/Disable ACS Migration
[12]Exit

11
ACS Migration is currently disabled. Are you sure you want to enable it? [y/n]y
ACS Migration enabled. Please make sure to disable it after you complete migration process.
```

# application remove



(注) アップグレードに関する明示的な指示がない限り、Cisco ISE を削除するために、コマンドラインインターフェイス (CLI) から **application remove** コマンドを実行できません。

Cisco ISE 以外の特定のアプリケーションを削除するには、EXEC モードで **application remove** コマンドを使用します。

**application [ remove {application-name}**]

Cisco ISE 以外の他のアプリケーションを削除したくない場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**no application [ remove {application-name}**]

## 構文の説明

<b>remove</b>	アプリケーションを削除またはアンインストールします。
<i>application-name</i>	アプリケーション名。最大 255 文字の英数字をサポートします。 アプリケーションを削除またはアンインストールします。

## コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンド モード

EXEC

## 使用上のガイドライン

アプリケーションを削除またはアンインストールします。

## 例

```
ise/admin# application remove ise
Continue with application removal? [y/n] y
Application successfully uninstalled
ise/admin#
```

## 関連トピック

[application configure](#), (10 ページ)

[application install](#), (9 ページ)



[application reset-config](#), (19 ページ)  
[application reset-passwd](#), (21 ページ)  
[application start](#), (22 ページ)  
[application stop](#), (25 ページ)  
[application upgrade](#), (26 ページ)  
[show application](#), (83 ページ)

## application reset-config

Cisco ISE アプリケーション コンフィギュレーションを工場出荷時のデフォルトにリセットするか、既存の工場出荷時設定を保持するには、EXEC モードで **application reset-config** コマンドを使用します。自己署名証明書に加えて、サーバ証明書をリセットしたり、既存のサーバ証明書を保持したりすることもできます。

**application** [ **reset-config** {*application-name*}]

### 構文の説明

<b>reset-config</b>	Cisco ISE アプリケーションコンフィギュレーションをリセットし、Cisco ISE データベースをクリアします。
<i>application-name</i>	リセットするアプリケーションコンフィギュレーションの名前。最大 255 文字の英数字をサポートします。

### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンド モード

EXEC

### 使用上のガイドライン

**application reset-config** コマンドを使用すると、Cisco ISE アプライアンスまたは VMware を再イメージ化せずに、Cisco ISE コンフィギュレーションのリセットと、Cisco ISE データベースのクリアが可能です。リセットでは、新しい Cisco ISE データベース管理者およびユーザ パスワードを入力する必要があります。



(注) **application reset-config** コマンドを使用すると、Cisco ISE コンフィギュレーションは出荷時の初期状態にリセットされますが、オペレーティングシステム (Cisco ADE-OS) コンフィギュレーションはそのまま変更されません。Cisco ADE-OS コンフィギュレーションには、ネットワーク設定、CLI パスワードポリシー、およびバックアップ履歴などの項目が含まれています。

CLI から Cisco ISE アプリケーション設定をリセットすると、すでに結合している場合に Active Directory ドメインから ISE ノードを切断する脱退処理が実行されます。ただし、Cisco ISE ノードのアカウントは、Active Directory ドメインから削除されません。Active Directory のクレデンシャルで Cisco ISE 管理者ポータルからの脱退処理を実行することを推奨します。脱退処理は、Active Directory ドメインからノードのアカウントを削除します。

### 例

ユーザが No オプションを選択した場合、コマンドはサーバ証明書を削除し、自己署名証明書のみを再生成します。ユーザが Yes オプションを選択した場合、コマンドは所定の場所にエクスポートすることによって既存のサーバ証明書を保持します。サーバ証明書は、この場所からインポートされます。

```
ise/admin# application reset-config ise
Initialize your ISE configuration to factory defaults? (y/n): y
Leaving currently connected AD domains if any...
Please rejoin to AD domains from the administrative GUI
Retain existing ISE server certificates? (y/n): y
Reinitializing local ISE configuration to factory defaults...
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Log Collector...
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Log Processor...
ISE Identity Mapping Service is disabled
ISE pxGrid processes are disabled
Stopping ISE Application Server...
Stopping ISE Certificate Authority Service...
Stopping ISE Profiler Database...
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Session Database...
Stopping ISE AD Connector...
Stopping ISE Database processes...
Enter the ISE administrator username to create[admin]: admin
Enter the password for 'admin':
Re-enter the password for 'admin':
Extracting ISE database content...
Starting ISE database processes...
Creating ISE M&T session directory...
Performing ISE database priming...
application reset-config is success
ise/admin#
```

### 関連トピック

- [application configure, \(10 ページ\)](#)
- [application install, \(9 ページ\)](#)
- [application remove, \(18 ページ\)](#)
- [application start, \(22 ページ\)](#)
- [application stop, \(25 ページ\)](#)
- [application upgrade, \(26 ページ\)](#)
- [show application, \(83 ページ\)](#)

# application reset-passwd

間違ったパスワードが入力されたために管理者アカウントがディセーブルになった後、Cisco ISE で指定されたユーザ アカウント（通常は既存の管理者アカウント）の管理者ポータル ログイン パスワードをリセットするには、EXEC モードで **application reset-passwd** コマンドを使用します。また、このコマンドを使用して、Cisco ISE データベース管理者パスワードとユーザパスワードをリセットすることもできます。

```
application [ reset-passwd {application-name} {administrator-ID | internal-database-admin | internal-database-user}]
```

## 構文の説明

<b>reset-passwd</b>	管理者アカウント パスワードをリセットします。
<i>application-name</i>	アプリケーション名。最大 255 文字の英数字をサポートします。
<b>administrator-ID</b>	パスワードをリセットするディセーブルになった管理者アカウントの名前。
<b>internal-database-admin</b>	Cisco ISE データベースのシステム レベルのパスワードを特定します。このパスワードは作成する必要があります（デフォルトはありません）。このパスワードは 11 文字以上の長さにする必要があります、少なくとも 1 つの小文字、少なくとも 1 つの大文字、および少なくとも 1 つの数字（0～9）を入れる必要があります。
<b>internal-database-user</b>	Cisco ISE データベースのアクセス レベルのパスワードを特定します。このパスワードは作成する必要があります（デフォルトはありません）。このパスワードは 11 文字以上の長さにする必要があります、少なくとも 1 つの小文字、少なくとも 1 つの大文字、および少なくとも 1 つの数字（0～9）を入れる必要があります。
<b>internal-comm-user</b>	

## コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。Cisco ISE で管理者アカウントをディセーブルにする場合に必要

## 使用上の注意事項

EXEC  
Cisco ISE 管理者ポータルのパスワードをリセットするときは次の特殊文字を使用できます。



<i>application-name</i>	イネーブルにする、事前に定義されたアプリケーションの名前。最大 255 文字の英数字をサポートします。
<i>safe</i>	セーフ モードでアプリケーションを起動します。

### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンド モード

EXEC

### 使用上のガイドライン

アプリケーションをイネーブルにします。

このコマンドを使用して、Cisco ISE を開始することはできません。開始しようとする、Cisco ISE がすでに実行されていると表示されます。

**application start safe** コマンドを使用して、Cisco ISE をセーフ モードで起動できます。このモードでは、管理者ポータルに対するアクセス コントロールを一時的にディセーブルにして、必要な変更を行った後に、アプリケーションを再起動できます。

この安全オプションは、管理者として誤って Cisco ISE 管理者ポータルのアクセスからすべてのユーザをロックアウトしたときのリカバリ方法になります。この状況は [管理 (Administration)] > [管理者アクセス (Admin Access)] > [設定 (Settings)] > [アクセス (Access)] ページで間違った「IP アクセス」リストを設定した場合に発生します。また、「安全」オプションにより、証明書ベースの認証がバイパスされ、Cisco ISE 管理者ポータルにログインするためにデフォルトのユーザ名およびパスワード認証に戻ります。

### 例 1

```
ise/admin# application start ise
Starting ISE Monitoring & Troubleshooting Session Database...
Starting ISE Profiler Database...
Starting ISE Application Server...
Starting ISE Certificate Authority Service...
Starting ISE Monitoring & Troubleshooting Log Processor...
Starting ISE Monitoring & Troubleshooting Log Collector...
Starting ISE AD Connector...
Note: ISE Processes are initializing. Use 'show application status ise'
      CLI to verify all processes are in running state.
```

```
ise/admin# show application status ise
```

ISE PROCESS NAME	STATE	PROCESS ID
Database Listener	running	30171
Database Server	running	33 PROCESSES
Application Server	initializing	
Profiler Database	running	31315
AD Connector	running	1732

```

M&T Session Database          running          31225
M&T Log Collector             running          1625
M&T Log Processor             running          1584
Certificate Authority Service  running          1532
pxGrid Infrastructure Service  disabled
pxGrid Publisher Subscriber Service disabled
pxGrid Connection Manager     disabled
pxGrid Controller             disabled
Identity Mapping Service      disabled
ise/admin#

```

### セーフモードでの Cisco ISE アプリケーションの起動

「安全」オプションの目的は、誤って発動された可能性があるアクセス制限をバイパスすることです。Cisco ISE サービスを開始するためにセーフモードを使用した場合、次の動作が見られます。

- 管理者が誤って自身をロックした場合は、正しい IP アクセス制限にログインできるように IP アクセス制限が一時的にディセーブルになります。
- FIPS がイネーブルのホストで、「安全」オプションがアプリケーションの起動時に渡された場合、FIPS 整合性チェックが一時的にディセーブルになります。通常、FIPS 整合性チェックが失敗した場合は、Cisco ISE サービスは開始されません。ユーザはアプリケーションの起動時に「安全」オプションを使用して FIPS 整合性チェックをバイパスできます。
- FIPS がイネーブルのホストで、「安全」オプションがアプリケーションの起動時に渡された場合、ハードウェア乱数ジェネレータ整合性チェックがディセーブルになります。
- 証明書ベースの認証を使用する場合、アプリケーション起動時の「安全」オプションで一時的にユーザ名とパスワードベースの認証が使用されます。



(注) これらの変更は一時的なものであり、Cisco ISE アプリケーションのインスタンスだけに関連します。Cisco ISE サービスを「安全」オプションなしで再起動すると、デフォルトの機能がすべて復元されます。

```

ise/admin# application stop ise

Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Log Collector...
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Log Processor...
ISE Identity Mapping Service is disabled
ISE pxGrid processes are disabled
Stopping ISE Application Server...
Stopping ISE Certificate Authority Service...
Stopping ISE Profiler Database...
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Session Database...
Stopping ISE AD Connector...
Stopping ISE Database processes...

ise/admin# application start ise safe

Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Log Collector...
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Log Processor...
ISE Identity Mapping Service is disabled
ISE pxGrid processes are disabled
Stopping ISE Application Server...
Stopping ISE Certificate Authority Service...
Stopping ISE Profiler Database...
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Session Database...

```

```
Stopping ISE AD Connector...
Stopping ISE Database processes...
ise/admin#
```

### 関連トピック

- [application configure, \(10 ページ\)](#)
- [application install, \(9 ページ\)](#)
- [application remove, \(18 ページ\)](#)
- [application reset-config, \(19 ページ\)](#)
- [application reset-passwd, \(21 ページ\)](#)
- [application stop, \(25 ページ\)](#)
- [application upgrade, \(26 ページ\)](#)
- [show application, \(83 ページ\)](#)

## application stop

特定のアプリケーションをディセーブルにするには、EXEC モードで **application stop** コマンドを使用します。アプリケーションの停止をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**application** [ **stop** {*application-name*}]

**no application** [ **stop** {*application-name*}]

### 構文の説明

<b>stop</b>	アプリケーションをディセーブルにします。
<i>application-name</i>	ディセーブルにする、事前に定義されたアプリケーションの名前。最大 255 文字の英数字をサポートします。

### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンド モード

EXEC

### 使用上のガイドライン

アプリケーションをディセーブルにします。

## 例

```
ise/admin# application stop ise
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Log Processor...
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Log Collector...
Stopping ISE Identity Mapping Service...
Stopping ISE pxGrid processes...
Stopping ISE Application Server...
Stopping ISE Certificate Authority Service...
Stopping ISE Profiler Database...
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Session Database...
Stopping ISE AD Connector...
Stopping ISE Database processes...
ise//admin# show application status ise
```

ISE PROCESS NAME	STATE	PROCESS ID
Database Listener	not running	
Application Server	not running	
Profiler Database	not running	
AD Connector	not running	
M&T Session Database	not running	
M&T Log Collector	not running	
M&T Log Processor	not running	
Certificate Authority Service	disabled	
pxGrid Infrastructure Service	not running	
pxGrid Publisher Subscriber Service	not running	
pxGrid Connection Manager	not running	
pxGrid Controller	not running	
Identity Mapping Service	not running	

```
ise//admin#
```

## 関連トピック

- [application configure, \(10 ページ\)](#)
- [application install, \(9 ページ\)](#)
- [application remove, \(18 ページ\)](#)
- [application reset-config, \(19 ページ\)](#)
- [application reset-passwd, \(21 ページ\)](#)
- [application start, \(22 ページ\)](#)
- [application upgrade, \(26 ページ\)](#)
- [show application, \(83 ページ\)](#)

## application upgrade

特定のアプリケーションバンドルをアップグレードするには、EXEC モードで **application upgrade** コマンドを使用します。

```
application [ upgrade {application-bundle | remote-repository-name} ]
```

---

### 構文の説明

---

#### **upgrade**

リモートリポジトリ内の特定のアプリケーションバンドルをアップグレードします。

---



<i>application-bundle</i>	アプリケーション名。最大 255 文字の英数字をサポートします。
<i>remote-repository-name</i>	リモートリポジトリ名。最大 255 文字の英数字をサポートします。
<b>cleanup</b>	以前に準備されたアップグレードバンドルを削除し、新しいアップグレードバンドルを準備します。
<b>prepare</b>	アップグレードバンドルをダウンロードし、内容をローカルディスクに解凍して、アップグレードするアプリケーションを準備します。
<i>application-bundle</i>	アプリケーション名。最大 255 文字の英数字をサポートします。
<b>proceed</b>	ローカルファイルを使用してアップグレードを続行します。

#### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

#### コマンド モード

EXEC

#### 使用上のガイドライン

アプリケーションをアップグレードし、アプリケーションコンフィギュレーションデータを保存します。詳細については、『*Cisco Identity Services Engine Upgrade Guide, Release 1.3*』の第 2 章「Upgrade Methods for Different Types of Deployments」を参照してください。**application upgrade** コマンドでの **cleanup**、**prepare**、および **proceed** オプションの使用は、Cisco ISE、リリース 1.2 からそれ以降のバージョン/リリースへのアップグレードでのみサポートされます。

- 障害が発生した際に別のアップグレードバンドルを試す場合、または異なるバージョンを使用する場合は、**cleanup** オプションを使用します。
- アップグレードバンドルをローカル的にダウンロードし、抽出するには、**prepare** オプションを使用します。
- **prepare** オプションで抽出したアップグレードバンドルを使用して Cisco ISE をアップグレードするには、**proceed** オプションを使用します。 **application upgrade** <ise-upgradebundle-1.2.x-to-1.3.0.849.x86\_64.tar.gz> <remote-repository> を使用する代わりに、アップグレードバンドルを準備した後にこのオプションを使用できます。

- アップグレードが成功した場合、このオプションはアップグレードバンドルを削除します。
- アップグレードが何らかの理由で失敗した場合、このオプションはアップグレードバンドルを保持します。

アプリケーションを別途アップグレードしている間に、**application upgrade** コマンドを実行すると、次の警告メッセージが表示されます。

An existing application install, remove, or upgrade is in progress. Try again shortly.



注意

アップグレードの進行中は、**backup** コマンドも **restore** コマンドも発行しないでください。このアクションを実行すると、データベースが破損する可能性があります。



(注)

この **application upgrade** コマンドを使用する前に、その新しいリリースで提供されているリリースノートのアップグレード手順を確認する必要があります。リリースノートには、重要な更新手順が含まれており、従う必要があります。

## 例 1

```
ise/admin# application upgrade prepare ise-upgradebundle-1.2.x-to-1.3.0.693.x86_64.tar.gz
upgrade
Getting bundle to local machine...
md5: de9e7c83679897f792ad3e9f74879c51
sha256: e3358ca424d977af67f8bb2bb3574b3e559ce9578d2f36c44cd8ba9e6dddfeff
% Please confirm above crypto hash matches what is posted on Cisco download site.
% Continue? Y/N [Y]Y
Getting bundle to local machine...
md5: de9e7c83679897f792ad3e9f74879c51
sha256: e3358ca424d977af67f8bb2bb3574b3e559ce9578d2f36c44cd8ba9e6dddfeff
```

## 例 2

```
ise/admin# application upgrade proceed
Initiating Application Upgrade...
% Warning: Do not use Ctrl-C or close this terminal window until upgrade completes.
-Checking VM for minimum hardware requirements
STEP 1: Stopping ISE application...
STEP 2: Verifying files in bundle...
-Internal hash verification passed for bundle
STEP 3: Validating data before upgrade...
STEP 4: Taking backup of the configuration data...
STEP 5: Running ISE configuration DB schema upgrade...
- Running db sanity check to fix index corruption, if any...

ISE Database schema upgrade completed.
STEP 6: Running ISE configuration data upgrade...
- Data upgrade step 1/59, NSFUpgradeService(1.2.1.127)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 2/59, NetworkAccessUpgrade(1.2.1.127)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 3/59, GuestUpgradeService(1.2.1.146)... Done in 50 seconds.
- Data upgrade step 4/59, NetworkAccessUpgrade(1.2.1.148)... Done in 2 seconds.
- Data upgrade step 5/59, NetworkAccessUpgrade(1.2.1.150)... Done in 2 seconds.
- Data upgrade step 6/59, NSFUpgradeService(1.3.0.100)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 7/59, RegisterPostureTypes(1.3.0.170)... Done in 0 seconds.
```

```

- Data upgrade step 8/59, ProfilerUpgradeService(1.3.0.187)... Done in 5 seconds.
- Data upgrade step 9/59, GuestUpgradeService(1.3.0.194)... Done in 2 seconds.
- Data upgrade step 10/59, NetworkAccessUpgrade(1.3.0.200)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 11/59, GuestUpgradeService(1.3.0.208)... Done in 2 seconds.
- Data upgrade step 12/59, GuestUpgradeService(1.3.0.220)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 13/59, RBACUpgradeService(1.3.0.228)... Done in 15 seconds.
- Data upgrade step 14/59, NetworkAccessUpgrade(1.3.0.230)... Done in 3 seconds.
- Data upgrade step 15/59, GuestUpgradeService(1.3.0.250)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 16/59, NetworkAccessUpgrade(1.3.0.250)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 17/59, RBACUpgradeService(1.3.0.334)... Done in 9 seconds.
- Data upgrade step 18/59, RBACUpgradeService(1.3.0.335)... Done in 9 seconds.
- Data upgrade step 19/59, ProfilerUpgradeService(1.3.0.360)... Done in 215 seconds.
- Data upgrade step 20/59, ProfilerUpgradeService(1.3.0.380)... Done in 4 seconds.
- Data upgrade step 21/59, NSFUpgradeService(1.3.0.401)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 22/59, NSFUpgradeService(1.3.0.406)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 23/59, NSFUpgradeService(1.3.0.410)... Done in 1 seconds.
- Data upgrade step 24/59, RBACUpgradeService(1.3.0.423)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 25/59, NetworkAccessUpgrade(1.3.0.424)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 26/59, RBACUpgradeService(1.3.0.433)... Done in 1 seconds.
- Data upgrade step 27/59, EgressUpgradeService(1.3.0.437)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 28/59, NSFUpgradeService(1.3.0.438)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 29/59, NSFUpgradeService(1.3.0.439)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 30/59, CdaRegistration(1.3.0.446)... Done in 2 seconds.
- Data upgrade step 31/59, RBACUpgradeService(1.3.0.452)... Done in 17 seconds.
- Data upgrade step 32/59, NetworkAccessUpgrade(1.3.0.458)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 33/59, NSFUpgradeService(1.3.0.461)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 34/59, CertMgmtUpgradeService(1.3.0.462)... Done in 3 seconds.
- Data upgrade step 35/59, NetworkAccessUpgrade(1.3.0.476)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 36/59, NSFUpgradeService(1.3.0.508)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 37/59, RBACUpgradeService(1.3.0.509)... Done in 17 seconds.
- Data upgrade step 38/59, NSFUpgradeService(1.3.0.526)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 39/59, NSFUpgradeService(1.3.0.531)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 40/59, MDMUpgradeService(1.3.0.536)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 41/59, NSFUpgradeService(1.3.0.554)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 42/59, NetworkAccessUpgrade(1.3.0.561)... Done in 4 seconds.
- Data upgrade step 43/59, RBACUpgradeService(1.3.0.563)... Done in 20 seconds.
- Data upgrade step 44/59, CertMgmtUpgradeService(1.3.0.615)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 45/59, CertMgmtUpgradeService(1.3.0.616)... Done in 22 seconds.
- Data upgrade step 46/59, CertMgmtUpgradeService(1.3.0.617)... Done in 2 seconds.
- Data upgrade step 47/59, OcsServiceUpgradeRegistration(1.3.0.617)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 48/59, NSFUpgradeService(1.3.0.630)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 49/59, NSFUpgradeService(1.3.0.631)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 50/59, CertMgmtUpgradeService(1.3.0.634)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 51/59, RBACUpgradeService(1.3.0.650)... Done in 8 seconds.
- Data upgrade step 52/59, CertMgmtUpgradeService(1.3.0.653)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 53/59, NodeGroupUpgradeService(1.3.0.655)... Done in 1 seconds.
- Data upgrade step 54/59, RBACUpgradeService(1.3.0.670)... Done in 4 seconds.
- Data upgrade step 55/59, ProfilerUpgradeService(1.3.0.670)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 56/59, NSFUpgradeService(1.3.0.676)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 57/59, AuthzUpgradeService(1.3.0.676)... Done in 10 seconds.
- Data upgrade step 58/59, GuestAccessUpgradeService(1.3.0.676)... Done in 231 seconds.
- Data upgrade step 59/59, ProvisioningUpgradeService(1.3.105.181)... Done in 51 seconds.
STEP 7: Running ISE configuration data upgrade for node specific data...
STEP 8: Running ISE M&T DB upgrade...
ISE Database Mnt schema upgrade completed.

Gathering Config schema(CEPM) stats .....
Gathering Operational schema(MNT) stats .....
Stopping ISE Database processes...
% NOTICE: The appliance will reboot twice to upgrade software and ADE-OS. During this time
progress of the upgrade is visible on console. It could take up to 30 minutes for this to
complete.
Rebooting to do Identity Service Engine upgrade...

```

## 関連トピック

- [application configure, \(10 ページ\)](#)
- [application install, \(9 ページ\)](#)
- [application remove, \(18 ページ\)](#)

[application reset-config](#), (19 ページ)  
[application reset-passwd](#), (21 ページ)  
[application start](#), (22 ページ)  
[application stop](#), (25 ページ)  
[show application](#), (83 ページ)

## backup

バックアップ (Cisco ISE と Cisco ADE OS データを含む) を実行して、そのバックアップをリポジトリに配置するには、EXEC モードで **backup** コマンドを使用します。



- (注) EXEC モードで **backup** コマンドの使用を試みる前に、ネットワーク サーバなどの安全な場所に現在の設定をコピーするか、Cisco ISE サーバスタートアップ コンフィギュレーションとして保存する必要があります。このスタートアップ コンフィギュレーションは、バックアップおよびシステム ログから Cisco ISE を復元またはトラブルシューティングの際に使用できます。

```
backup [{backup-name} repository {repository-name} ise-config encryption-key hash| plain
{encryption-key name}]
```

```
backup [{backup-name} repository {repository-name} ise-operational encryption-key hash| plain
{encryption-key name}]
```

### 構文の説明

<i>backup-name</i>	バックアップ ファイルの名前。最大 100 文字の英数字をサポートします。
<b>repository</b>	バックアップ ファイルを保存するリポジトリを指定します。
<i>repository-name</i>	ファイルをバックアップする場所。最大 80 文字の英数字をサポートします。
<b>ise-config</b>	Cisco ISE 設定データ (Cisco ISE ADE-OS を含む) をバックアップします。
<b>ise-operational</b>	Cisco ISE 動作データをバックアップします。
<b>encryption-key</b>	バックアップを保護するユーザ定義の暗号化キーを指定します。
<b>hash</b>	使用する暗号化された (ハッシュされた) 暗号キーを指定 (バックアップ保護のためのハッシュ暗号キー) します。最大 40 文字までサポートします。

---

<b>plain</b>	使用する暗号化されていないプレーンテキスト暗号キーを指定（バックアップ保護のためのプレーンテキスト暗号キー）します。15文字までで指定します。
<i>encryption-key name</i>	バックアップ用のハッシュ/プレーン フォーマットの暗号キー。

---

---

#### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

---

#### コマンド モード

EXEC

---

#### 使用上のガイドライン

暗号化された（ハッシュされた）パスワードまたは暗号化されていないプレーンテキストのパスワードと **ise-config** を組み合わせてリポジトリで Cisco ISE と Cisco ADE OS データのバックアップを実行する際に、ユーザ定義の暗号キーを使用してバックアップを暗号化および復号化できます。Cisco ADE OS データなしで Cisco ISE アプリケーションデータだけをバックアップするには、**ise-operational** コマンドを使用します。

プライマリまたはセカンダリ モニタリング ノードからのみ Cisco ISE 動作データをバックアップできます。

**重要**

バックアップと復元を行う場合、復元では、ターゲットシステムの信頼できる証明書の一覧がソース システムの証明書の一覧で上書きされます。バックアップおよび復元機能に内部認証局 (CA) の証明書に関連付けられた秘密キーが含まれないことに注意することが非常に重要です。

1つのシステムから別のシステムにバックアップと復元を行う場合は、エラーを回避するために、次のオプションのいずれかを選択する必要があります。

**• オプション 1 :**

CA 証明書をソース ISE ノードから CLI を使用してエクスポートし、ターゲット システムに CLI を使用してインポートします。

**長所 :** ソース システムからエンドポイントに発行されたすべての証明書が引き続き信頼されます。ターゲット システムによって発行された新しい証明書は、同じキーによって署名されます。

**短所 :** 復元機能を使用する前にターゲット システムによって発行された証明書は信頼されないため、再発行する必要があります。

**• オプション 2 :**

復元処理の後、内部 CA のすべての新しい証明書を生成します。

**長所 :** このオプションは推奨される適切な方法です。元のソースの証明書も元のターゲットの証明書も使用されません。元のソース システムによって発行された証明書は引き続き信頼されます。

**短所 :** 復元機能を使用する前にターゲット システムによって発行された証明書は信頼されないため、再発行する必要があります。

**関連トピック**

[backup-logs, \(33 ページ\)](#)

[repository, \(169 ページ\)](#)

[restore, \(63 ページ\)](#)

[show backup, \(85 ページ\)](#)

[show repository, \(107 ページ\)](#)

[show restore, \(107 ページ\)](#)

## Cisco ISE 設定データのバックアップ

Cisco ISE 設定データをバックアップするには、次のコマンドを使用します。

```
backup mybackup repository myrepository ise-config encryption-keyplainlablab12
```

## 例

```
ise/admin# backup test repository disk ise-config encryption-key plain Test_1234
Internal CA Store is not included in this backup. It is recommended to export it using
"application configure ise" CLI command
Creating backup with timestamped filename: test-CFG-141006-1350.tar.gpg
backup in progress: Starting Backup...10% completed
backup in progress: Validating ISE Node Role...15% completed
backup in progress: Backing up ISE Configuration Data...20% completed
backup in progress: Backing up ISE Logs...45% completed
backup in progress: Completing ISE Backup Staging...50% completed
backup in progress: Backing up ADEOS configuration...55% completed
backup in progress: Moving Backup file to the repository...75% completed
backup in progress: Completing Backup...100% completed
ise/admin#
```

## Cisco ISE 動作データのバックアップ

Cisco ISE 動作データをバックアップするには、次のコマンドを使用します。

```
backup mybackup repository myrepository ise-operational encryption-key plainlabl12
```

## 例

```
ise/admin# backup mybackup repository myrepository ise-operational encryption-key plain
labl12
backup in progress: Starting Backup...10% completed
Creating backup with timestamped filename: mybackup-OPS-130103-0019.tar.gpg
backup in progress: starting dbbackup using expdp.....20% completed
backup in progress: starting cars logic.....50% completed
backup in progress: Moving Backup file to the repository...75% completed
backup in progress: Completing Backup...100% completed
ise/admin#
```

## backup-logs

システム ログをバックアップするには、EXEC モードで **backup-logs** コマンドを使用します。この機能を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。



(注)

EXEC モードでの **backup-logs** コマンドの使用を試みる前に、ネットワーク サーバなどの安全な場所に現在の設定をコピーするか、Cisco ISE サーバスタートアップ コンフィギュレーションとして保存する必要があります。このスタートアップ コンフィギュレーションは、バックアップおよびシステム ログから Cisco ISE を復元またはトラブルシューティングする際に使用できます。

```
backup-logs [{backup-name} repository {repository-name} encryption-key hash | plain {encryption-key name}]
```

### 構文の説明

<i>backup-name</i>	バックアップする 1 つまたは複数のファイルの名前。最大 100 文字の英数字をサポートします。
--------------------	--

<b>repository</b>	リポジトリ コマンド。
<i>repository-name</i>	ファイルをバックアップする場所。最大 80 文字の英数字をサポートします。
<b>encryption-key</b>	暗号キーを指定して、バックアップ ログを保護します。
<b>hash</b>	バックアップ ログを保護するためのハッシュされた暗号キー。使用する暗号化された（ハッシュ化された）暗号化キーを指定します。最大 40 文字までサポートします。
<b>plain</b>	バックアップ ログを保護するためのプレーン テキスト暗号キー。使用する暗号化されたプレーンテキストの暗号化キーを指定します。15 文字までで指定します。
<i>encryption-key name</i>	hash   plain 形式の暗号キー。

#### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

#### コマンド モード

EXEC

#### 使用上のガイドライン

暗号化された（ハッシュされた）、または暗号化されていないプレーン テキストのパスワードを使用して、システム ログをバックアップします。

#### 例

```
ise/admin# backup-logs Test repository disk encryption-key plain Test_1234
% Creating log backup with timestamped filename: Test-141006-1351.tar.gpg
% supportbundle in progress: Copying database config files...10% completed
% supportbundle in progress: Copying debug logs...20% completed
% supportbundle in progress: Copying local logs...30% completed
% supportbundle in progress: Copying monitor logs...40% completed
% supportbundle in progress: Copying policy xml...50% completed
% supportbundle in progress: Copying system logs...60% completed
% supportbundle in progress: Moving support bundle to the repository...75% completed
% supportbundle in progress: Completing support bundle generation.....100% completed
ise/admin#
```

#### 関連トピック

- [backup, \(30 ページ\)](#)
- [restore, \(63 ページ\)](#)
- [repository, \(169 ページ\)](#)



[show backup](#), (85 ページ)

[show restore](#), (107 ページ)

## clock

システムクロックを設定するには、EXEC モードで **clock** コマンドを使用します。システムクロックをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**clock** [ **set** {*month* | *day* | *hh:mm:ss* | *yyyy*} ]

### 構文の説明

<b>set</b>	システムクロックを設定します。
<i>month</i>	現在の月の名前。3文字までの英字をサポートします。たとえば、January は Jan と指定します。
<i>day</i>	現在の日（日付）。有効な値は 0 ~ 31 の範囲です。最大2桁の数字をサポートします。
<i>hh:mm:ss</i>	現在の時間（24時間形式）、分、および秒。
<i>yyyy</i>	現在の年（短縮表記しない）。

### コマンドデフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンドモード

EXEC

### 使用上のガイドライン



#### 注意

Cisco ISE アプライアンスのシステム時刻を変更すると、Cisco ISE アプリケーションを使用できなくなります。

システムクロックを設定します。変更を有効にするには、クロックをリセット後に Cisco ISE サーバを再起動する必要があります。システム時間を変更した場合、導入の異なる Cisco ISE ノードタイプに影響を与えます。

影響から回復するには、次の手順を使用します。

## スタンドアロンまたはプライマリ ISE ノード



(注) インストール後のシステム時刻の変更は、スタンドアロンまたはプライマリ ISE ノードでサポートされていません。

誤ってシステム時刻を変更した場合は、次の手順を実行します。

- 元のシステム時刻（変更される前の時刻）に戻します。
- そのノードの CLI から **application reset-config ise** コマンドを実行します。
- そのノードで時刻が変更される前の、正常な既知の最終バックアップから復元します。

## セカンダリ ISE ノード



(注) セカンダリ ノードでシステム時刻を変更すると、導入に使用できなくなります。

プライマリ ノードとセカンダリ ノードのシステム時刻を同期するには、次の手順を実行します。

- セカンダリ ISE ノードを登録解除します。
- プライマリ ISE ノードと同期するようにシステム時刻を修正します。
- プライマリ ISE ノードの CLI から **application reset-config ise** コマンドを実行します。
- プライマリ ISE ノードにセカンダリ ISE ノードとして ISE ノードを再登録します。



(注) インストール時に設定された正しいシステム時刻に確実に設定されるように、セットアップ ウィザードによってネットワーク タイム プロトコル (NTP) サーバの指定が要求され、このサーバとの同期が試行されます。セットアップ中に設定された NTP サーバが常に到達可能であり、システム時刻が常に正確さを保つようにする必要があります。これは、特に、電源の障害や CMOS バッテリーの障害によって BIOS 時刻が破損するというまれな状況において重要です。この場合、リブート時に Cisco ADE-OS のシステム時刻が破損するおそれがあります。セットアップ中に NTP サーバを設定しない場合は、『Cisco Identity Services Engine Hardware Installation Guide, Release 1.2』に記載されているように、協定世界時 (UTC) 時間帯と比較して、システムの BIOS 時刻が設定されていることを確認する必要があります。

## 例

```
ise/admin# clock set August 30 18:07:20 2013
ise/admin# show clock
Fri Aug 30 18:07:26 UTC 2013
ise/admin#
```

## 関連トピック

[show clock](#), (88 ページ)

# configure

コンフィギュレーションモードを開始するには、EXEC モードで **configure** コマンドを使用します。

## configure terminal

### 構文の説明

<b>terminal</b>	コンフィギュレーション コマンドを端末から実行します。
-----------------	-----------------------------

### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンド モード

EXEC

### 使用上のガイドライン

コンフィギュレーションモードを開始するには、このコマンドを使用します。このモードのコマンドは、入力するとすぐに、実行コンフィギュレーションファイルへの書き込みを行うことに注意してください。

コンフィギュレーションモードを終了して EXEC モードに戻るには、**end** または **exit** と入力するか、**Ctrl+z** キーを押します。

コンフィギュレーションに加えた変更内容を表示するには、EXEC モードで **show running-config** コマンドを使用します。

このコマンドで **replace** オプションを使用する場合、既存のコンフィギュレーションを上書きするシステムにリモート コンフィギュレーションをコピーします。

## 例

```
ise/admin# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
ise/admin(config)#
```

## 関連トピック

[show running-config](#), (108 ページ)

[show startup-config](#), (109 ページ)

# copy

ファイルをコピー元からコピー先にコピーするには、EXEC モードで **copy** コマンドを使用します。



(注) **copy** コマンドは、ローカルディスクに対してだけサポートされており、リポジトリに対してはサポートされていません。

## 構文の説明

<b>running-config</b>	現在の実行コンフィギュレーション ファイルを表します。
<b>startup-config</b>	初期化 (スタートアップ) 時に使用されたコンフィギュレーション ファイルを表します。
<i>protocol</i>	コピーの宛先。 <b>protocol</b> のキーワードオプションについては、表 2-1 を参照してください。
<i>hostname</i>	コピー先のホスト名。
<i>location</i>	コピー先の場所。 現在の実行コンフィギュレーション ファイルを表します。
<b>logs</b>	システムのログ ファイル。
<b>all</b>	すべての Cisco ISE ログ ファイルをシステムから別の場所にコピーします。すべてのログは、 <b>iselogs.tar.gz</b> としてパッケージ化され、リモートホストの指定されたディレクトリに転送されます。
<b>filename</b>	単一の Cisco ISE ログ ファイルをコピーし、そのファイルをリモートホストにある指定されたディレクトリに、元の名前で転送できます。
<i>log_filename</i>	<b>show logs</b> コマンドによって表示される Cisco ISE ログ ファイルの名前 (255 文字以内)。
<b>mgmt</b>	Cisco ISE 管理デバッグ ログと Tomcat ログをシステムからコピーし、 <b>mgmtlogs.tar.gz</b> としてバンドルしたうえで、リモートホスト上の指定されたディレクトリに転送します。
<b>runtime</b>	Cisco ISE ランタイムデバッグ ログをシステムからコピーし、 <b>runtimelogs.tar.gz</b> としてバンドルしたうえで、リモートホスト上の指定されたディレクトリに転送します。

**コマンド デフォルト**

デフォルトの動作や値はありません。

**コマンド モード**

EXEC

**使用上のガイドライン**

Cisco ISE の **copy** コマンドは、実行コンフィギュレーションまたはスタートアップ コンフィギュレーションとログ ファイルをシステムから別の場所にコピーします。

**copy** コマンドの基本的な機能として、1つの場所から別の場所に、ファイル（システムイメージやコンフィギュレーションファイルなど）をコピーできます。指定したファイルのコピー元およびコピー先には、Cisco ISE ファイルシステムを使用して、サポートされているローカルまたはリモートファイルの場所を指定できます。使用されているファイルシステム（ローカルメモリソースまたはリモートシステム）によって、コマンドで使用される構文が決定されます。

必要なすべてのコピー元とコピー先の情報、および使用するユーザ名とパスワードを入力できます。または、**copy** コマンドを入力して、不足情報がある場合にサーバにプロンプトを表示させることができます。

コピー プロセスが完全に完了するまでには、数分間かかることがあります。これは、使用しているプロトコルやネットワークによって異なります。

ファイル転送には、ディレクトリに対する相対ファイル名を使用します。

考えられるエラーは標準ファイル転送プロトコル（FTP）またはセキュアコピー（SCP）のエラーメッセージです。

表 3: 表 2-1 *protocol* のプレフィクス キーワード（続き）

キーワード	コピー元またはコピー先
<b>ftp</b>	FTP ネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL。 このエイリアスの構文： ftp:[[/username [:password]@]location]/directory]/filename
<b>scp</b>	SCP ネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL。 このエイリアスの構文： scp:[[/username [:password]@]location]/directory]/filename
<b>sftp</b>	SFTP ネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL。 このエイリアスの構文： sftp:[[/location]/directory]/filename

キーワード	コピー元またはコピー先
<b>tftp</b>	TFTP ネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL。 このエイリアスの構文： tftp:[[/location]/directory]/filename

## 実行コンフィギュレーション

Cisco ISE のアクティブなコンフィギュレーションでは、そのコンフィギュレーション自体が Cisco ISE RAM に保存されます。入力するすべてのコンフィギュレーション コマンドは、実行コンフィギュレーションに含まれます。Cisco ISE サーバをリブートすると、実行コンフィギュレーションが失われます。加えた変更を保存する場合は、実行コンフィギュレーションをネットワークサーバなどの安全な場所にコピーするか、Cisco ISE サーバのスタートアップコンフィギュレーションとして保存する必要があります。

実行コンフィギュレーションを保存しない場合、次回 Cisco ISE サーバをリブートしたときに、コンフィギュレーションに加えた変更がすべて失われます。現在のコンフィギュレーションが正しいことを確認したら、**copy run start** コマンドを使用して、コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーします。



(注) エイリアスを使用すると、入力を省力化できます。たとえば、**copy run** を入力し、Tab キーを押し、**start** と入力して Tab キーを押します。これは、**copy running-config startup-config** コマンドの省略形です。

スタートアップコンフィギュレーションを実行コンフィギュレーションに置き換えるには、次のコマンドを使用します。

### **copy run start**

実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーするには、次のコマンドを使用します。

### **copy running-config startup-config**

実行コンフィギュレーションの上部にスタートアップコンフィギュレーションをマージするには、次のコマンドを使用します。

### **copy start run**

#### 例 1

```
ise/admin# copy run start
Generating configuration...
ise/admin#
```

#### 例 2

```
ise/admin# copy running-config startup-config
```

```
Generating configuration...
ise/admin#
```

## リモート ロケーションへの実行コンフィギュレーションのコピー

実行コンフィギュレーションをリモートシステムにコピーするには、次のコマンドを使用します。

```
copy running-config [protocol://hostname/location]
```

## リモート ロケーションからの実行コンフィギュレーションのコピー

実行コンフィギュレーションにリモートファイルをコピーしてマージするには、次のコマンドを使用します。

```
copy [protocol://hostname/location] running-config : 実行コンフィギュレーションにリモートファイルをコピーしてマージします。
```

## スタートアップコンフィギュレーション

スタートアップコンフィギュレーションは直接編集できません。入力するすべてのコマンドは、実行コンフィギュレーションに保存され、実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーすることができます。

つまり、Cisco ISE サーバをブートすると、スタートアップコンフィギュレーションが最初の実行コンフィギュレーションとなります。コンフィギュレーションを変更すると、実行コンフィギュレーションは更新されますがスタートアップコンフィギュレーションは変更されないため、2つのコンフィギュレーションに差異が生じます。変更を永続的なものにするには、実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーする必要があります。

スタートアップコンフィギュレーションを実行コンフィギュレーションにコピーするには、次のコマンドを使用します。

```
copy startup-config running-config
```

### 例 1

```
ise/admin# copy start run
ise/admin#
```

### 例 2

```
ise/admin# copy startup-config running-config
ise/admin#
```

## リモート ロケーションへのスタートアップコンフィギュレーションのコピー

スタートアップコンフィギュレーションをリモートシステムにコピーするには、次のコマンドを使用します。

```
copy startup-config [protocol://hostname/location]
```

## リモート ロケーションからのスタートアップ コンフィギュレーションのコピー

リモート ファイルをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーしてもマージしない場合は、次のコマンドを使用します。

**copy [protocol://hostname/location] startup-config** : リモート ファイルをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーしますが、マージしません。

## ログ ファイルのコピー

Cisco ISE システムから別の場所にログ ファイルをコピーするには、次の **copy** コマンドを使用します。

```
copy logs [protocol://hostname/location]
```

### 例 1

ログ ファイルをローカル ディスクにコピーするには、次のコマンドを使用します。

```
ise/admin# copy logs disk:/
Collecting logs...
ise/admin#
```

### 例 2

ログ ファイルを別の場所にコピーするには、次のコマンドを使用します。

```
ise/admin# copy disk://mybackup-100805-1910.tar.gz ftp://myftpserver/mydir
Username:
Password:
ise/admin#
```

## crypto

新しい公開キー ペアを生成するには、現在の公開キーをリポジトリにエクスポートし、公開キーを許可キー リストにインポートします。EXEC モードで **crypto** コマンドを使用します。公開キー情報を確認し、指定したキーを削除することもできます。

```
crypto key [ delete {hash | authorized_keys | rsa}]
```

```
crypto key [ export {filename | repository}]
```

```
crypto key [ generate {rsa}]
```

```
crypto key [ import {filename | repository}]
```

### 構文の説明

key	暗号キー操作を実行できます。
-----	----------------



<b>delete</b>	公開キー/秘密キー ペアを削除します。
<i>hash</i>	ハッシュ値。80 文字までで指定します。
<i>authorized_keys</i>	許可キーを削除します。
<i>rsa</i>	RSA キー ペアを削除します。
<b>export</b>	リポジトリに公開キー/秘密キーペアをエクスポートします。
<i>filename</i>	公開キーをエクスポートするファイル名。80 文字までで指定します。
<i>repository</i>	公開キーをエクスポートするリポジトリ。
<b>generate</b>	公開/秘密キー ペアを生成します。
<i>rsa</i>	RSA キー ペアを生成します。
<b>import</b>	公開キー/秘密キー ペアをインポートします。
<i>filename</i>	公開キーをインポートするファイル名。80 文字までで指定します。
<i>repository</i>	公開キーをインポートするリポジトリ。
<b>host_key</b>	ホスト キー操作を実行できます。
<b>add</b>	信頼できるホストのキーを追加します。
<b>host</b>	ホスト名を指定します。
<b>delete</b>	信頼できるホストのキーを削除します。

**コマンド デフォルト**

デフォルトの動作や値はありません。

**コマンド モード**

EXEC

**使用上のガイドライン**

Cisco ADE OS では、管理者およびユーザの ID への SSH アクセスのためにパスワードなしの公開キー認証をサポートします。

現在のユーザ用の 2048 ビット長の新しい公開/秘密キー ペアを生成するには、**crypto key generate rsa** コマンドを使用します。キー属性は固定で、RSA キー タイプをサポートしています。キーペアがすでにある場合は、パスフレーズを使用して続行する前に上書きを許可するようにメッセージが表示されます。パスフレーズを入力すると、公開/秘密キーにアクセスするたびにパスフレーズを入力するように促されます。パスフレーズが空の場合は、それ以降、パスフレーズを入力するよう促されません。

### 例 1

```
ise/admin# crypto key generate rsa
Enter passphrase (empty for no passphrase):
Enter same passphrase again:
ise/admin# show crypto key
admin public key: ssh-rsa ad:14:85:70:fa:c3:cl:e6:a9:ff:b1:b0:21:a5:28:94 admin@ise
ise/admin# crypto key generate rsa
Private key for user admin already exists. Overwrite? y/n [n]: y
Enter passphrase (empty for no passphrase):
Enter same passphrase again:
ise/admin# show crypto key
admin public key: ssh-rsa 41:ab:78:26:48:d3:f1:6f:45:0d:99:d7:0f:50:9f:72 admin@ise
ise/admin# crypto key export mykey_rsa repository myrepository
ise/admin# show crypto key
admin public key: ssh-rsa f8:7f:8a:79:44:b8:5d:5f:af:e1:63:b2:be:7a:fd:d4 admin@ise
ise/admin# crypto key delete f8:7f:8a:79:44:b8:5d:5f:af:e1:63:b2:be:7a:fd:d4
ise/admin#
ise/admin# crypto key delete rsa
ise/admin# show crypto key
ise/admin#
ise/admin# show crypto authorized_keys
Authorized keys for admin
ise/admin# crypto key delete authorized_keys
ise/admin# show crypto authorized_keys
ise/admin#
ise/admin# crypto key import mykey_rsa repository myrepository
ise/admin# show crypto key
admin public key: ssh-rsa f8:7f:8a:79:44:b8:5d:5f:af:e1:63:b2:be:7a:fd:d4 admin@ise
ise/admin#
```

### 例 2

```
ise/admin# crypto host_key add host ise
host key fingerprint added
# Host ise found: line 1 type RSA
2048 1d:72:73:6e:ad:f7:2d:11:ac:23:e7:8c:81:32:c5:ea ise (RSA)
ise/admin#
ise/admin# crypto host_key delete host ise
host key fingerprint for ise removed
ise/admin#
```

### 関連トピック

[show crypto](#), (91 ページ)

## debug

実行したコマンドのエラーまたはイベントを表示するには、EXEC モードで **debug** コマンドを使用します。

### 構文の説明

```
debug [ all | application | backup-restore | cdp | config | copy | icmp | locks | logging | snmp | system |
transfer | user | utils ]
```

---

**application**

アプリケーション関連のエラーまたはイベントのデバッグをイネーブルにします。

- **all** : すべてのアプリケーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。
- **install** : アプリケーションのインストールのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。
- **operation** : アプリケーション操作のデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。
- **uninstall** : アプリケーションのアンインストールのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。

---

**backup-restore**

バックアップと復元関連のエラーまたはイベントのデバッグをイネーブルにします。

- **all** : バックアップおよび復元で、すべてのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。
  - **backup** : バックアップおよび復元で、バックアップのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。
  - **backup-logs** : バックアップおよび復元で、バックアップログのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。
  - **history** : バックアップおよび復元で、履歴のデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。
  - **restore** : バックアップおよび復元で、復元のデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。
-

---

**cdp**

Cisco Discovery Protocol 設定関連のエラーまたはイベントのデバッグをイネーブルにします。

- **all** : すべての Cisco Discovery Protocol コンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。
- **config** : Cisco Discovery Protocol のコンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。
- **infra** : Cisco Discovery Protocol のインフラストラクチャのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。

---

**config**

Cisco ISE 設定関連のエラーまたはイベントのデバッグをイネーブルにします。

- **all** : すべてのコンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。
  - **backup** : バックアップコンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。
  - **clock** : クロックコンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。
  - **infra** : コンフィギュレーションインフラストラクチャのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。
  - **kron** : コマンドスケジューラコンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。
  - **network** : ネットワークコンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。
  - **repository** : リポジトリコンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。
  - **service** : サービスコンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。
-

<b>copy</b>	copy コマンドのデバッグをイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。
<b>icmp</b>	<p>インターネット制御メッセージプロトコル (ICMP) エコー応答の設定に関連するエラーまたはイベントのデバッグをイネーブルにします。</p> <p><b>all</b> : ICMP エコー応答のコンフィギュレーションのすべてのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。</p>
<b>locks</b>	<p>リソースロック関連のエラーまたはイベントのデバッグをイネーブルにします。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• <b>all</b> : すべてのリソース ロッキングのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。</li><li>• <b>file</b> : ファイル ロッキングのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。</li></ul>
<b>logging</b>	<p>ロギング コンフィギュレーション関連のエラーまたはイベントのデバッグをイネーブルにします。</p> <p><b>all</b> : すべてのロギング コンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。</p>
<b>snmp</b>	<p>SNMP 設定関連のエラーまたはイベントのデバッグをイネーブルにします。</p> <p><b>all</b> : すべての SNMP コンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。</p>

<b>system</b>	<p>Cisco ISE システム関連のエラーおよびイベントのデバッグをイネーブルにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>all</b> : すべてのシステムファイルのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。</li> <li>• <b>id</b> : システムIDのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。</li> <li>• <b>info</b> : システム情報のデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。</li> <li>• <b>init</b> : システムの初期化のデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。</li> </ul>
<b>transfer</b>	<p>ファイル転送のデバッグをイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。</p>
<b>user</b>	<p>ユーザ管理のデバッグをイネーブルにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>all</b> : すべてのユーザ管理のデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。</li> <li>• <b>password-policy</b> : パスワードポリシーのユーザ管理のデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。</li> </ul>
<b>utils</b>	<p>ユーティリティ設定関連のエラーまたはイベントのデバッグをイネーブルにします。</p> <p><b>all</b> : すべてのユーティリティ コンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてを示します。</p>

**コマンド デフォルト**

デフォルトの動作や値はありません。

**コマンド モード**

EXEC

## 使用上のガイドライン

セットアップや設定の失敗など、Cisco ISE サーバ内のさまざまなエラーまたはイベントを表示するには **debug** コマンドを使用します。

## 例

```
ise/admin# debug all
ise/admin# mkdir disk:/1
ise/admin# 6 [15347]: utils: vsh_root_stubs.c[2742] [admin]: mkdir operation success
ise/admin# rmdir disk:/1
6 [15351]: utils: vsh_root_stubs.c[2601] [admin]: Invoked Remove Directory disk:/1 command
6 [15351]: utils: vsh_root_stubs.c[2663] [admin]: Remove Directory operation success
ise/admin#
ise/admin# undebug all
ise/admin#
```

## 関連トピック

[undebug](#), (76 ページ)

# delete

Cisco ISE サーバからファイルを削除するには、EXEC モードで **delete** コマンドを使用します。削除中のファイルを Cisco ISE サーバから除去するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**delete** [*filename disk:/path*]

## 構文の説明

<i>filename</i>	ファイル名。最大 80 文字の英数字をサポートします。
<i>disk:/path</i>	リポジトリ内のファイルの場所。

## コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンド モード

EXEC

## 使用上のガイドライン

コンフィギュレーションファイルまたはイメージを削除しようとする、削除を確認するためのプロンプトが表示されます。また、最新の有効なシステムイメージを削除しようとした場合も、削除を確認するためのプロンプトが表示されます。

## 例

```
ise/admin# delete disk:/hs_err_pid19962.log
ise/admin#
```

## 関連トピック

[dir](#), (50 ページ)

## dir

Cisco ISE サーバ上のファイルを一覧表示するには、EXEC モードで **dir** コマンドを使用します。この機能を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**dir**

**dir** *disk:/logs*

**dir recursive**

---

**構文の説明**

<i>directory-name</i>	ディレクトリ名。最大 80 文字の英数字をサポートします。ディレクトリ名の前には <b>disk:/</b> を指定する必要があります。
<b>recursive</b>	(任意)。ローカル ファイル システムのディレクトリとファイルを一覧表示します。

---

**コマンド デフォルト**

デフォルトの動作や値はありません。

---

**コマンド モード**

EXEC

---

**使用上のガイドライン**

なし。

**例 1**

```
ise/admin# dir
Directory of disk:/
 2034113 Aug 05 2010 19:58:39 ADElogs.tar.gz
   4096 Jun 10 2010 02:34:03 activemq-data/
   4096 Aug 04 2010 23:14:53 logs/
 16384 Jun 09 2010 02:59:34 lost+found/
2996022 Aug 05 2010 19:11:16 mybackup-100805-1910.tar.gz
   4096 Aug 04 2010 23:15:20 target/
   4096 Aug 05 2010 12:25:55 temp/
```



```
Usage for disk: filesystem
                8076189696 bytes total used
                6371618816 bytes free
                15234142208 bytes available

ise/admin#
```

## 例 2

```
ise/admin# dir disk:/logs
0 Aug 05 2010 11:53:52 usermgmt.log
Usage for disk: filesystem
                8076189696 bytes total used
                6371618816 bytes free
                15234142208 bytes available

ise/admin#
```

## 例 3

```
ise/admin# dir recursive
Directory of disk:/
 2034113 Aug 05 2010 19:58:39 ADElogs.tar.gz
   4096 Jun 10 2010 02:34:03 activemq-data/
   4096 Aug 04 2010 23:14:53 logs/
  16384 Jun 09 2010 02:59:34 lost+found/
2996022 Aug 05 2010 19:11:16 mybackup-100805-1910.tar.gz
   4096 Aug 04 2010 23:15:20 target/
   4096 Aug 05 2010 12:25:55 temp/
Directory of disk:/logs
Directory of disk:/temp
Directory of disk:/activemq-data
Directory of disk:/activemq-data/localhost
Directory of disk:/activemq-data/localhost/journal
Directory of disk:/activemq-data/localhost/kr-store
Directory of disk:/activemq-data/localhost/kr-store/data
Directory of disk:/activemq-data/localhost/kr-store/state
Directory of disk:/activemq-data/localhost/tmp_storage
Directory of disk:/target
Directory of disk:/target/logs
Directory of disk:/lost+found
Usage for disk: filesystem
                8076189696 bytes total used
                6371618816 bytes free
                15234142208 bytes available

ise/admin#
```

## 関連トピック

[delete](#), (49 ページ)

# exit

Cisco ISE サーバからのログアウトにより、アクティブなターミナルセッションを終了するか、コンフィギュレーションモードから 1 つ上のモードレベルに移行するには、EXEC モードで **exit** コマンドを使用します。

このコマンドには、キーワードおよび引数はありません。

## exit

### コマンド モラボルト

EXEC ルートの動作や値はありません。

## 例

```
ise/admin# config t
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
ise/admin(config)# exit
ise/admin#
```

## 関連トピック

[end](#), (136 ページ)

[exit](#), (137 ページ)

# forceout

ユーザを Cisco ISE サーバからのログアウトにより、アクティブなターミナルセッションを強制的に終了させるには、EXEC モードで **forceout** コマンドを使用します。

**forceout** *username*

## 構文の説明

---

<i>username</i>	ユーザ名。最大 31 文字の英数字をサポートします。
-----------------	----------------------------

---

## コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンド モード

EXEC

## 使用上のガイドライン

EXEC モードで **forceout** コマンドを使用して、ユーザのアクティブなセッションを強制的に終了させます。

## 例

```
ise/admin# forceout user1
ise/admin#
```

# halt

システムをシャットダウンしてシステムの電源を切るには、EXEC モードで **halt** コマンドを使用します。

このコマンドには、キーワードおよび引数はありません。

**halt****コマンド デフォルト**

デフォルトの動作や値はありません。

**コマンド モード**

EXEC

**使用上のガイドライン**

**halt** コマンドを発行する前に、Cisco ISE が、バックアップ、復元、インストール、アップグレード、または削除操作の実行中ではないことを確認します。Cisco ISE がこれらのいずれかの操作を行っている間に **halt** コマンドを発行すると、次のいずれかの警告メッセージが表示されます。

```
WARNING: A backup or restore is currently in progress! Continue with halt?
```

```
WARNING: An install/upgrade/remove is currently in progress! Continue with halt?
```

これらのいずれかの警告が表示された場合、強制終了処理を続行するには **Yes** と入力し、強制終了をキャンセルするには **No** と入力します。

**halt** コマンドの使用時にプロセスが実行されていない場合、または表示される警告メッセージに応じて **Yes** と入力した場合は、次の質問に回答する必要があります。

```
Do you want to save the current configuration?
```

既存の Cisco ISE 設定を保存するために **Yes** と入力すると、次のメッセージが表示されます。

```
Saved the running configuration to startup successfully
```

**例**

```
ise/admin# halt
ise/admin#
```

**関連トピック**

[reload, \(62 ページ\)](#)

# help

Cisco ISE サーバのインタラクティブ ヘルプ システムを表示するには、EXEC モードで **help** コマンドを使用します。

このコマンドには、キーワードおよび引数はありません。

**help****使用上のガイドライン**

**help** コマンドの動作や値はありませぬ。状態依存ヘルプシ (config) の簡単な説明が表示されます。

- 特定のコマンドモードで使用可能なすべてのコマンドを一覧表示するには、システムプロンプトで疑問符 (?) を入力します。
- 特定の文字列で始まるコマンドのリストを取得するには、省略形のコマンドエントリと直後に ? を入力します。このヘルプの形式は、入力された省略形で始まるキーワードまたは引数だけ一覧表示するので、ワードヘルプと呼ばれます。
- コマンドに関連するキーワードおよび引数の一覧を表示するには、コマンドラインで、キーワードまたは引数の代わりに ? を入力します。このヘルプの形式は、入力したコマンド、キーワード、および引数に基づいて適用されるキーワードまたは引数を一覧表示するので、コマンド構文ヘルプと呼ばれます。

### 例

```
ise/admin# help
Help may be requested at any point in a command by entering
a question mark '?'. If nothing matches, the help list will
be empty and you must backup until entering a '?' shows the
available options.
Two styles of help are provided:
1. Full help is available when you are ready to enter a
   command argument (e.g. 'show?') and describes each possible
   argument.
2. Partial help is provided when an abbreviated argument is entered
   and you want to know what arguments match the input
   (e.g. 'show pr?'.)
ise/admin#
```

## mkdir

Cisco ISE サーバに新しいディレクトリを作成するには、EXEC モードで **mkdir** コマンドを使用します。

**mkdir** *directory-name*

### 構文の説明

*directory-name* 作成するディレクトリの名前。最大 80 文字の英数字をサポートします。 *disk:/directory-name* を使用します。

### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンドモード

EXEC

## 使用上のガイドライン

`disk:/directory-name` の形式を使用します。使用しない場合、`disk:/directory-name` を含める必要があることを示すエラーが表示されます。

## 例

```
ise/admin# mkdir disk:/test
ise/admin# dir
Directory of disk:/
 4096 May 06 2010 13:34:49 activemq-data/
 4096 May 06 2010 13:40:59 logs/
16384 Mar 01 2010 16:07:27 lost+found/
 4096 May 06 2010 13:42:53 target/
 4096 May 07 2010 12:26:04 test/
Usage for disk: filesystem
                181067776 bytes total used
                19084521472 bytes free
                20314165248 bytes available
ise/admin#
```

## 関連トピック

[dir](#), (50 ページ)

[rmdir](#), (68 ページ)

# nslookup

Cisco ISE サーバにあるリモートシステムのホスト名を検索するには、EXEC モードで **nslookup** コマンドを使用します。

**nslookup** {*ip-address* |*hostname*}

**nslookup** [ {*ip-address* |*hostname*} **name-server** {*ip-address* }]

**nslookup** [ {*ip-address* |*hostname*} **querytype AAAA**]

## 構文の説明

<i>ip-address</i>	リモートシステムの IPv4 または IPv6 アドレス。最大 64 文字の英数字をサポートします。
<i>hostname</i>	リモートシステムのホスト名。最大 64 文字の英数字をサポートします。
<b>AAAA</b>	Web サイト名に対応する IPv6 アドレスのインターネット ドメインネーム サーバを照会します。
<b>name-server</b>	代替ネーム サーバを指定します。最大 64 文字の英数字をサポートします。

<b>querytype</b>	リモートシステムの IPv4 または IPv6 アドレス、あるいはホスト名を問い合わせます。これには、PTR、A、AAAA、SRV のようなクエリータイプも含まれます。最大 16 文字の英数字をサポートします。
------------------	---

## コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンド モード

EXEC

### 例 1

```
ise/admin# nslookup 1.2.3.4
Trying "4.3.2.1.in-addr.arpa"
Received 127 bytes from 171.70.168.183#53 in 1 ms
Trying "4.3.2.1.in-addr.arpa"
Host 4.3.2.1.in-addr.arpa. not found: 3(NXDOMAIN)
Received 127 bytes from 171.70.168.183#53 in 1 ms
ise/admin#
```

### 例 2

```
ise/admin# nslookup ipv6.google.com querytype AAAA
Server:          10.106.230.244
Address:         10.106.230.244#53
Non-authoritative answer:
ipv6.google.com canonical name = ipv6.l.google.com.
ipv6.l.google.com has AAAA address 2404:6800:4007:803::1001
Authoritative answers can be found from:
google.com      nameserver = ns4.google.com.
google.com      nameserver = ns3.google.com.
google.com      nameserver = ns2.google.com.
google.com      nameserver = ns1.google.com.
ns1.google.com  internet address = 216.239.32.10
ns2.google.com  internet address = 216.239.34.10
ns3.google.com  internet address = 216.239.36.10
ns4.google.com  internet address = 216.239.38.10
ise/admin#
```

# password

CLI アカウントのパスワードを更新するには、EXEC モードで **password** コマンドを使用します。

## password

### 構文の説明

Enter old password	現在の CLI パスワードを入力します。
--------------------	----------------------

Enter new password	新しい CLI パスワードを入力します。
Confirm new password	新しい CLI パスワードを確認します。

---

## コマンドモード

EXEC

### 例

```
ise/admin# password
Enter old password:
Enter new password:
Confirm new password:
ise/admin#
```

### 関連トピック

[password-policy](#), (167 ページ)

# patch install

この **patch install** コマンドを使用してパッチをインストールする前に、そのパッチで提供されているリリース ノートのパッチ インストールに関する手順を確認する必要があります。リリース ノートには、重要な更新手順が含まれており、従う必要があります。

CLI から特定のノードにアプリケーションのパッチバンドルをインストールするには、EXEC モードで **patch install** コマンドを使用します。

**patch install** *patch-bundle* **repository**



- (注) Cisco ISE 分散展開環境では、パッチバンドルがすべてのセカンダリ ノードに自動的にインストールされるように、プライマリ管理 ISE ノードからアプリケーションのパッチバンドルをインストールします。

---

## 構文の説明

<b>install</b>	アプリケーションの特定のパッチバンドルをインストールします。
<i>patch-bundle</i>	パッチバンドルのファイル名。最大 255 文字の英数字をサポートします。
<b>repository</b>	指定したリポジトリ名にパッチをインストールします。最大 255 文字の英数字をサポートします。

---

## コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

---

## コマンド モード

EXEC

---

## 使用上のガイドライン

アプリケーションの特定のパッチ バンドルをインストールします。

既存のパッチの古いバージョンであるパッチをインストールしようとする、次のエラー メッセージが表示されます。

```
% Patch to be installed is an older version than currently installed version.
```

CLI からパッチのインストール状態を確認するには、Cisco ISE サポートバンドルの `ade.log` ファイルを確認する必要があります。

### 例 1

```
ise/admin# patch install ise-patchbundle-1.1.0.362-3.i386.tar.gz myrepository
Do you want to save the current configuration? (yes/no) [yes]? yes
Generating configuration...
Saved the running configuration to startup successfully
Initiating Application Patch installation...
Patch successfully installed
ise/admin#
```

### 例 2

```
ise/admin# patch install ise-patchbundle-1.1.0.362-3.i386.tar.gz myrepository
Do you want to save the current configuration? (yes/no) [yes]? no
Initiating Application Patch installation...
Patch successfully installed
ise/admin#
```

### 例 3

```
ise/admin# patch install ise-patchbundle-1.1.0.362-2.i386.tar.gz disk
Do you want to save the current configuration? (yes/no) [yes]? yes
Generating configuration...
Saved the running configuration to startup successfully
Initiating Application Patch installation...
% Patch to be installed is an older version than currently installed version.
ise/admin#
```

## 関連トピック

[patch remove](#), (59 ページ)

[show version](#), (117 ページ)



## patch remove

この **patch remove** コマンドを使用してパッチをロールバックする前に、パッチで提供されているリリースノートのロールバックに関する手順を確認する必要があります。リリースノートには、重要な更新手順が含まれており、従う必要があります。

アプリケーションの特定のパッチバンドルのバージョンを削除するには、EXEC モードで **patch remove** コマンドを使用します。

**patch** [ **remove** {*application\_name* | *version*} ]



(注) Cisco ISE 分散展開環境では、パッチバンドルがセカンダリ ノードから自動的にアンインストールされるように、プライマリ管理 ISE ノードからアプリケーションのパッチバンドルを削除します。

### 構文の説明

<b>remove</b>	アプリケーションの特定のパッチバンドルのバージョンを削除するコマンド。
<i>application_name</i>	パッチが削除されるアプリケーションの名前。最大 255 文字の英数字をサポートします。
<i>version</i>	削除されるパッチバージョン番号。最大 255 文字の英数字をサポートします。

### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンド モード

EXEC

### 使用上のガイドライン

インストールされていないパッチを削除しようとする、次のエラーメッセージが表示されます。

```
% Patch is not installed
```

#### 例 1

```
ise/admin# patch remove ise 3
```

```
Continue with application patch uninstall? [y/n] y
Application patch successfully uninstalled
ise/admin#
```

## 例 2

```
ise/admin# patch remove ise 3
Continue with application patch uninstall? [y/n] y
% Patch is not installed
ise/admin#
```

## 関連トピック

[patch install](#), (57 ページ)

[show version](#), (117 ページ)

# ping

リモートシステムとの基本的な IPv4 ネットワーク接続を診断するには、EXEC モードで **ping** コマンドを使用します。

**ping** {*ip-address* | *hostname*} [**df** *df*] [**packetsize** *packetsize*] [**pingcount** *pingcount*]

## 構文の説明

<i>ip-address</i>	PING を実行するシステムの IP アドレス。最大 32 文字の英数字をサポートします。
<i>hostname</i>	PING を実行するシステムのホスト名。最大 32 文字の英数字をサポートします。
<b>df</b>	(任意)。パケットフラグメンテーションに関する指定。
<i>df</i>	パケットフラグメンテーションを禁止する場合は、値を 1 に指定し、ローカルにパケットをフラグメントする場合は 2、DF を設定しない場合は 3 に指定します。
<b>packetsize</b>	(任意)。PING パケットのサイズ。
<i>packetsize</i>	PING パケットのサイズを 0 ~ 65507 の範囲で指定します。
<b>pingcount</b>	(任意)。PING エコー要求の数。
<i>pingcount</i>	PING エコー要求の数を 1 ~ 10 の範囲で指定します。

## コマンド デフォルト

### コマンド モード

デフォルトの動作や値はありません。  
EXEC

## 使用上のガイドライン

**ping** コマンドはエコー要求パケットをあるアドレスに送信して応答を待ちます。ping 出力は、ホストへのパスの信頼性、パスの遅延、ホストに到達可能かどうかを評価するのに役立ちます。

### 例

```
ise/admin# ping 172.16.0.1 df 2 packetsize 10 pingcount 2
PING 172.16.0.1 (172.16.0.1) 10(38) bytes of data.
18 bytes from 172.16.0.1: icmp_seq=0 ttl=40 time=306 ms
18 bytes from 172.16.0.1: icmp_seq=1 ttl=40 time=300 ms
--- 172.16.0.1 ping statistics ---
2 packets transmitted, 2 received, 0% packet loss, time 1001ms
rtt min/avg/max/mdev = 300.302/303.557/306.812/3.255 ms, pipe 2
ise/admin#
```

### 関連トピック

[ping6](#), (61 ページ)

# ping6

リモートシステムとの基本的な IPv6 ネットワーク接続を診断するには、EXEC モードで **ping6** コマンドを使用します。これは、IPv4 の **ping** コマンドに似ています。

**ping6** {*ip-address*} [**GigabitEthernet** {*0-3*}][**packetsize** {*packetsize*}] [**pingcount** {*pingcount*}]

## 構文の説明

<i>ip-address</i>	PING を実行するシステムの IP アドレス。最大 64 文字の英数字をサポートします。
<b>GigabitEthernet</b>	(任意)。イーサネット インターフェイス。
<i>0-3</i>	イーサネット インターフェイスを選択します。
<b>packetsize</b>	(任意)。PING パケットのサイズ。
<i>packetsize</i>	PING パケットのサイズを 0 ~ 65507 の範囲で指定します。
<b>pingcount</b>	(任意)。PING エコー要求の数。
<i>pingcount</i>	PING エコー要求の数を 1 ~ 10 の範囲で指定します。

## コマンド デフォルト

### コマンド モード

デフォルトの動作や値はありません。

EXEC

## 使用上のガイドライン

**ping6** コマンドはエコー要求パケットをあるアドレスに送信して応答を待ちます。ping 出力は、ホストへのパスの信頼性、パスの遅延、ホストに到達可能かどうかを評価するのに役立ちます。

**ping6** コマンドは既存の ping コマンドと類似しています。ping6 コマンドは、IPv4 パケットフラグメンテーション (ping コマンドの説明にある df) オプションをサポートしませんが、インターフェイスをオプションで指定できます。インターフェイスオプションは、主にインターフェイス固有のアドレスであるリンクローカルアドレスとのピン接続に役立ちます。packetize および pingcount オプションは ping コマンドと同様に機能します。

### 例 1

```
ise/admin# ping6 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05
PING 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05 (3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05) from
3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05 eth0: 56 data bytes
64 bytes from 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05: icmp_seq=0 ttl=64 time=0.599 ms
64 bytes from 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05: icmp_seq=1 ttl=64 time=0.150 ms
64 bytes from 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05: icmp_seq=2 ttl=64 time=0.070 ms
64 bytes from 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05: icmp_seq=3 ttl=64 time=0.065 ms
--- 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05 ping statistics ---
4 packets transmitted, 4 received, 0% packet loss, time 3118ms
rat min./aft/max/endive = 0.065/0.221/0.599/0.220 ms, pipe 2
ise/admin#
```

### 例 2

```
ise/admin# ping6 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05 GigabitEthernet 0 packetize 10 pingcount
2
PING 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05 (3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05) from
3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05 eth0: 10 data bytes
18 bytes from 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05: icmp_seq=0 ttl=64 time=0.073 ms
18 bytes from 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05: icmp_seq=1 ttl=64 time=0.073 ms
--- 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05 ping statistics ---
2 packets transmitted, 2 received, 0% packet loss, time 1040ms
rat min./aft/max/endive = 0.073/0.073/0.073/0.000 ms, pipe 2
ise/admin#
```

### 関連トピック

[ping](#), (60 ページ)

## reload

このコマンドには、キーワードおよび引数はありません。Cisco ISE オペレーティング システムをリブートするには、EXEC モードで **reload** コマンドを使用します。

### reload

#### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

#### コマンド モード

EXEC

## 使用上のガイドライン

**reload** コマンドはシステムをリロードします。 コンフィギュレーション情報をファイルに入力して、CLI で永続的なスタートアップ コンフィギュレーションに実行コンフィギュレーションを保存し、Cisco ISE 管理者ポータルセッションにすべての設定を保存した後で、**reload** コマンドを使用します。

**reload** コマンドを発行する前に、Cisco ISE が、バックアップ、復元、インストール、アップグレード、または削除操作を実行していないことを確認します。 Cisco ISE がこれらのいずれかの操作を行っている間に **reload** コマンドを発行すると、次のいずれかの警告メッセージが表示されます。

```
WARNING: A backup or restore is currently in progress! Continue with reload?
WARNING: An install/upgrade/remove is currently in progress! Continue with reload?
```

これらのいずれかの警告が表示された場合、リロード処理を続行するには **Yes** と入力し、キャンセルするには **No** と入力します。

**reload** コマンドの使用時にプロセスが実行されていない場合、または表示される警告メッセージに応じて **Yes** と入力した場合は、次の質問に応答する必要があります。

```
Do you want to save the current configuration?
既存の Cisco ISE 設定を保存するために Yes と入力すると、次のメッセージが表示されます。
```

```
Saved the running configuration to startup successfully
```

## 例

```
ise/admin# reload
Do you want to save the current configuration? (yes/no) [yes]? yes
Generating configuration...
Saved the running configuration to startup successfully
Continue with reboot? [y/n] y
Broadcast message from root (pts/0) (Fri Aug 7 13:26:46 2010):
The system is going down for reboot NOW!
ise/admin#
```

## 関連トピック

[halt](#), (52 ページ)

# restore

システムの以前のバックアップを復元するには、EXEC モードで **restore** コマンドを使用します。復元操作は Cisco ISE および Cisco ADE OS 関連のデータを復元します。

Cisco ISE アプリケーションと Cisco ADE OS に関するデータを復元するには、次のコマンドを使用します。

```
restore [{filename}] repository {repository-name} encryption-key hash | plain {encryption-key-name}]
restore [{filename}] repository {repository-name} encryption-key hash | plain {encryption-key-name}
include-adeos]
```

## 構文の説明

<i>filename</i>	リポジトリに存在するバックアップファイルのファイル名。 最大 120 文字の英数字をサポートします。  (注) ファイル名の後に、 <b>tar.gpg</b> という拡張子を付ける必要があります ( <b>myfile.tar.gpg</b> など)。
<b>repository</b>	<b>repository</b> コマンド。
<i>repository-name</i>	バックアップを復元するリポジトリの名前。最大 120 文字までサポートします。
<b>encryption-key</b>	(任意)。バックアップを復元するユーザ定義の暗号キーを指定します。
<b>hash</b>	バックアップを復元するためのハッシュされた暗号キー。使用する暗号化された (ハッシュ化された) 暗号化キーを指定します。最大 40 文字までサポートします。
<b>plain</b>	バックアップを復元するためのプレーンテキストの暗号キー。使用する暗号化されたプレーンテキストの暗号化キーを指定します。15 文字までで指定します。
<i>encryption-key-name</i>	<b>hash</b>   <b>plain</b> 形式で暗号キーを指定します。
<b>include-adeos</b>	ADE-OS 設定データがバックアップに存在する場合、バックアップを復元し、Cisco ISE をリブートします

## コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンド モード

EXEC

## 使用上のガイドライン

Cisco ISE で **restore** コマンドを使用すると、Cisco ISE サーバが自動的に再起動します。

データの復元処理で、暗号キーはオプションです。暗号キーを指定しなかった以前のバックアップの復元をサポートするために、暗号化キーなしで **restore** コマンドを使用できます。



(注) Cisco ISE Release 1.0 および Cisco ISE Release 1.0 MR のバックアップからの復元は、Cisco ISE Release 1.2 ではサポートされません。

#### 関連トピック

- [backup, \(30 ページ\)](#)
- [backup-logs, \(33 ページ\)](#)
- [repository, \(169 ページ\)](#)
- [show repository, \(107 ページ\)](#)
- [show backup, \(85 ページ\)](#)
- [show restore, \(107 ページ\)](#)
- [バックアップからの Cisco ISE 設定データの復元, \(65 ページ\)](#)
- [バックアップからの Cisco ISE 動作データの復元, \(67 ページ\)](#)
- [バックアップからの Cisco ISE 設定データおよび Cisco ADE OS データの復元, \(67 ページ\)](#)

## バックアップからの Cisco ISE 設定データの復元

バックアップから Cisco ISE 設定データを復元するには、次のコマンドを使用します。

```
restore mybackup-CFG-121025-2348.tar.gpg repository myrepository encryption-key plain lablab12
```

#### 例

```
ise/admin# restore latest-jul-15-CFG-140715-2055.tar.gpg repository CUSTOMER-DB-sftp
encryption-key plain Test_1234
% Warning: Do not use Ctrl-C or close this terminal window until the restore completes.
Initiating restore. Please wait...
% restore in progress: Starting Restore...10% completed
% restore in progress: Retrieving backup file from Repository...20% completed
% restore in progress: Decrypting backup data...25% completed
% restore in progress: Extracting backup data...30% completed
Leaving the currently connected AD domain
Please rejoin the AD domain from the administrative GUI
% restore in progress: Stopping ISE processes required for restore...35% completed
% restore in progress: Restoring ISE configuration database...40% completed
% restore in progress: Adjusting host data for upgrade...65% completed
UPGRADE STEP 1: Running ISE configuration DB schema upgrade...
- Running db sanity check to fix index corruption, if any...

UPGRADE STEP 2: Running ISE configuration data upgrade...
- Data upgrade step 1/67, NSFUpgradeService(1.2.1.127)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 2/67, NetworkAccessUpgrade(1.2.1.127)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 3/67, GuestUpgradeService(1.2.1.146)... Done in 43 seconds.
- Data upgrade step 4/67, NetworkAccessUpgrade(1.2.1.148)... Done in 2 seconds.
- Data upgrade step 5/67, NetworkAccessUpgrade(1.2.1.150)... Done in 2 seconds.
- Data upgrade step 6/67, NSFUpgradeService(1.2.1.181)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 7/67, NSFUpgradeService(1.3.0.100)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 8/67, RegisterPostureTypes(1.3.0.170)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 9/67, ProfilerUpgradeService(1.3.0.187)... Done in 5 seconds.
- Data upgrade step 10/67, GuestUpgradeService(1.3.0.194)... Done in 2 seconds.
- Data upgrade step 11/67, NetworkAccessUpgrade(1.3.0.200)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 12/67, GuestUpgradeService(1.3.0.208)... Done in 2 seconds.
- Data upgrade step 13/67, GuestUpgradeService(1.3.0.220)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 14/67, RBACUpgradeService(1.3.0.228)... Done in 15 seconds.
```

```

- Data upgrade step 15/67, NetworkAccessUpgrade(1.3.0.230)... Done in 3 seconds.
- Data upgrade step 16/67, GuestUpgradeService(1.3.0.250)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 17/67, NetworkAccessUpgrade(1.3.0.250)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 18/67, RBACUpgradeService(1.3.0.334)... Done in 9 seconds.
- Data upgrade step 19/67, RBACUpgradeService(1.3.0.335)... Done in 9 seconds.
- Data upgrade step 20/67, ProfilerUpgradeService(1.3.0.360)... Done in 236 seconds.
- Data upgrade step 21/67, ProfilerUpgradeService(1.3.0.380)... Done in 4 seconds.
- Data upgrade step 22/67, NSFUpgradeService(1.3.0.401)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 23/67, NSFUpgradeService(1.3.0.406)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 24/67, NSFUpgradeService(1.3.0.410)... Done in 2 seconds.
- Data upgrade step 25/67, RBACUpgradeService(1.3.0.423)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 26/67, NetworkAccessUpgrade(1.3.0.424)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 27/67, RBACUpgradeService(1.3.0.433)... Done in 1 seconds.
- Data upgrade step 28/67, EgressUpgradeService(1.3.0.437)... Done in 1 seconds.
- Data upgrade step 29/67, NSFUpgradeService(1.3.0.438)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 30/67, NSFUpgradeService(1.3.0.439)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 31/67, CdaRegistration(1.3.0.446)... Done in 2 seconds.
- Data upgrade step 32/67, RBACUpgradeService(1.3.0.452)... Done in 16 seconds.
- Data upgrade step 33/67, NetworkAccessUpgrade(1.3.0.458)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 34/67, NSFUpgradeService(1.3.0.461)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 35/67, CertMgmtUpgradeService(1.3.0.462)... Done in 2 seconds.
- Data upgrade step 36/67, NetworkAccessUpgrade(1.3.0.476)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 37/67, TokenUpgradeService(1.3.0.500)... Done in 1 seconds.
- Data upgrade step 38/67, NSFUpgradeService(1.3.0.508)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 39/67, RBACUpgradeService(1.3.0.509)... Done in 17 seconds.
- Data upgrade step 40/67, NSFUpgradeService(1.3.0.526)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 41/67, NSFUpgradeService(1.3.0.531)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 42/67, MDMUpgradeService(1.3.0.536)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 43/67, NSFUpgradeService(1.3.0.554)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 44/67, NetworkAccessUpgrade(1.3.0.561)... Done in 3 seconds.
- Data upgrade step 45/67, RBACUpgradeService(1.3.0.563)... Done in 19 seconds.
- Data upgrade step 46/67, CertMgmtUpgradeService(1.3.0.615)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 47/67, CertMgmtUpgradeService(1.3.0.616)... Done in 15 seconds.
- Data upgrade step 48/67, CertMgmtUpgradeService(1.3.0.617)... Done in 2 seconds.
- Data upgrade step 49/67, OcspServiceUpgradeRegistration(1.3.0.617)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 50/67, NSFUpgradeService(1.3.0.630)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 51/67, NSFUpgradeService(1.3.0.631)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 52/67, CertMgmtUpgradeService(1.3.0.634)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 53/67, RBACUpgradeService(1.3.0.650)... Done in 8 seconds.
- Data upgrade step 54/67, CertMgmtUpgradeService(1.3.0.653)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 55/67, NodeGroupUpgradeService(1.3.0.655)... Done in 1 seconds.
- Data upgrade step 56/67, RBACUpgradeService(1.3.0.670)... Done in 4 seconds.
- Data upgrade step 57/67, ProfilerUpgradeService(1.3.0.670)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 58/67, ProfilerUpgradeService(1.3.0.671)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 59/67, ProfilerUpgradeService(1.3.0.675)...
.....Done in 2118 seconds.
- Data upgrade step 60/67, NSFUpgradeService(1.3.0.676)... Done in 1 seconds.
- Data upgrade step 61/67, AuthzUpgradeService(1.3.0.676)... Done in 20 seconds.
- Data upgrade step 62/67, GuestAccessUpgradeService(1.3.0.676)... Done in 454
seconds.
- Data upgrade step 63/67, NSFUpgradeService(1.3.0.694)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 64/67, ProvisioningRegistration(1.3.0.700)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 65/67, RegisterPostureTypes(1.3.0.705)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 66/67, CertMgmtUpgradeService(1.3.0.727)... Done in 0 seconds.
- Data upgrade step 67/67, ProvisioningUpgradeService(1.3.105.181)... Done in 103 seconds.
UPGRADE STEP 3: Running ISE configuration data upgrade for node specific data...
% restore in progress: Restoring logs...75% completed
% restore in progress: Restarting ISE Services...90% completed
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Log Collector...
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Log Processor...
ISE Identity Mapping Service is disabled
ISE pxGrid processes are disabled
Stopping ISE Application Server...
Stopping ISE Certificate Authority Service...
Stopping ISE Profiler Database...
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Session Database...
Stopping ISE AD Connector...
Stopping ISE Database processes...
Starting ISE Monitoring & Troubleshooting Session Database...
Starting ISE Profiler Database...
Starting ISE Application Server...
Starting ISE Certificate Authority Service...
Starting ISE Monitoring & Troubleshooting Log Processor...

```



```
Starting ISE Monitoring & Troubleshooting Log Collector...
Starting ISE AD Connector...
Note: ISE Processes are initializing. Use 'show application status ise'
      CLI to verify all processes are in running state.
% restore in progress: Completing Restore...100% completed
ise/admin#
```

## バックアップからの Cisco ISE 動作データの復元

バックアップから Cisco ISE 動作データを復元するには、次のコマンドを使用します。

```
restore mybackup-OPS-130103-0019.tar.gpg repository myrepository encryption-key plainlablab12
```

### 例

```
ise/admin# restore mybackup-OPS-130103-0019.tar.gpg repository myrepository
encryption-key plain lablab12
% Warning: Do not use Ctrl-C or close this terminal window until the restore completes.
Initiating restore. Please wait...
% restore in progress: Starting Restore...10% completed
% restore in progress: Retrieving backup file from Repository...20% completed
% restore in progress: Decrypting backup data...40% completed
% restore in progress: Extracting backup data...50% completed
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Log Processor...
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Log Collector...
Stopping ISE Application Server...
Stopping ISE Profiler DB...
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Session Database...
Stopping ISE Database processes...
% restore in progress: starting dbrestore.....55% completed
% restore in progress: ending dbrestore.....75% completed
checking for upgrade
Starting M&T DB upgrade
ISE Database processes already running, PID: 30124
ISE M&T Session Database is already running, PID: 484
Starting ISE Profiler DB...
Starting ISE Application Server...
Starting ISE Monitoring & Troubleshooting Log Collector...
ISE M&T Log Processor is already running, PID: 837
Note: ISE Processes are initializing. Use 'show application status ise'
      CLI to verify all processes are in running state.
% restore in progress: Completing Restore...100% completed
ise/admin#
```

## バックアップからの Cisco ISE 設定データおよび Cisco ADE OS データの復元

Cisco ISE ADE OS データを含む Cisco ISE 設定データを復元するには、次のコマンドを使用します。

```
restore mybackup-CFG-130405-0044.tar.gpg repository myrepository encryption-key plainMykey123
include-adeos
```

### 例

```
ise/admin# restore mybackup-CFG-130405-0044.tar.gpg repository myrepository encryption-key
plain Mykey123 include-adeos
% Warning: Do not use Ctrl-C or close this terminal window until the restore completes.
Initiating restore. Please wait...
```

```
% restore in progress: Starting Restore...10% completed
% restore in progress: Retrieving backup file from Repository...20% completed
% restore in progress: Decrypting backup data...25% completed
% restore in progress: Extracting backup data...30% completed
% restore in progress: Stopping ISE processes required for restore...35% completed
% restore in progress: Restoring ISE configuration database...40% completed
% restore in progress: Updating Database metadata...70% completed
% restore in progress: Restoring logs...75% completed
% restore in progress: Performing ISE Database synchup...80% completed
% restore in progress: Completing Restore...100% completed
Broadcast message from root (pts/2) (Fri Apr 5 01:40:04 2013):
The system is going down for reboot NOW!
Broadcast message from root (pts/2) (Fri Apr 5 01:40:04 2013):
The system is going down for reboot NOW!
ise/admin#
```

## rmdir

既存のディレクトリを削除するには、EXEC モードで **rmdir** コマンドを使用します。

**rmdir** *directory-name*

### 構文の説明

---

<i>directory-name</i>	ディレクトリ名。最大 80 文字の英数字をサポートします。
-----------------------	-------------------------------

---

### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンド モード

EXEC

### 例

```
ise/admin# mkdir disk:/test
ise/admin# dir
Directory of disk:/
 4096 May 06 2010 13:34:49 activemq-data/
 4096 May 06 2010 13:40:59 logs/
16384 Mar 01 2010 16:07:27 lost+found/
 4096 May 06 2010 13:42:53 target/
 4096 May 07 2010 12:26:04 test/
Usage for disk: filesystem
          181067776 bytes total used
          19084521472 bytes free
          20314165248 bytes available

ise/admin#
ise/admin# rmdir disk:/test
ise/admin# dir
Directory of disk:/
 4096 May 06 2010 13:34:49 activemq-data/
 4096 May 06 2010 13:40:59 logs/
16384 Mar 01 2010 16:07:27 lost+found/
 4096 May 06 2010 13:42:53 target/
Usage for disk: filesystem
          181063680 bytes total used
```

```

19084525568 bytes free
20314165248 bytes available
ise/admin#

```

### 関連トピック

- [dir, \(50 ページ\)](#)
- [rmdir, \(68 ページ\)](#)

## ssh

リモートシステムとの暗号化されたセッションを開始するには、EXEC モードで **ssh** コマンドを使用します。



(注) 管理者またはユーザがこのコマンドを使用できます

```

ssh [{ip-address | hostname}] [username] [ port {port number | version {1 | 2}}]
ssh delete host {ip-address | hostname}

```

### 構文の説明

<i>ip-address</i>	リモートシステムの IPv4 アドレス。最大 64 文字の英数字をサポートします。
<i>hostname</i>	リモートシステムのホスト名。最大 64 文字の英数字をサポートします。
<i>username</i>	SSH を介してログインしているユーザのユーザ名。
<b>port</b>	(任意)。リモートホストのポート番号を示します。
<i>port number</i>	ポートの有効範囲は 0 ~ 65,535 です。デフォルトポートは 22 です。
<b>version</b>	(任意)。バージョン番号を示します。
<i>version number</i>	SSH バージョン番号 1 および 2。デフォルトの SSH バージョンは 2 です。
<b>delete</b>	特定のホストの SSH フィンガープリントを削除します。
<b>host</b>	ホストキーが削除されるリモートシステムのホスト名。
<i>ip-address</i>	リモートシステムの IPv4 アドレス。最大 64 文字の英数字をサポートします。

<i>hostname</i>	リモートシステムのホスト名。最大 64 文字の英数字をサポートします。
-----------------	-------------------------------------

### コマンド デフォルト

ディセーブル。

### コマンド モード

EXEC

### 使用上のガイドライン

**ssh** コマンドは、システムから別のリモート システムまたはサーバに、安全な暗号化された接続を確立します。この接続は、接続が暗号化される点を除いて Telnet のアウトバウンド接続と同様の機能を提供します。SSH クライアントは、認証および暗号化により、非セキュアなネットワーク上でセキュアな通信ができます。

#### 例 1

```
ise/admin# ssh 172.79.21.96 admin port 22 version 2
ssh: connect to host 172.79.21.96 port 22: No route to host
ise/admin#
```

#### 例 2

```
ise/admin# ssh delete host ise
ise/admin#
```

## tech

選択したネットワーク インターフェイスでトラフィックをダンプするには、EXEC モードで **tech** コマンドを使用します。

**tech dumptcp** {*interface-number* | *count* | *package-count*}

### 構文の説明

<b>dumptcp</b>	TCP パッケージをコンソールにダンプします。
<i>interface-number</i>	ギガビットイーサネット インターフェイスの番号 (0~3)。
<i>count</i>	最大パッケージ数を指定します。デフォルトは連続的です (制限なし)。
<i>package-count</i>	1 ~ 10000 をサポートします。

<b>iostat</b>	3 秒あたりの中央処理装置（CPU）の統計情報およびデバイスとパーティションの入出力統計情報をコンソールにダンプします。Linux の <code>iostat</code> コマンドを参照してください。
<b>mpstat</b>	コンソールに送信されるプロセッサ関連情報をダンプします。Linux の <code>mpstat</code> コマンドを参照してください。
<b>netstat</b>	3 秒あたりのコンソールに送信されるネットワーク関連情報をダンプします。Linux の <code>netstat</code> コマンドを参照してください。
<b>top</b>	実行中のシステムのダイナミックなリアルタイムビューをダンプします。バッチモードで5秒ごとに実行されます。Linux の <code>top</code> コマンドを参照してください。
<b>vmstat</b>	3 秒あたりのメモリ、プロセスとページングサマリー情報をダンプします。Linux の <code>vmstat</code> コマンドを参照してください。

#### コマンド デフォルト

ディセーブル。

#### コマンド モード

EXEC

#### 使用上のガイドライン

`tech dumptcp` の出力で `bad UDP cksum` の警告が表示された場合は、問題の原因ではない場合があります。 `tech dumptcp` コマンドは、イーサネットマイクロプロセッサを介して終了する前に、発信パケットを調べます。最新のイーサネットチップは発信パケットのチェックサムを計算しますが、オペレーティングシステムソフトウェアのスタックは実行しません。したがって、発信パケットが `bad UDP cksum` として宣言されることは異常ではありません。

#### 例 1

```
ise/admin# tech dumptcp 0 count 2
Invoking tcpdump. Press Control-C to interrupt.
tcpdump: listening on eth0, link-type EN10MB (Ethernet), capture size 96 bytes
2 packets captured
2 packets received by filter
0 packets dropped by kernel
02:38:14.869291 IP (tos 0x0, ttl 110, id 4793, offset 0, flags [DF], proto: TCP (6), length:
 40) 10.77.202.52.1598 > 172.21.79.91.22: ., cksum 0xe105 (correct),
 234903779:234903779(0) ack 664498841 win 63344
02:38:14.869324 IP (tos 0x0, ttl 64, id 19495, offset 0, flags [DF], proto: TCP (6), length:
 200) 172.21.79.91.22 > 10.77.202.52.1598: P 49:209(160) ack 0 win
12096
ise/admin#
```

## 例 2

```

ise/admin# tech iostat
Linux 2.6.18-348.el5 (ise)          02/25/13
avg-cpu:  %user   %nice %system %iowait  %steal   %idle
           7.26    0.73   4.27   0.77    0.00   86.97

Device:            tps   Blk_read/s   Blk_wrtn/s   Blk_read   Blk_wrtn
sda                16.05     415.47      1802.16     3761049   16314264
sda1                0.01       0.23         0.00         2053       22
sda2                0.02       0.22         0.04         1982       354
sda3                0.01       0.29         0.02         2626       152
sda4                0.00       0.00         0.00          14          0
sda5                0.00       0.16         0.00         1479        0
sda6                0.49       0.24         7.45         2189       67400
sda7               15.51     414.27      1794.66     3750186   16246336
ise/admin#

```

## 例 3

```

ise/admin# tech mpstat
Linux 2.6.18-348.el5 (ise)          02/25/13
02:41:25   CPU   %user   %nice   %sys %iowait   %irq   %soft   %steal   %idle   intr/s
02:41:25   all    7.07   0.70   3.98   0.74    0.02   0.14   0.00   87.34   1015.49
ise/admin#

```

## telnet

Telnet をサポートするホストにログインする場合、管理者およびオペレータは EXEC モードで **telnet** コマンドを使用できます。

**telnet** {*ip-address* | *hostname*} **port** {*portnumber*}

## 構文の説明

<i>ip-address</i>	リモート システムの IPv4 アドレス。最大 64 文字の英数字をサポートします。
<i>hostname</i>	リモート システムのホスト名。最大 64 文字の英数字をサポートします。
<b>port</b>	宛先の Telnet ポートを指定します。
<i>portnumber</i>	(任意)。リモート ホストのポート番号を示します。0 ~ 65,535 の範囲で指定します。

## コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンド モード

EXEC

## 例

```
ise/admin# telnet 172.16.0.11 port 23
ise.cisco.com login: admin
password:
Last login: Mon Jul 2 08:45:24 on ttyS0
ise/admin#
```

## terminal length

現在のセッションでの現在の端末画面の行数を設定するには、EXEC モードで **terminal length** コマンドを使用します。

**terminal length** *integer*

### 構文の説明

<b>length</b>	現在の端末画面に表示する、現在のセッションの行数を指定します。
<i>integer</i>	画面の行数。0～511 行の範囲で指定します。0 を指定すると、出力画面間での一時停止がディセーブルになります。

### コマンド デフォルト

デフォルトの行数は現在のセッションにおける現在の端末画面に対して 24 です。

### コマンド モード

EXEC

### 使用上のガイドライン

システムは **length** の値を使用して、複数画面の出力時に一時停止するタイミングを決定します。

## 例

```
ise/admin# terminal length 24
ise/admin#
```

## terminal session-timeout

すべてのセッションに対する非アクティブタイムアウトを設定するには、EXEC モードで **terminal session-timeout** コマンドを使用します。

**terminal session-timeout** *minutes*

## 構文の説明

<b>session-timeout</b>	すべてのセッションに対して、非アクティブタイムアウトを設定します。
<i>minutes</i>	非アクティブタイムアウトの分数。有効な範囲は0～525,600です。ゼロ (0) を指定するとタイムアウトがディセーブルになります。

## コマンド デフォルト

デフォルトのセッション タイムアウトは 30 分です。

## コマンド モード

EXEC

## 使用上のガイドライン

**terminal session-timeout** コマンドをゼロに設定すると、タイムアウトが設定されません。

## 例

```
ise/admin# terminal session-timeout 40
ise/admin#
```

## 関連トピック

[terminal session-welcome](#), (74 ページ)

## terminal session-welcome

システムにログインするすべてのユーザに表示される初期メッセージをシステムに設定するには、EXEC モードで **terminal session-welcome** コマンドを使用します。

**terminal session-welcome** *string*

## 構文の説明

<b>session-welcome</b>	システムにログインするすべてのユーザに表示される初期メッセージをシステムに設定します。
<i>string</i>	初期メッセージ。最大2023文字の英数字をサポートします。XML で予約された文字は許可されません。

## コマンド デフォルト

EXEC の動作や値はありません。



## 使用上のガイドライン

CLI にログインしたときにコマンドプロンプト画面の上部に表示される初期メッセージを指定します。

### 例

```
ise/admin# terminal session-welcome Welcome  
ise/admin#
```

### 関連トピック

[terminal session-timeout](#), (73 ページ)

# terminal terminal-type

現在のセッションの現在の回線に接続される端末のタイプを指定するには、EXEC モードで **terminal terminal-type** コマンドを使用します。

**terminal terminal-type** *type*

## 構文の説明

<b>terminal-type</b>	接続されている端末のタイプを指定します。デフォルトの端末タイプは VT100 です。
<i>type</i>	端末の名前とタイプを定義し、そのサービスのタイプを提供するホストによる端末ネゴシエーションを許可します。最大 80 文字の英数字をサポートします。

## コマンド デフォルト

VT100

## コマンド モード

EXEC

## 使用上のガイドライン

VT100 と異なる場合、端末タイプを示します。

### 例

```
ise/admin# terminal terminal-type vt220  
ise/admin#
```

## tracertoute

パケットが宛先のアドレスに送信されるときに実際に通るルートを検出するには、EXEC モードで **tracertoute** コマンドを使用します。

**tracertoute** [*ip-address* | *hostname*]

### 構文の説明

<i>ip-address</i>	リモートシステムの IPv4 アドレス。最大 64 文字の英数字をサポートします。
<i>hostname</i>	リモートシステムのホスト名。最大 64 文字の英数字をサポートします。

### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンド モード

EXEC

### 例

```
ise/admin# tracertoute 172.16.0.11
tracertoute to 172.16.0.11 (172.16.0.11), 30 hops max, 38 byte packets
 1 172.16.0.11 0.067 ms 0.036 ms 0.032 ms
ise/admin#
```

## undebug

デバッグ機能をディセーブルにするには、EXEC モードで **undebug** コマンドを使用します。

**undebug** [ **all** | **application** | **backup-restore** | **cdp** | **config** | **copy** | **icmp** | **locks** | **logging** | **snmp** | **system** | **transfer** | **user** | **utils** ]

### 構文の説明

<b>all</b>	すべてのデバッグをディセーブルにします
------------	---------------------

---

<b>application</b>	アプリケーション ファイル。 <ul style="list-style-type: none"><li>• <b>all</b> : すべてのアプリケーションのデバッグ出力をディセーブルにします。</li><li>• <b>install</b> : アプリケーションのインストールのデバッグ出力をディセーブルにします。</li><li>• <b>operation</b> : アプリケーション操作のデバッグ出力をディセーブルにします。</li><li>• <b>uninstall</b> : アプリケーションのアンインストールのデバッグ出力をディセーブルにします。</li></ul>
<b>backup-restore</b>	ファイルをバックアップおよび復元します。 <ul style="list-style-type: none"><li>• <b>all</b> : バックアップおよび復元で、すべてのデバッグ出力をディセーブルにします。</li><li>• <b>backup</b> : バックアップおよび復元で、バックアップのデバッグ出力をディセーブルにします。</li><li>• <b>backup-logs</b> : バックアップおよび復元で、バックアップログのデバッグ出力をディセーブルにします。</li><li>• <b>history</b> : バックアップおよび復元で、履歴のデバッグ出力をディセーブルにします。</li><li>• <b>restore</b> : バックアップおよび復元で、復元のデバッグ出力をディセーブルにします。</li></ul>
<b>cdp</b>	Cisco Discovery Protocol (CDP) コンフィギュレーション ファイル。 <ul style="list-style-type: none"><li>• <b>all</b> : すべての Cisco Discovery Protocol コンフィギュレーションのデバッグ出力をディセーブルにします。</li><li>• <b>config</b> : Cisco Discovery Protocol のコンフィギュレーションのデバッグ出力をディセーブルにします。</li><li>• <b>infra</b> : Cisco Discovery Protocol のインフラストラクチャのデバッグ出力をディセーブルにします。</li></ul>

---

<b>config</b>	<p>コンフィギュレーション ファイル。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>all</b> : すべてのコンフィギュレーションのデバッグ出力をディセーブルにします。</li> <li>• <b>backup</b> : バックアップ コンフィギュレーションのデバッグ出力をディセーブルにします。</li> <li>• <b>clock</b> : クロック コンフィギュレーションのデバッグ出力をディセーブルにします。</li> <li>• <b>infra</b> : コンフィギュレーション インフラストラクチャのデバッグ出力をディセーブルにします。</li> <li>• <b>kron</b> : コマンドスケジューラ コンフィギュレーションのデバッグ出力をディセーブルにします。</li> <li>• <b>network</b> : ネットワーク コンフィギュレーションのデバッグ出力をディセーブルにします。</li> <li>• <b>repository</b> : リポジトリ コンフィギュレーションのデバッグ出力をディセーブルにします。</li> <li>• <b>service</b> : サービス コンフィギュレーションのデバッグ出力をディセーブルにします。</li> </ul>
<b>copy</b>	コピー コマンド。
<b>icmp</b>	<p>ICMP エコー応答のコンフィギュレーション。</p> <p><b>all</b> : ICMP エコー応答のコンフィギュレーションのすべてのデバッグ出力をディセーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてを示します。</p>
<b>locks</b>	<p>リソース ロッキング。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>all</b> : すべてのリソース ロッキングのデバッグ出力をディセーブルにします。</li> <li>• <b>file</b> : ファイル ロッキングのデバッグ出力をディセーブルにします。</li> </ul>
<b>logging</b>	<p>ロギング コンフィギュレーション ファイル。</p> <p><b>all</b> : ロギング コンフィギュレーションのすべてのデバッグ出力をディセーブルにします。</p>
<b>snmp</b>	<p>SNMP コンフィギュレーション ファイル。</p> <p><b>all</b> : SNMP コンフィギュレーションのすべてのデバッグ出力をディセーブルにします。</p>

---

<b>system</b>	システム ファイル。 <ul style="list-style-type: none"><li>• <b>all</b> : すべてのシステム ファイルのデバッグ出力をディセーブルにします。</li><li>• <b>id</b> : システム ID のデバッグ出力をディセーブルにします。</li><li>• <b>info</b> : システム情報のデバッグ出力をディセーブルにします。</li><li>• <b>init</b> : システムの初期化のデバッグ出力をディセーブルにします。</li></ul>
<b>transfer</b>	ファイル転送。
<b>user</b>	ユーザの管理。 <ul style="list-style-type: none"><li>• <b>all</b> : すべてのユーザ管理のデバッグ出力をディセーブルにします。</li><li>• <b>password-policy</b> : パスワードポリシーのユーザ管理のデバッグ出力をディセーブルにします。</li></ul>
<b>utils</b>	ユーティリティ コンフィギュレーション ファイル。 <b>all</b> : すべてのユーティリティ コンフィギュレーションのデバッグ出力をディセーブルにします。

---

---

## コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

---

## コマンド モード

EXEC

### 例

```
ise/admin# undebug all  
ise/admin#
```

### 関連トピック

[debug](#), (44 ページ)

# write

Cisco ISE サーバ コンフィギュレーションをコピー、表示、または消去するには、適切な引数を指定して EXEC モードで **write** コマンドを使用します。

**write** [ **erase** | **memory** | **terminal** ]

## 構文の説明

<b>erase</b>	スタートアップ コンフィギュレーションを消去します。このオプションは、Cisco ISE ではディセーブルです。
<b>memory</b>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。
<b>terminal</b>	実行コンフィギュレーションをコンソールにコピーします。

## コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンド モード

EXEC

## 使用上のガイドライン

Cisco ISE では、**erase** オプションと **write** コマンドをともに使用することはできません。

**erase** オプションと **write** コマンドをともに使用すると、Cisco ISE は次のエラーメッセージを表示します。

```
% Warning: 'write erase' functionality has been disabled by application: ise
```

### 例 1

```
ise/admin# write memory
Generating configuration...
ise/admin#
```

### 例 2

```
ise/admin# write terminal
Generating configuration...
!
hostname ise
```



## 第 3 章

# EXEC Show モードの Cisco ISE CLI コマンド

この章では、Cisco ISE 設定を表示するために使用する、最も便利なコマンドである EXEC モードの **show** コマンドについて説明します。この章では、コマンドごとに、その使用方法の簡単な説明、コマンドの構文、使用上のガイドライン、および使用例を示します。

- [show, 82 ページ](#)
- [show application, 83 ページ](#)
- [show backup, 85 ページ](#)
- [show banner, 86 ページ](#)
- [show cdp, 87 ページ](#)
- [show clock, 88 ページ](#)
- [show cpu, 89 ページ](#)
- [show crypto, 91 ページ](#)
- [show disks, 92 ページ](#)
- [show icmp-status, 93 ページ](#)
- [show interface, 95 ページ](#)
- [show inventory, 97 ページ](#)
- [show ip, 98 ページ](#)
- [show logging, 99 ページ](#)
- [show logins, 101 ページ](#)
- [show memory, 102 ページ](#)
- [show ntp, 102 ページ](#)
- [show ports, 103 ページ](#)
- [show process, 105 ページ](#)

- [show repository, 107 ページ](#)
- [show restore, 107 ページ](#)
- [show running-config, 108 ページ](#)
- [show startup-config, 109 ページ](#)
- [show tech-support, 110 ページ](#)
- [show terminal, 112 ページ](#)
- [show timezone, 113 ページ](#)
- [show timezones, 113 ページ](#)
- [show udi, 114 ページ](#)
- [show uptime, 115 ページ](#)
- [show users, 116 ページ](#)
- [show version, 117 ページ](#)

## show

実行システムの情報を表示するには、EXEC モードで **show** コマンドを使用します。

**show** *keyword*

### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンド モード

EXEC

### 使用上のガイドライン

すべての **show** コマンドは、機能するために少なくとも 1 つのキーワードが必要です。

### 例

```
ise/admin# show application
<name>          <Description>
ise             Cisco Identity Services Engine
ise/admin#
```



# show application

システムにインストールされているアプリケーション パッケージを表示するには、EXEC モードで **show application** コマンドを使用します。

**show application** > *file-name*

**show application** [status {*application\_name*}]

**show application** [version {*application\_name*}]

## 構文の説明

>	出力をファイルにリダイレクトします。
<i>file-name</i>	Cisco ISE アプリケーション情報を保存するファイルの名前。
<b>status</b>	インストールされているアプリケーションのステータスを表示します。
<b>version</b>	インストールされているアプリケーション (Cisco ISE) のアプリケーションバージョンを表示します。
<i>application_name</i>	インストールされているアプリケーションの名前。
	出力修飾子変数 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>begin</b> : 一致するパターン。最大 80 文字の英数字をサポートします。</li> <li>• <b>count</b> : 出力の行数をカウントします。単語 <b>count</b> の後に数字を追加します。  : <b>count</b> の出力修飾子変数。</li> <li>• <b>end</b> : 一致する行で終了します。最大 80 文字の英数字をサポートします。</li> <li>• <b>exclude</b> : 一致する行を除外します。最大 80 文字の英数字をサポートします。</li> <li>• <b>include</b> : 一致する行を含めます。最大 80 文字の英数字をサポートします。</li> <li>• <b>last</b> : 出力の最後の数行を表示します。単語 <b>last</b> の後に数字を追加します。80 行まで表示できます。デフォルトは 10 です。  : <b>last</b> の出力修飾子変数。</li> </ul>

## コマンド モラボルト

EXEC モラボルトの動作や値はありません。

## 使用上のガイドライン

システムにインストールしたパッケージに関するアプリケーションステータスとバージョンを確認するには、**show application** コマンドを使用します。

### 例 1

```
ise/admin# show application
<name>          <Description>
RootPatch      Cisco ADE Root Patch
ise            Cisco Identity Services Engine
ise/admin#
```

### 例 2

```
ise/admin# show application version ise
Cisco Identity Services Engine
-----
Version       : 1.3.0.672
Build Date   : Thu Jun 19 19:33:17 2014
Install Date : Thu Jun 19 21:06:34 2014
ise/admin#
```

### 例 3

Cisco ISE リリース 1.3 には、オプションのプロセスのステータスが含まれます（ユーザベース）。pxGrid、Certificate Authority、M&T、Identity Mapping Service などのプロセスは、次の状態のいずれかになります。

- 実行中（Running）：Cisco ISE サービスは稼働中です
- 実行していない（Not Running）：Cisco ISE サービスはシャットダウンされています
- デイセーブル（Disabled）：Cisco ISE サービスはデイセーブルです

```
ise/admin# show application status ise
ISE PROCESS NAME                               STATE                PROCESS ID
-----
Database Listener                             running             3688
Database Server                               running             41 PROCESSES
Application Server                             running             6041
Profiler Database                             running             4533
AD Connector                                   running             6447
M&T Session Database                           running             2363
M&T Log Collector                             running             6297
M&T Log Processor                             running             6324
Certificate Authority Service                  running             6263
pxGrid Infrastructure Service                   disabled
pxGrid Publisher Subscriber Service            disabled
pxGrid Connection Manager                     disabled
pxGrid Controller                             disabled
Identity Mapping Service                       disabled
ise/admin#
```

### 例 5

```
ise/admin# show application status RootPatch
```

```
Root Patch installed, and enabled
ise/admin#
```

## 例 6

```
ise/admin# show application version RootPatch
Root Patch VERSION INFORMATION
-----
Version      : 1.3.0                               Vendor: Cisco Systems, Inc.
Build Date   : March 21 2014 13:04PDT
ise/admin#
```

## 関連トピック

- [application configure, \(10 ページ\)](#)
- [application install, \(9 ページ\)](#)
- [application remove, \(18 ページ\)](#)
- [application reset-config, \(19 ページ\)](#)
- [application reset-passwd, \(21 ページ\)](#)
- [application start, \(22 ページ\)](#)
- [application stop, \(25 ページ\)](#)
- [application upgrade, \(26 ページ\)](#)

# show backup

システムのバックアップ履歴やバックアップステータスを表示するには、EXEC モードで **show backup** コマンドを使用します。

**show backup [history | status]**

## 構文の説明

<b>history</b>	システム上のバックアップに関する履歴情報を表示します。
<b>progress</b>	システム上のバックアップステータスを表示します。

## コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンド モード

EXEC

## 使用上のガイドライン

システムのバックアップ履歴とステータスを表示するには、**show backup** コマンドを使用します。

**例 1**

```
ise/admin# Show backup history
Wed Apr 10 02:35:29 EDT 2013: backup mybackup-CFG-130410-0226.tar.gpg to repository
myrepository: success
Wed Apr 10 02:40:07 EDT 2013: backup mybackup1-OPS-130410-0239.tar.gpg to repository
myrepository: success
ise/admin#
```

**例 2**

```
ise/admin# show backup status
%% Configuration backup status
%% -----
%      backup name: mybackup
%      repository: myrepository
%      start date: Wed Apr 10 02:26:04 EDT 2013
%      scheduled: no
%      triggered from: Admin web UI
%      host: ise.cisco.com
%      status: backup mybackup-CFG-130410-0226.tar.gpg to repository myrepository:
success
%% Operation backup status
%% -----
%      backup name: mybackup1
%      repository: myrepository
%      start date: Wed Apr 10 02:39:02 EDT 2013
%      scheduled: no
%      triggered from: Admin web UI
%      host: ise.cisco.com
%      status: backup mybackup1-OPS-130410-0239.tar.gpg to repository myrepository:
success
ise/admin#
```

**関連トピック**

- [backup, \(30 ページ\)](#)
- [restore, \(63 ページ\)](#)
- [repository, \(169 ページ\)](#)
- [show repository, \(107 ページ\)](#)
- [show restore, \(107 ページ\)](#)

# show banner

ログイン前および後のログイン バナーを表示するには、EXEC モードで **show banner** コマンドを使用します。

**show banner [post-login | pre-login]**

**構文の説明**

<b>post-login</b>	現在の CLI セッションの Cisco ISE サーバで設定されているログイン後の情報が表示されます。
<b>pre-login</b>	現在の CLI セッションの Cisco ISE サーバで設定されているログイン前の情報が表示されます。

---

#### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

---

#### コマンド モード

EXEC

---

#### 使用上のガイドライン

アクティブな SSH セッションで **show banner** コマンドを使用します。アクティブな SSH セッションが Cisco ISE 管理者ポータルで設定された [最大同時セッション数 (Maximum Concurrent Sessions)] を超えた場合、「警告：最大アクティブ SSH セッション数に到達 (WARNING: Maximum active ssh sessions reached)」メッセージが表示されます。

## show cdp

イネーブルになっているすべての Cisco Discovery Protocol (CDP) インターフェイスに関する情報を表示するには、EXEC モードで **show cdp** コマンドを使用します。

**show cdp [all | neighbors]**

---

#### 構文の説明

<b>all</b>	イネーブルになっているすべての Cisco Discovery Protocol インターフェイスを表示します。
<b>neighbors</b>	Cisco Discovery Protocol ネイバーを示します。

---

#### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

---

#### コマンド モード

EXEC

---

#### 使用上のガイドライン

イネーブルになっている Cisco Discovery Protocol インターフェイスおよび CDP ネイバーを表示するには、**show cdp** コマンドを使用します。

**例 1**

```
ise/admin# show cdp all
CDP protocol is enabled...
    broadcasting interval is every 60 seconds.
    time-to-live of cdp packets is 180 seconds.
    CDP is enabled on port GigabitEthernet0.
ise/admin#
```

**例 2**

```
ise/admin# show cdp neighbors
CDP Neighbor: 000c297840e5
    Local Interface : GigabitEthernet0
    Device Type     : ISE-1141VM-K9
    Port            : eth0
    Address         : 172.23.90.114
CDP Neighbor: isexp-esw5
    Local Interface : GigabitEthernet0
    Device Type     : cisco WS-C3560E-24TD
    Port           : GigabitEthernet0/5
    Address        : 172.23.90.45
CDP Neighbor: 000c29e29926
    Local Interface : GigabitEthernet0
    Device Type     : ISE-1141VM-K9
    Port           : eth0
    Address        : 172.23.90.115
CDP Neighbor: 000c290fba98
    Local Interface : GigabitEthernet0
    Device Type     : ISE-1141VM-K9
    Port           : eth0
    Address        : 172.23.90.111
ise/admin#
```

**関連トピック**

[cdp holdtime, \(125 ページ\)](#)

[cdp run, \(126 ページ\)](#)

[cdp timer, \(127 ページ\)](#)

## show clock

システム ソフトウェア クロックの曜日、月、日付、時間、時間帯、および年を表示するには、EXEC モードで **show clock** コマンドを使用します。

このコマンドには、キーワードおよび引数はありません。

**show clock****コマンド デフォルト**

デフォルトの動作や値はありません。

**コマンド モード**

EXEC

## 使用上のガイドライン

次の例に示す **show clock** の出力には、協定世界時 (UTC) またはグリニッジ標準時 (GMT)、英国時間、または国際標準時が含まれています。

### 例

```
ise/admin# show clock
Fri Aug 6 10:46:39 UTC 2010
ise/admin#
```

### 関連トピック

[clock](#), (35 ページ)

[clock timezone](#), (128 ページ)

# show cpu

CPU 情報を表示するには、EXEC モードで **show cpu** コマンドを使用します。

**show cpu** > *file-name*

**show cpu statistics**

## 構文の説明

>	出力をファイルにリダイレクトします。
<i>file-name</i>	リダイレクトするファイルの名前。
<b>statistics</b>	CPU 統計情報を表示します。

## 出力修飾子変数

- **begin** : 一致するパターン。最大 80 文字の英数字をサポートします。
- **count** : 出力の行数をカウントします。単語 **count** の後に数字を追加します。  
| : **count** の出力修飾子変数。
- **end** : 一致する行で終了します。最大 80 文字の英数字をサポートします。
- **exclude** : 一致する行を除外します。最大 80 文字の英数字をサポートします。
- **include** : 一致する行を含めます。最大 80 文字の英数字をサポートします。
- **last** : 出力の最後の数行を表示します。単語 **last** の後に数字を追加します。80 行まで表示できます。デフォルトは 10 です。  
| : **last** の出力修飾子変数。

## コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンド モード

EXEC

## 使用上のガイドライン

CPU 情報および統計情報を表示するには、**show cpu** コマンドを使用します。

## 例 1

```
ise/admin# show cpu
processor: 0
model : Intel(R) Xeon(R) CPU           E5320 @ 1.86GHz
speed(MHz): 1861.914
cache size: 4096 KB
ise/admin#
```

## 例 2

```
ise/admin# show cpu statistics
user time:      265175
kernel time:   166835
```



```
idle time:          5356204
i/o wait time:     162676
irq time:          4055
ise/admin#
```

### 関連トピック

- [show disks, \(92 ページ\)](#)
- [show memory, \(102 ページ\)](#)

## show crypto

ログインしている管理者およびユーザの公開キーと許可キーに関する情報を表示するには、**show crypto** コマンドを使用します。

**show crypto authorized\_keys**

**show crypto host-keys**

**show crypto key**

### 構文の説明

<b>authorized_keys</b>	現在ログインしているユーザの許可キーの情報を表示します。
<b>host_keys</b>	現在ログインしているユーザのホスト キーを表示します。
<b>key</b>	現在ログインしているユーザのキーの情報を表示します。

### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンド モード

EXEC

### 使用上のガイドライン

現在ログインしているユーザの許可キーとキーを表示するには、**show crypto** コマンドを使用します。

#### 例 1

```
ise/admin# show crypto authorized_keys
Authorized keys for admin
ise/admin#
```

## 例 2

```
ise/admin# show crypto key
admin public key: ssh-rsa f8:7f:8a:79:44:b8:5d:5f:af:e1:63:b2:be:7a:fd:d4 admin@ise
ise/admin#
```

## 関連トピック

[crypto](#), [\(42 ページ\)](#)

## show disks

ディスクのファイルシステム情報を表示するには、EXEC モードで **show disks** コマンドを使用します。

**show disks** > *file-name*

### 構文の説明

>	出力をファイルにリダイレクトします。
<i>file-name</i>	リダイレクトするファイルの名前。
	出力修飾子変数 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>begin</b> : 一致するパターン。最大 80 文字の英数字をサポートします。</li> <li>• <b>count</b> : 出力の行数をカウントします。単語 <b>count</b> の後に数字を追加します。   : <b>count</b> の出力修飾子変数。</li> <li>• <b>end</b> : 一致する行で終了します。最大 80 文字の英数字をサポートします。</li> <li>• <b>exclude</b> : 一致する行を除外します。最大 80 文字の英数字をサポートします。</li> <li>• <b>include</b> : 一致する行を含めます。最大 80 文字の英数字をサポートします。</li> <li>• <b>last</b> : 出力の最後の数行を表示します。単語 <b>last</b> の後に数字を追加します。80 行まで表示できます。デフォルトは 10 です。   : <b>last</b> の出力修飾子変数。</li> </ul>

### コマンド デフォルト

EXEC デフォルトの動作や値はありません。

## 使用上のガイドライン

**show disks** コマンドは、ディスク ファイルシステムを備えたプラットフォームでのみサポートされます。

### 例

```
ise/admin# show disks
disk repository: 24% used (3325484 of 14877092)
Internal filesystems:
/ : 5% used ( 24124436 of 540283556)
/storedconfig : 7% used ( 5693 of 93327)
/tmp : 2% used ( 35960 of 1976268)
/boot : 4% used ( 17049 of 489992)
/dev/shm : 0% used ( 0 of 1943756)
all internal filesystems have sufficient free space
ise/admin#
```

### 関連トピック

[show cpu](#), (89 ページ)

[show memory](#), (102 ページ)

## show icmp-status

インターネット制御メッセージプロトコル (ICMP) エコー応答のコンフィギュレーション情報を表示するには、EXEC モードで **show icmp\_status** コマンドを使用します。

**show icmp\_status** > *file-name*

### 構文の説明

>	出力をファイルにリダイレクトします。
<i>file-name</i>	リダイレクトするファイルの名前。

## 出力修飾子コマンド

- *begin* : 一致するパターン。最大 80 文字の英数字をサポートします。
- *count* : 出力の行数をカウントします。単語 *count* の後に数字を追加します。
  - | : *count* の出力修飾子コマンド。
- *end* : 一致する行で終了します。最大 80 文字の英数字をサポートします。
- *exclude* : 一致する行を除外します。最大 80 文字の英数字をサポートします。
- *include* : 一致する行を含めます。最大 80 文字の英数字をサポートします。
- *last* : 出力の最後の数行を表示します。単語 *last* の後に数字を追加します。80 行まで表示できます。デフォルトは 10 です。
  - | : *last* の出力修飾子コマンド。

## コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンド モード

EXEC

## 使用上のガイドライン

インターネット制御メッセージプロトコル (ICMP) エコー応答のコンフィギュレーション情報を表示するには、**show icmp\_status** コマンドを使用します。

## 例 1

```
ise/admin# show icmp_status
icmp echo response is turned on
ise/admin#
```

## 例 2

```
ise/admin# show icmp_status
```

```
icmp echo response is turned off
ise/admin#
```

### 関連トピック

[icmp echo](#), (140 ページ)

## show interface

IP に設定されているインターフェイスのユーザビリティ ステータスを表示するには、EXEC モードで **show interface** コマンドを使用します。

**show interface** > *file-name*

**show interface GigabitEthernet** {0-3}

### 構文の説明

>	出力をファイルにリダイレクトします。
<i>file-name</i>	インターフェイス情報をリダイレクトするファイルの名前。
<b>GigabitEthernet</b>	特定のギガビットイーサネットインターフェイスの情報を表示します。
0-3	ギガビットイーサネット番号。使用できる可能性のある番号：0、1、2、3。
	出力修飾子変数 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>begin</b> : 一致するパターン。最大 80 文字の英数字をサポートします。</li> <li>• <b>count</b> : 出力の行数をカウントします。単語 <b>count</b> の後に数字を追加します。</li> <li>• <b>end</b> : 一致する行で終了します。最大 80 文字の英数字をサポートします。</li> <li>• <b>exclude</b> : 一致する行を除外します。最大 80 文字の英数字をサポートします。</li> <li>• <b>include</b> : 一致する行を含めます。最大 80 文字の英数字をサポートします。</li> <li>• <b>last</b> : 出力の最後の数行を表示します。単語 <b>last</b> の後に数字を追加します。80 行まで表示できます。デフォルトは 10 です。</li> </ul>

### コマンド デフォルト

EXEC の動作や値はありません。

## 使用上のガイドライン

**show interface GigabitEthernet 0** 出力のインターフェイスには、3つのIPv6アドレスがあります。最初のインターネットアドレス（3ffe以降）は、ステートレス自動設定を使用した結果です。有効にするには、そのサブネットでIPv6ルートアドバタイズメントがイネーブルになっている必要があります。次のアドレス（fe80以降）は、ホストの外部にスコープが存在しないリンクローカルアドレスです。IPv6自動設定またはDHCPv6設定に関係なくリンクローカルアドレスが常に表示されます。最後のアドレス（2001以降）は、IPv6DHCPサーバから取得した結果です。

### 例 1

```
ise/admin# show interface
eth0    Link encap:Ethernet  HWaddr 00:0C:29:6A:88:C4
        inet addr:172.23.90.113  Bcast:172.23.90.255  Mask:255.255.255.0
        inet6 addr: fe80::20c:29ff:fe6a:88c4/64 Scope:Link
        UP BROADCAST RUNNING MULTICAST  MTU:1500  Metric:1
        RX packets:48536 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
        TX packets:14152 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
        collisions:0 txqueuelen:1000
        RX bytes:6507290 (6.2 MiB)  TX bytes:12443568 (11.8 MiB)
        Interrupt:59 Base address:0x2000
lo      Link encap:Local Loopback
        inet addr:127.0.0.1  Mask:255.0.0.0
        inet6 addr: ::1/128 Scope:Host
        UP LOOPBACK RUNNING  MTU:16436  Metric:1
        RX packets:1195025 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
        TX packets:1195025 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
        collisions:0 txqueuelen:0
        RX bytes:649425800 (619.3 MiB)  TX bytes:649425800 (619.3 MiB)
sit0    Link encap:IPv6-in-IPv4
        NOARP  MTU:1480  Metric:1
        RX packets:0 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
        TX packets:0 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
        collisions:0 txqueuelen:0
        RX bytes:0 (0.0 b)  TX bytes:0 (0.0 b)

ise/admin#
```

### 例 2

```
ise/admin# show interface GigabitEthernet 0
eth0    Link encap:Ethernet  HWaddr 00:0C:29:AF:DA:05
        inet addr:172.23.90.116  Bcast:172.23.90.255  Mask:255.255.255.0
        inet6 addr: 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05/64 Scope:Global
        inet6 addr: fe80::20c:29ff:feaf:da05/64 Scope:Link
        inet6 addr: 2001:558:ff10:870:8000:29ff:fe36:200/64 Scope:Global
        UP BROADCAST RUNNING MULTICAST  MTU:1500  Metric:1
        RX packets:77848 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
        TX packets:23131 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
        collisions:0 txqueuelen:1000
        RX bytes:10699801 (10.2 MiB)  TX bytes:3448374 (3.2 MiB)
        Interrupt:59 Base address:0x2000

ise/admin#
```

### 関連トピック

- [interface, \(140 ページ\)](#)
- [ipv6 address autoconfig, \(142 ページ\)](#)
- [ipv6 address dhcp, \(144 ページ\)](#)

# show inventory

Cisco ISE アプライアンス モデルやシリアル番号など、ハードウェア インベントリに関する情報を表示するには、EXEC モードで **show inventory** コマンドを使用します。

**show inventory** > *file-name*

## 構文の説明

>	出力をファイルにリダイレクトします。
<i>file-name</i>	ハードウェア インベントリ情報をリダイレクトするファイルの名前。
	出力修飾子変数
	<ul style="list-style-type: none"><li>• <b>begin</b> : 一致するパターン。最大 80 文字の英数字をサポートします。</li><li>• <b>count</b> : 出力の行数をカウントします。単語 <b>count</b> の後に数字を追加します。</li><li>• <b>end</b> : 一致する行で終了します。最大 80 文字の英数字をサポートします。</li><li>• <b>exclude</b> : 一致する行を除外します。最大 80 文字の英数字をサポートします。</li><li>• <b>include</b> : 一致する行を含めます。最大 80 文字の英数字をサポートします。</li><li>• <b>last</b> : 出力の最後の数行を表示します。単語 <b>last</b> の後に数字を追加します。80 行まで表示できます。デフォルトは 10 です。</li></ul>

## コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンド モード

EXEC

## 使用上のガイドライン

Cisco ISE アプライアンスの情報を表示するには、**show inventory** コマンドを使用します。

**例**

```

ise/admin# show inventory
NAME: "ISE-VM-K9          chassis", DESCR: "ISE-VM-K9          chassis"
PID: ISE-VM-K9          , VID: V01 , SN: H8JESGOFHGG
Total RAM Memory: 1035164 kB
CPU Core Count: 1
CPU 0: Model Info: Intel(R) Xeon(R) CPU          E5320 @ 1.86GHz
Hard Disk Count(*): 1
Disk 0: Device Name: /dev/sda
Disk 0: Capacity: 64.40 GB
Disk 0: Geometry: 255 heads 63 sectors/track 7832 cylinders
NIC Count: 1
NIC 0: Device Name: eth0
NIC 0: HW Address: 00:0C:29:6A:88:C4
NIC 0: Driver Descr: eth0: registered as PCnet/PCI II 79C970A
(*) Hard Disk Count may be Logical.
ise/admin#

```

## show ip

IP ルート情報を表示するには、EXEC モードで **show ip** コマンドを使用します。

**show ip route****構文の説明**


---

<b>route</b>	IP ルート情報を表示します。
--------------	-----------------

---

**コマンド デフォルト**

デフォルトの動作や値はありません。

**コマンド モード**

EXEC

**使用上のガイドライン**

このコマンドは IP ルーティング テーブルを表示します。

**例**

```

ise/admin# show ip route
Kernel IP routing table
Destination      Gateway         Genmask         Flags Metric Ref    Use Iface
172.21.79.0      0.0.0.0        255.255.255.0   U        0      0      0 eth0
0.0.0.0          172.21.79.1    0.0.0.0         UG       0      0      0 eth0
ise/admin#

```



## show logging

システム ロギング (syslog) の状態および標準のシステム ロギング バッファの内容を表示するには、EXEC モードで **show logging** コマンドを使用します。

**show logging** > *file-name*

**show logging application** *application-logfile-name*

**show logging internal**

**show logging system** *system-logfile-name*

### 構文の説明

>	出力をファイルにリダイレクトします。
<i>file-name</i>	システム ログ情報をリダイレクトするファイルの名前。
<b>application</b>	アプリケーション ログを表示します。
<i>application-logfile-name</i>	アプリケーション ログ ファイルの名前。
<b>internal</b>	syslog のコンフィギュレーションを表示します。
<b>system</b>	システムの syslog を表示します。
<i>system-logfile-name</i>	システム ログ ファイルの名前。
<i>system-file-name</i>	システム ログ ファイル名の名前。
	出力修飾子変数 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>begin</b> : 一致するパターン。最大 80 文字の英数字をサポートします。</li> <li>• <b>count</b> : 出力の行数をカウントします。単語 <b>count</b> の後に数字を追加します。</li> <li>• <b>end</b> : 一致する行で終了します。最大 80 文字の英数字をサポートします。</li> <li>• <b>exclude</b> : 一致する行を除外します。最大 80 文字の英数字をサポートします。</li> <li>• <b>include</b> : 一致する行を含めます。最大 80 文字の英数字をサポートします。</li> <li>• <b>last</b> : 出力の最後の数行を表示します。単語 <b>last</b> の後に数字を追加します。80 行まで表示できます。デフォルトは 10 です。</li> </ul>

## コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンド モード

EXEC

## 使用上のガイドライン

このコマンドは、**syslog** エラーおよびイベント ログिंगの状態を表示します。この状態には、ホストアドレス、ログिंगがイネーブルになっているログिंगの宛先（コンソール、モニタ、バッファ、またはホスト）が含まれます。

## 例 1

```
ise/admin# show logging system
      0 Feb 25 2013 15:57:43 tallylog
    1781 Feb 26 2013 02:01:02 maillog
    4690 Feb 26 2013 02:40:01 cron
      0 Feb 25 2013 15:56:54 spooler
      0 Feb 25 2013 16:10:03 boot.log
      0 Feb 25 2013 16:00:03 bttmp
   38784 Feb 26 2013 02:19:48 wtmp
   16032 Feb 26 2013 02:19:47 faillog
   32947 Feb 26 2013 00:38:02 dmesg
   63738 Feb 26 2013 02:19:49 messages
  146292 Feb 26 2013 02:19:48 lastlog
   13877 Feb 26 2013 01:48:32 rpmpkgs
  129371 Feb 26 2013 02:40:22 secure
   27521 Feb 25 2013 16:10:02 anaconda.syslog
  345031 Feb 25 2013 16:10:02 anaconda.log
      0 Jul 28 2011 00:56:37 mail/statistics
  1272479 Feb 26 2013 02:42:52 ade/ADE.log
   567306 Feb 26 2013 02:40:22 audit/audit.log
   24928 Feb 26 2013 02:40:01 sa/sa26
      0 Feb 25 2013 16:01:40 pm/suspend.log
ise/admin#
```

## 例 2

Cisco ISE ノードのアプリケーションログファイルを表示するには、次のコマンドを使用します。

```
ise/admin# show logging application
   1527 Oct 03 2014 01:00:00 profiler.log.2014-10-03.1
   2830 Sep 30 2014 23:33:44 prrt-management.log
  2438537 Oct 05 2014 23:59:14 caservice.log.2014-10-05.1
   17439 Sep 30 2014 23:36:18 console.log
      0 Sep 30 2014 23:25:48 edf.log
      0 Oct 01 2014 00:00:01 report.log
  483905 Oct 01 2014 23:58:09 ise-psc.log.2014-10-01.1
   1526 Oct 02 2014 01:00:00 profiler.log.2014-10-02.1
   94736 Sep 30 2014 23:25:19 bootstrap-20140930-232340.log
    789 Sep 30 2014 23:35:15 obsp.log
  4066560 Oct 03 2014 00:00:01 deployment.log.2014-10-03
   1527 Oct 06 2014 01:00:00 profiler.log
   1527 Oct 04 2014 01:00:00 profiler.log.2014-10-04.1
  2389104 Oct 06 2014 14:05:48 deployment.log
  2438633 Oct 03 2014 23:59:14 caservice.log.2014-10-03.1
```

```

0 Sep 30 2014 23:25:48 identity-mapping.log
4066560 Oct 06 2014 00:00:01 deployment.log.2014-10-06
4063736 Oct 05 2014 00:00:01 deployment.log.2014-10-05
478957 Oct 04 2014 23:58:54 ise-psc.log.2014-10-04.1
61 Sep 30 2014 22:34:54 dbalert.log
4066560 Oct 04 2014 00:00:01 deployment.log.2014-10-04
2435451 Oct 01 2014 23:59:14 caservice.log.2014-10-01.1
2438549 Oct 02 2014 23:59:14 caservice.log.2014-10-02.1
124 Sep 30 2014 23:33:16 diagnostics.log
457939 Oct 05 2014 23:59:55 ise-psc.log.2014-10-05.1
2498 Oct 01 2014 00:00:01 collector.log.2014-10-01
480764 Oct 02 2014 23:57:18 ise-psc.log.2014-10-02.1
0 Oct 01 2014 00:00:01 redis.log
0 Oct 01 2014 00:00:01 netflowreceiver.log
148 Oct 01 2014 00:00:01 report.log.2014-10-01
19718 Oct 06 2014 13:59:01 crypto.log
480896 Oct 03 2014 23:57:18 ise-psc.log.2014-10-03.1
9392 Sep 30 2014 23:25:18 caservice_bootstrap.log
1821 Oct 02 2014 00:00:01 collector.log.2014-10-02
0 Sep 30 2014 23:25:48 dbconn.log
51094 Sep 30 2014 23:59:14 caservice.log.2014-09-30.1
281579 Oct 06 2014 14:04:38 ise-psc.log
25966 Sep 30 2014 23:17:00 dbmanagement.log
18115 Oct 06 2014 13:31:55 ad_agent.log
79506 Oct 01 2014 00:00:01 deployment.log.2014-10-01
1527 Oct 05 2014 01:00:00 profiler.log.2014-10-05.1
2438494 Oct 04 2014 23:59:14 caservice.log.2014-10-04.1
84171 Sep 30 2014 23:59:48 ise-psc.log.2014-09-30.1
1433269 Oct 06 2014 14:06:02 caservice.log
66 Sep 30 2014 22:36:04 dblistener.log
0 Oct 02 2014 00:00:01 collector.log
1527 Oct 01 2014 01:00:00 profiler.log.2014-10-01.1
4063736 Oct 02 2014 00:00:01 deployment.log.2014-10-02
2438 Sep 30 2014 23:32:55 monit.log
145 Sep 30 2014 23:33:15 prrt-server.log
11514 Sep 30 2014 23:35:15 caservice-misc.log
423 Oct 01 2014 00:00:01 redis.log.2014-10-01
3249 Sep 30 2014 23:34:54 guest.log
15587 Sep 30 2014 23:34:54 profiler.log.2014-09-30.1
1401 Sep 30 2014 23:35:51 replication.log
0 Sep 30 2014 23:25:48 mds.log
355 Sep 30 2014 23:34:54 identity-mapping-mgmt.log
0 Sep 30 2014 23:25:48 tracking.log
1750 Oct 01 2014 00:00:01 netflowreceiver.log.2014-10-01
6276 Sep 30 2014 23:26:58 pxgrid/pxgrid-install.log
44446 Sep 30 2014 23:36:15 ca_appserver/catalina.out
265518 Oct 06 2014 14:03:00 localStore/iseLocalStore.log
149278 Oct 06 2014 14:00:01 appserver/catalina.out.2014-10-06
0 Sep 30 2014 23:31:51 appserver/manager.2014-09-30.log
58156 Sep 30 2014 23:37:59 appserver/catalina.2014-09-30.log
82476 Oct 01 2014 00:00:01 appserver/catalina.out.2014-10-01
581 Sep 30 2014 23:35:21 appserver/localhost.2014-09-30.log
0 Oct 06 2014 14:00:01 appserver/catalina.out
ise/admin#

```

## show logins

システム ログインの状態を表示するには、EXEC モードで **show logins** コマンドを使用します。

### show logins cli

#### 構文の説明

**cli** cli ログイン履歴を一覧表示します。

#### 使用上の注意事項

EXEC プロンプトの動作を指定する必要があります。指定しない場合、エラーが発生します。

## 例

```
ise/admin# show logins cli
admin pts/0 10.77.137.60 Fri Aug 6 09:45 still logged in
admin pts/0 10.77.137.60 Fri Aug 6 08:56 - 09:30 (00:33)
admin pts/0 10.77.137.60 Fri Aug 6 07:17 - 08:43 (01:26)
reboot system boot 2.6.18-164.el5PA Thu Aug 5 18:17 (17:49)
admin tty1 Thu Aug 5 18:15 - down (00:00)
reboot system boot 2.6.18-164.el5PA Thu Aug 5 18:09 (00:06)
setup tty1 Thu Aug 5 17:43 - 18:07 (00:24)
reboot system boot 2.6.18-164.el5PA Thu Aug 5 16:05 (02:02)
wtmpt begins Thu Aug 5 16:05:36 2010
ise/admin#
```

## show memory

すべての実行プロセスのメモリ使用量を表示するには、EXEC モードで **show memory** コマンドを使用します。

このコマンドには、キーワードおよび引数はありません。

### show memory

#### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

#### コマンド モード

EXEC

#### 使用上のガイドライン

使用メモリを表示するには、**show memory** コマンドを使用します。

## 例

```
ise/admin# show memory
total memory: 4394380 kB
free memory: 206060 kB
cached: 1111752 kB
swap-cached: 9072 kB

output of free command:
total used free shared buffers cached
Mem: 4394380 4188576 205804 0 147504 1111748
-/+ buffers/cache: 2929324 1465056
Swap: 8185108 192728 7992380
ise/admin#
```

## show ntp

Network Translation Protocol (NTP) の関連付けのステータスを表示するには、EXEC モードで **show ntp** コマンドを使用します。

このコマンドには、キーワードおよび引数はありません。

### show ntp

#### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

#### コマンド モード

EXEC

#### 使用上のガイドライン

Network Translation Protocol (NTP) の関連付けを表示するには、**show ntp** コマンドを使用します。

#### 例

```
ise/admin# show ntp
Primary NTP   : ntp.esl.cisco.com
Secondary NTP : 171.68.10.150
Tertiary NTP  : 171.68.10.80
synchronised to local net at stratum 11
  time correct to within 11 ms
  polling server every 128 s
remote      refid  st t when poll reach delay offset jitter
=====
*127.127.1.0 .LOCL. 10 l 9   64  377  0.000  0.000  0.001
171.68.10.80 .RMOT. 16 u 11   64   0   0.000  0.000  0.000
171.68.10.150 .INIT. 16 u 11   64   0   0.000  0.000  0.000

Warning: Output results may conflict during periods of changing synchronization.
ise/admin#
```

#### 関連トピック

- [ntp, \(159 ページ\)](#)
- [ntp server, \(162 ページ\)](#)

## show ports

アクティブなポートをリッスンするすべてのプロセスに関する情報を表示するには、EXEC モードで **show ports** コマンドを使用します。

**show ports** > *file-name*

#### 構文の説明

>	出力をファイルにリダイレクトします。
<i>file-name</i>	リダイレクトするファイルの名前。

## 出力修飾子変数

- **begin** : 一致するパターン。最大 80 文字の英数字をサポートします。
- **count** : 出力の行数をカウントします。単語 **count** の後に数字を追加します。  
| : **count** の出力修飾子変数。
- **end** : 一致する行で終了します。最大 80 文字の英数字をサポートします。
- **exclude** : 一致する行を除外します。最大 80 文字の英数字をサポートします。
- **include** : 一致する行を含めます。最大 80 文字の英数字をサポートします。
- **last** : 出力の最後の数行を表示します。単語 **last** の後に数字を追加します。80 行まで表示できます。デフォルトは 10 です。  
| : **last** の出力修飾子変数。

## コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンド モード

EXEC

## 使用上のガイドライン

**show ports** コマンドを実行する場合、ポートがアクティブなセッションに関連付けられている必要があります。

## 例

```
ise/admin# show ports
Process : java (22648)
      tcp: 0.0.0.0:9024, 127.0.0.1:2020, 0.0.0.0:9060, 0.0.0.0:37252, 127.0.0.1:8
005, 0.0.0.0:9990, 0.0.0.0:8009, 0.0.0.0:8905, 0.0.0.0:5514, 0.0.0.0:1099, 0.0.0
.0:61616, 0.0.0.0:80, 127.0.0.1:8888, 0.0.0.0:9080, 0.0.0.0:62424, 0.0.0.0:8443,
 0.0.0.0:443, 0.0.0.0:8444
      udp: 172.21.79.91:1812, 172.21.79.91:1813, 172.21.79.91:1700, 0.0.0.0:48425
, 172.21.79.91:8905, 172.21.79.91:3799, 0.0.0.0:54104, 172.21.79.91:57696, 172.2
1.79.91:1645, 172.21.79.91:1646
Process : timestenrepd (21516)
      tcp: 127.0.0.1:56513, 0.0.0.0:51312
Process : timestensubd (21421)
```

```

    tcp: 127.0.0.1:50598
Process : rpc.statd (3042)
    tcp: 0.0.0.0:680
    udp: 0.0.0.0:674, 0.0.0.0:677
Process : ttcserver (21425)
    tcp: 0.0.0.0:53385, 127.0.0.1:49293
Process : timestensubd (21420)
    tcp: 127.0.0.1:51370
Process : redis-server (21535)
    tcp: 0.0.0.0:6379
Process : portmap (2999)
    tcp: 0.0.0.0:111
    udp: 0.0.0.0:111
Process : Decap_main (22728)
--More--

```

## show process

アクティブなプロセスに関する情報を表示するには、EXEC モードで **show process** コマンドを使用します。

**show process** > *file-name*

### 構文の説明

>	出力をファイルにリダイレクトします。
<i>file-name</i>	リダイレクトするファイルの名前。
	(任意)。出力修飾子変数 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>begin</b> : 一致するパターン。最大 80 文字の英数字をサポートします。</li> <li>• <b>count</b> : 出力の行数をカウントします。単語 <b>count</b> の後に数字を追加します。</li> <li>• <b>end</b> : 一致する行で終了します。最大 80 文字の英数字をサポートします。</li> <li>• <b>exclude</b> : 一致する行を除外します。最大 80 文字の英数字をサポートします。</li> <li>• <b>include</b> : 一致する行を含めます。最大 80 文字の英数字をサポートします。</li> <li>• <b>last</b> : 出力の最後の数行を表示します。単語 <b>last</b> の後に数字を追加します。80 行まで表示できます。デフォルトは 10 です。</li> </ul>

### コマンドモジュール

EXEC ルートの動作や値はありません。

## 使用上のガイドライン

表 4: `show process` のフィールドの説明

フィールド	説明
USER	ログインしたユーザ。
PID	プロセス ID。
TIME	コマンドが最後に使用された時刻。
TT	プロセスを制御する端末。
COMMAND	使用されたプロセスまたはコマンドのタイプ。

## 例

```

ise/admin# show process
USER      PID      TIME TT      COMMAND
root      1 00:00:02 ?      init
root      2 00:00:00 ?      migration/0
root      3 00:00:00 ?      ksoftirqd/0
root      4 00:00:00 ?      watchdog/0
root      5 00:00:00 ?      events/0
root      6 00:00:00 ?      khelper
root      7 00:00:00 ?      kthread
root      10 00:00:01 ?      kblockd/0
root      11 00:00:00 ?      kacpid
root      170 00:00:00 ?      cqueue/0
root      173 00:00:00 ?      khubd
root      175 00:00:00 ?      kseriod
root      239 00:00:32 ?      kswapd0
root      240 00:00:00 ?      aio/0
root      458 00:00:00 ?      kpsmoused
root      488 00:00:00 ?      mpt_poll_0
root      489 00:00:00 ?      scsi_eh_0
root      492 00:00:00 ?      ata_0
root      493 00:00:00 ?      ata_aux
root      500 00:00:00 ?      kstriped
root      509 00:00:07 ?      kjournald
root      536 00:00:00 ?      kauditd
root      569 00:00:00 ?      udevd
root      1663 00:00:00 ?      kmpathd/0
root      1664 00:00:00 ?      kmpath_handlerd
root      1691 00:00:00 ?      kjournald
root      1693 00:00:00 ?      kjournald
root      1695 00:00:00 ?      kjournald
root      1697 00:00:00 ?      kjournald
root      2284 00:00:00 ?      auditd
root      2286 00:00:00 ?      audispd
root      2318 00:00:10 ?      debugd
rpc      2350 00:00:00 ?      portmap
root      2381 00:00:00 ?      rpciod/0
--More--
ise/admin#

```



## show repository

リポジトリのファイルの内容を表示するには、EXEC モードで **show repository** コマンドを使用します。

**show repository** *repository-name*

### 構文の説明

<i>repository-name</i>	内容を表示するリポジトリの名前。最大 30 文字の英数字をサポートします。
------------------------	---------------------------------------

### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンド モード

EXEC

### 使用上のガイドライン

リポジトリの内容を表示するには、**show repository** コマンドを使用します。

### 例

```
ise/admin# show repository myrepository
back1.tar.gpg
back2.tar.gpg
ise/admin#
```

### 関連トピック

- [backup](#), (30 ページ)
- [restore](#), (63 ページ)
- [repository](#), (169 ページ)
- [show backup](#), (85 ページ)
- [show restore](#), (107 ページ)

## show restore

復元履歴と復元状態を表示するには、EXEC モードで **show restore** コマンドを使用します。

**show restore** {**history** | **status**}

### 構文の説明

<b>history</b>	システムの復元履歴を表示します。
----------------	------------------

---

**status** システムの復元の状態を表示します。

---



---

#### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

---

#### コマンド モード

EXEC

---

#### 使用上のガイドライン

#### 例

```
ise/admin# show restore history
Wed Apr 10 03:32:24 PDT 2013: restore mybackup-CFG-130410-0228.tar.gpg from repository
myrepository: success
Wed Apr 10 03:45:19 PDT 2013: restore mybackup1-OPS-130410-0302.tar.gpg from repository
myrepository: success
ise/admin#
ise/admin# show restore status
%% Configuration restore status
%% -----
% No data found. Try 'show restore history' or ISE operation audit report
%% Operation restore status
%% -----
% No data found. Try 'show restore history' or ISE operation audit report
ise/admin#
```

#### 関連トピック

- [backup, \(30 ページ\)](#)
- [restore, \(63 ページ\)](#)
- [repository, \(169 ページ\)](#)
- [show backup, \(85 ページ\)](#)
- [show repository, \(107 ページ\)](#)

## show running-config

現在の実行コンフィギュレーションファイルまたはコンフィギュレーションの内容を表示するには、EXEC モードで **show running-config** コマンドを使用します。

このコマンドには、キーワードおよび引数はありません。

#### **show running-config**

---

#### 使用上のガイドライン

**show running-config** コマンドは、すべての実行コンフィギュレーション情報を表示します。

## 例

```
ise/admin# show running-config
Generating configuration...
!
hostname ise
!
ip domain-name cisco.com
!
interface GigabitEthernet 0
  ip address 172.23.90.113 255.255.255.0
  ipv6 address autoconfig
!
ip name-server 171.70.168.183
!
ip default-gateway 172.23.90.1
!
clock timezone UTC
!
ntp server time.nist.gov
!
username admin password hash $1$JbbHvKVG$xMZ/XL4tH15Knf.FfcZZr. role admin
!
service sshd
!
password-policy
  lower-case-required
  upper-case-required
  digit-required
  no-username
  disable-cisco-passwords
  min-password-length 6
!
logging localhost
logging loglevel 6
!
cdp timer 60
cdp holdtime 180
cdp run GigabitEthernet 0
!
icmp echo on
!
ise/admin#
```

## 関連トピック

[show startup-config](#), (109 ページ)

# show startup-config

スタートアップコンフィギュレーションファイルまたはコンフィギュレーションの内容を表示するには、EXEC モードで **show startup-config** コマンドを使用します。

このコマンドには、キーワードおよび引数はありません。

## show startup-config

---

### コマンド デフォルト

なし

## 使用上のガイドライン

**show startup-config** コマンドは、すべてのスタートアップ コンフィギュレーション情報を表示します。

### 例

```
ise/admin# show startup-config
!
hostname ise
!
ip domain-name cisco.com
!
interface GigabitEthernet 0
 ip address 172.23.90.113 255.255.255.0
 ipv6 address autoconfig
!
ip name-server 171.70.168.183
!
ip default-gateway 172.23.90.1
!
clock timezone UTC
!
ntp server time.nist.gov
!
username admin password hash $1$JbbHvKVG$xMZ/XL4tH15Knf.FfcZZr. role admin
!
service sshd
!
password-policy
 lower-case-required
 upper-case-required
 digit-required
 no-username
 disable-cisco-passwords
 min-password-length 6
!
logging localhost
logging loglevel 6
!
cdp timer 60
cdp holdtime 180
cdp run GigabitEthernet 0
!
icmp echo on
!
ise/admin#
```

### 関連トピック

[show running-config](#), (108 ページ)

## show tech-support

電子メールなどのテクニカルサポート情報を表示するには、EXEC モードで **show tech-support** コマンドを使用します。

**show tech-support** > *file-name*

### 構文の説明

**show tech-support file** *file-name*

> 出力をファイルにリダイレクトします。

<i>file-name</i>	リダイレクトするファイルの名前。
<b>file</b>	任意のテクニカルサポートデータをファイルとしてローカルディスクに保存します。
<i>file-name</i>	テクニカルサポートデータを保存するファイル名。最大 80 文字の英数字をサポートします。

### コマンド デフォルト

パスワードやその他のセキュリティ情報は、出力には表示されません。

### コマンド モード

EXEC

### 使用上のガイドライン

**show tech-support** コマンドは、トラブルシューティングの目的で、Cisco ISE サーバに関する大量の情報を収集するのに役立ちます。問題を報告するときに、テクニカルサポートの担当者へ出力を提供します。

### 例

```
ise/admin# show tech-support
*****
Displaying ISE version ...
*****
Cisco Identity Services Engine
-----
Version       : 1.3.0.862
Build Date    : Tue Oct 14 19:02:08 2014
Install Date  : Wed Oct 15 09:08:53 2014

*****
Displaying Clock ...
*****
Tue Oct 21 11:24:08 IST 2014

*****
Displaying UDI ...
*****
ISE-VM-K9

*****
Displaying ISE application status ...
*****
ISE PROCESS NAME          STATE          PROCESS ID
--More--
(prompt Spacebar to continue)
ise/admin#
```

## 関連トピック

- [show interface, \(95 ページ\)](#)
- [show process, \(105 ページ\)](#)
- [show running-config, \(108 ページ\)](#)

## show terminal

端末コンフィギュレーションパラメータの設定に関する情報を取得するには、EXEC モードで **show terminal** コマンドを使用します。

このコマンドには、キーワードおよび引数はありません。

**show terminal**

## コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンド モード

EXEC

## 使用上のガイドライン

次の表では、**show terminal** の出力のフィールドについて説明します。

表 5: **show terminal** のフィールドの説明

フィールド	説明
TTY: /dev/pts/0	端末のタイプに対する標準の出力を表示します。
Type: "vt100"	現在使用されている端末のタイプ。
Length: 27 lines	端末ディスプレイの長さ。
Width: 80 columns	端末ディスプレイの文字カラムの幅。
Session Timeout: 30 minutes	セッションで、接続を終了するまでの時間（単位：分）。

## 例

```
ise/admin# show terminal
TTY: /dev/pts/0 Type: "vt100"
Length: 27 lines, Width: 80 columns
```

```
Session Timeout: 30 minutes  
ise/admin#
```

## show timezone

システムに設定されている時間帯を表示するには、EXEC モードで **show timezone** コマンドを使用します。

このコマンドには、キーワードおよび引数はありません。

### show timezone

このコマンドには、キーワードおよび引数はありません。

---

#### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

---

#### コマンド モード

EXEC

---

#### 使用上のガイドライン

#### 例

```
ise/admin# show timezone  
UTC  
ise/admin#
```

#### 関連トピック

[clock timezone](#), (128 ページ)

[show timezones](#), (113 ページ)

## show timezones

選択可能な時間帯のリストを取得するには、EXEC モードで **show timezones** コマンドを使用します。

このコマンドには、キーワードおよび引数はありません。

### show timezones

---

#### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

---

#### コマンド モード

EXEC

---

## 使用上のガイドライン

Cisco ISE サーバで使用可能な時間帯の例については、「clock timezone」の項を参照してください。

### 例

```
ise/admin# show timezones
Africa/Cairo
Africa/Banjul
Africa/Nouakchott
Africa/Gaborone
Africa/Bangui
Africa/Malabo
Africa/Lusaka
Africa/Conakry
Africa/Freetown
Africa/Bamako
--More--
(press Spacebar to continue)
ise/admin#
```

### 関連トピック

[clock timezone](#), (128 ページ)

[show timezone](#), (113 ページ)

# show udi

Cisco ISE アプライアンスの Unique Device Identifier (UDI) に関する情報を表示するには、EXEC モードで **show udi** コマンドを使用します。

このコマンドには、キーワードおよび引数はありません。

### show udi

---

## コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

---

## コマンド モード

EXEC

---

## 使用上のガイドライン

### 例 1

```
ise/admin# show udi
SPID: ISE-3315-K9
VPID: V01
```



```
Serial: LAB12345678
ise/admin#
```

## 例 2

次の出力は、VMware サーバで **show udi** コマンドを実行したときに表示されます。

```
ise/admin# show udi
SPID: ISE-VM-K9
VPID: V01
Serial: 5C79C84ML9H
ise/admin#
```

# show uptime

Cisco ISE サーバにログインしてから経過した時間を表示するには、EXEC モードで **show uptime** コマンドを使用します。

**show uptime** > *file-name*

## 構文の説明

>	出力をファイルにリダイレクトします。
<i>file-name</i>	リダイレクトするファイルの名前。
	出力修飾子変数 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>begin</b> : 一致するパターン。最大 80 文字の英数字をサポートします。</li> <li>• <b>count</b> : 出力の行数をカウントします。単語 <b>count</b> の後に数字を追加します。</li> <li>• <b>end</b> : 一致する行で終了します。最大 80 文字の英数字をサポートします。</li> <li>• <b>exclude</b> : 一致する行を除外します。最大 80 文字の英数字をサポートします。</li> <li>• <b>include</b> : 一致する行を含めます。最大 80 文字の英数字をサポートします。</li> <li>• <b>last</b> : 出力の最後の数行を表示します。単語 <b>last</b> の後に数字を追加します。80 行まで表示できます。デフォルトは 10 です。</li> </ul>

## コマンド デフォルト 使用上のガイドライン

デフォルトの動作や値はありません。  
EXEC ISE サーバにログインしている時間を確認するには、この **show uptime** を使用します。

## 例

```
ise/admin# show uptime
3 day(s), 18:55:02
ise/admin#
```

## show users

Cisco ISE サーバにログインしているユーザの一覧を表示するには、EXEC モードで **show users** コマンドを使用します。

**show users** > *file-name*

### 構文の説明

>	出力をファイルにリダイレクトします。
<i>file-name</i>	リダイレクトするファイルの名前。
	出力修飾子変数 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>begin</b> : 一致するパターン。最大 80 文字の英数字をサポートします。</li> <li>• <b>count</b> : 出力の行数をカウントします。単語 <b>count</b> の後に数字を追加します。</li> <li>• <b>end</b> : 一致する行で終了します。最大 80 文字の英数字をサポートします。</li> <li>• <b>exclude</b> : 一致する行を除外します。最大 80 文字の英数字をサポートします。</li> <li>• <b>include</b> : 一致する行を含めます。最大 80 文字の英数字をサポートします。</li> <li>• <b>last</b> : 出力の最後の数行を表示します。単語 <b>last</b> の後に数字を追加します。80 行まで表示できます。デフォルトは 10 です。</li> </ul>

### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンド モード

EXEC

## 使用上のガイドライン

Cisco ISE サーバにログインしたユーザのリストをチェックするには、この **show users** コマンドを使用します。

### 例

```
ise/admin# show users
USERNAME      ROLE   HOST                TTY   LOGIN DATETIME
admin        Admin  10.77.202.52       pts/0 Tue Feb 26 20:36:41 2013
-----
DETACHED SESSIONS:
-----
USERNAME      ROLE           STARTDATE
% No disconnected user sessions present
ise/admin#
```

## show version

システムのソフトウェアバージョンに関する情報およびソフトウェアのインストール情報を表示するには、EXEC モードで **show version** コマンドを使用します。

**show version** > *file-name*

**show version history**

### 構文の説明

>	出力をファイルにリダイレクトします。
<i>file-name</i>	リダイレクトするファイルの名前。
history	ソフトウェア バージョンの履歴情報を示します。

## 出力修飾子変数

- **begin** : 一致するパターン。最大 80 文字の英数字をサポートします。
- **count** : 出力の行数をカウントします。単語 **count** の後に数字を追加します。
- **end** : 一致する行で終了します。最大 80 文字の英数字をサポートします。
- **exclude** : 一致する行を除外します。最大 80 文字の英数字をサポートします。
- **include** : 一致する行を含めます。最大 80 文字の英数字をサポートします。
- **last** : 出力の最後の数行を表示します。単語 **last** の後に数字を追加します。80 行まで表示できます。デフォルトは 10 です。

## コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンド モード

EXEC

## 使用上のガイドライン

このコマンドは、Cisco ISE サーバで動作している Cisco ADE-OS ソフトウェアに関するバージョン情報を表示し、Cisco ISE のバージョンも表示します。

## 例 1

```
ise/admin# show version
Cisco Application Deployment Engine OS Release: 2.2
ADE-OS Build Version: 2.2.0.127
ADE-OS System Architecture: x86_64

Copyright (c) 2005-2014 by Cisco Systems, Inc.
All rights reserved.
Hostname: Positron

Version information of installed applications
-----

Root Patch VERSION INFORMATION
-----
Version      : 1.3.0                               Vendor: Cisco Systems, Inc.
```

```
Build Date   : June 13 2014  15:39PDT

Cisco Identity Services Engine
-----
Version      : 1.3.0.673
Build Date   : Fri Jun 20 19:32:13 2014
Install Date : Fri Jun 20 21:06:00 2014

ise/admin#
```

## 例 2

```
ise/admin# show version history
-----
Install Date: Fri Jun 20 21:06:46 PDT 2014
Application: ise
Version: 1.3.0.673
Install type: Application Install
Bundle filename: ise.tar.gz
Repository: SystemDefaultPkgRepos
-----
Install Date: Fri Jun 20 21:57:46 PDT 2014
Application: RootPatch
Version: UNKNOWN
Install type: Application Install
Bundle filename: RootPatch-appbundle-allinone-x86_64.tar.gz
Repository: carsapps
ise/admin#
```

show version



## 第 4 章

# コンフィギュレーションモードの Cisco ISE CLI コマンド

---

この章では、Cisco ISE コマンドライン インターフェイス (CLI) のコンフィギュレーション (config) モードで使用するコマンドについて説明します。この章では、コマンドごとに、その使用方法の簡単な説明、コマンドの構文、使用上のガイドライン、および使用例を示します。

- EXEC モードでのコンフィギュレーションモードへの切り替え, 122 ページ
- コンフィギュレーションモードでの Cisco ISE の設定, 123 ページ
- コンフィギュレーションサブモードでの Cisco ISE の設定, 124 ページ
- CLI コンフィギュレーションコマンドのデフォルト設定, 125 ページ
- `cdp holdtime`, 125 ページ
- `cdp run`, 126 ページ
- `cdp timer`, 127 ページ
- `clock timezone`, 128 ページ
- `conn-limit`, 132 ページ
- `do`, 133 ページ
- `end`, 136 ページ
- `exit`, 137 ページ
- `hostname`, 138 ページ
- `icmp echo`, 140 ページ
- `interface`, 140 ページ
- `ipv6 address autoconfig`, 142 ページ
- `ipv6 address dhcp`, 144 ページ

- [ip address, 145 ページ](#)
- [ip default-gateway, 147 ページ](#)
- [ip domain-name, 148 ページ](#)
- [ip host, 149 ページ](#)
- [ip name-server, 150 ページ](#)
- [ip route, 152 ページ](#)
- [kron occurrence, 153 ページ](#)
- [kron policy-list, 156 ページ](#)
- [logging, 157 ページ](#)
- [max-ssh-sessions, 158 ページ](#)
- [ntp, 159 ページ](#)
- [ntp authenticate, 160 ページ](#)
- [ntp authentication-key, 161 ページ](#)
- [ntp server, 162 ページ](#)
- [ntp trusted-key, 165 ページ](#)
- [rate-limit, 166 ページ](#)
- [password-policy, 167 ページ](#)
- [repository, 169 ページ](#)
- [service, 172 ページ](#)
- [shutdown, 174 ページ](#)
- [snmp-server community, 175 ページ](#)
- [snmp-server contact, 176 ページ](#)
- [snmp-server host, 177 ページ](#)
- [snmp-server location, 178 ページ](#)
- [username, 179 ページ](#)

## EXEC モードでのコンフィギュレーションモードへの切り替え

EXEC モードで、**configure** または **configure terminal (conf t)** コマンドを実行して、コンフィギュレーションモードを開始できます。



Cisco ISE CLI から EXEC モードでコンフィギュレーション コマンドを直接入力することはできません。一部のコンフィギュレーション コマンドでは、コマンドコンフィギュレーションを完了するために、コンフィギュレーション サブモードを開始する必要があります。

コンフィギュレーションモードを終了するには、**exit** コマンド、**end** コマンド、または **Ctrl+z** コマンドを入力します。

コンフィギュレーション コマンドには、**interface**、**Policy List**、および **repository** が含まれます。コンフィギュレーションモードで設定作業を実行できます。コンフィギュレーションの変更内容を保存して、システムのリロードや停電時に変更内容が失われないようにする必要があります。

コンフィギュレーションを保存すると、これらのコマンドは、次のいずれかのコマンドを実行した場合に限り、Cisco ISE サーバのリブート後もそのまま有効です。

- **copy running-config startup-config**
- **write memory**

## コンフィギュレーションモードでの Cisco ISE の設定

コンフィギュレーション コマンドおよびコンフィギュレーション サブモード コマンドを入力して、Cisco ISE サーバの実際の設定をコンフィギュレーションモードで変更できます。

**ステップ 1** **configure terminal** と入力して、コンフィギュレーションモードを開始します。

```
ise/admin# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL-Z.
ise/admin(config)# (configuration mode)
```

**ステップ 2** 疑問符 (?) を入力して、コンフィギュレーションモードのコマンドの一覧を表示します。

```
ise/admin(config)# ?
Configure commands:
cdp                CDP Configuration parameters
clock              Configure timezone
conn-limit         Configure a TCP connection limit from source IP
do                 EXEC command
end                Exit from configure mode
exit               Exit from configure mode
hostname           Configure hostname
icmp               Configure icmp echo requests
interface          Configure interface
ip                 Configure IP features
kron               Configure command scheduler
logging            Configure system logging
max-ssh-sessions  Configure number of concurrent SSH sessions
no                 Negate a command or set its defaults
ntp                Specify NTP configuration
password-policy   Password Policy Configuration
rate-limit         Configure a TCP/UDP/ICMP packet rate limit from source IP
repository         Configure Repository
service            Specify service to manage
snmp-server        Configure snmp server
```

```
synflood-limit    Configure a TCP SYN packet rate limit
username          User creation
```

- ステップ 3** コンフィギュレーションサブモードを開始します。コンフィギュレーションモードには数種類のコンフィギュレーションサブモードがあります。各サブモードに入ると、プロンプト階層のさらに深いレベルで操作できます。このレベルから、Cisco ISE コンフィギュレーションに直接コマンドを入力できます。

```
ise/admin(config)# interface GigabitEthernet 0
ise/admin(config-GigabitEthernet)#
```

- ステップ 4** コマンドプロンプトで **exit** を順番に入力し、コンフィギュレーションモードと EXEC モードの両方を終了します。**exit** と入力すると、Cisco ISE はユーザのレベルを 1 段階戻し、前のレベルに戻します。もう一度 **exit** と入力すると、Cisco ISE はユーザを EXEC レベルに戻します。

```
ise/admin(config)# exit
ise/admin# exit
```

## コンフィギュレーションサブモードでの Cisco ISE の設定

コンフィギュレーションサブモードで特定の設定のコマンドを入力できます。**exit** コマンドまたは **end** コマンドを使用して、このプロンプトを終了し、コンフィギュレーションプロンプトに戻ることができます。

- ステップ 1** **configure terminal** と入力して、コンフィギュレーションモードを開始します。

```
ise/admin# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL-Z.
ise/admin(config)# (configuration mode)
```

- ステップ 2** コンフィギュレーションサブモードを開始します。

```
ise/admin# configure terminal
ise/admin(config)# interface GigabitEthernet 0
ise/admin(config-GigabitEthernet)# ?
Configure ethernet interface:
  do          EXEC command
  end        Exit from configure mode
  exit       Exit from this submode
  ip         Configure IP features
  ipv6       Configure IPv6 features
  no         Negate a command or set its defaults
  shutdown   Shutdown the interface
ise/admin(config-GigabitEthernet)# ip ?
address      Configure IP address
```

- ステップ 3** コマンドプロンプトで **exit** と入力し、コンフィギュレーションサブモードとコンフィギュレーションモードの両方を終了します。

```
ise/admin(config-GigabitEthernet)# exit
ise/admin(config)# exit
ise/admin#
```

# CLI コンフィギュレーションコマンドのデフォルト設定

CLI コンフィギュレーションコマンドには、**default** 形式があることがあります。この形式は、コマンド設定をデフォルト値に戻します。ほとんどのコマンドはデフォルトがディセーブルであるため、そのような場合に **default** 形式を使用すると、コマンドの **no** 形式を使用した場合と同じ結果になります。

ただし、デフォルトでイネーブルに設定されていて、なおかつ変数が特定のデフォルト値に設定されているコマンドもあります。そのような場合に **default** 形式のコマンドを使用すると、コマンドがイネーブルになり、変数がデフォルト値に設定されます。

## cdp holdtime

受信デバイスが Cisco ISE サーバからの Cisco Discovery Protocol パケットを廃棄するまでにそれを保持する時間を指定するには、コンフィギュレーションモードで **cdp holdtime** コマンドを使用します。

**cdp holdtime seconds**

デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**no cdp holdtime**

### 構文の説明

<b>holdtime</b>	アドバタイズされた Cisco Discovery Protocol の保持時間を指定します。
<i>seconds</i>	秒単位のアドバタイズされた保持時間値。値の範囲は、10～255 秒です。

### コマンド デフォルト

CDP 保持時間のデフォルト値は、180 秒です。

### コマンド モード

コンフィギュレーション (config) #

### 使用上のガイドライン

Cisco Discovery Protocol パケットを存続可能時間、つまり保持時間の値とともに送信します。受信デバイスは、保持時間の経過後に、Cisco Discovery Protocol パケットの Cisco Discovery Protocol 情報を廃棄します。

**cdp holdtime** コマンドに指定できる引数は 1 つだけです。複数指定した場合は、エラーが発生します。

例

```
ise/admin(config)# cdp holdtime 60
ise/admin(config)#
```

関連トピック

- [cdp timer, \(127 ページ\)](#)
- [cdp run, \(126 ページ\)](#)

# cdp run

すべてのインターフェイスで Cisco Discovery Protocol をイネーブルにするには、コンフィギュレーションモードで **cdp run** コマンドを使用します。

**cdp run GigabitEthernet**

Cisco Discovery Protocol をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**no cdp run**

構文の説明

<b>run</b>	Cisco Discovery Protocol をイネーブルにします。 <b>cdp run</b> コマンドの <b>no</b> 形式を使用すると、Cisco Discovery Protocol がディセーブルになります。
<i>GigabitEthernet</i>	(任意)。Cisco Discovery Protocol をイネーブルにする GigabitEthernet インターフェイスを指定します。
<i>0-3</i>	Cisco Discovery Protocol をイネーブルにする GigabitEthernet インターフェイス番号を指定します。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

コンフィギュレーション (config) #

使用上のガイドライン

このコマンドでは、1つのオプションの引数（インターフェイス名）を指定します。オプションのインターフェイス名を指定しない場合、このコマンドは、すべてのインターフェイス上でCisco Discovery Protocol をイネーブルにします。



(注) このコマンドのデフォルトでは、すでに実行されているインターフェイスで動作します。インターフェイスの起動時に、最初に Cisco Discovery Protocol を停止します。次に、Cisco Discovery Protocol を起動します。

例

```
ise/admin(config)# cdp run GigabitEthernet 0
ise/admin(config)#
```

関連トピック

- [cdp holdtime, \(125 ページ\)](#)
- [cdp timer, \(127 ページ\)](#)

# cdp timer

Cisco ISE サーバが Cisco Discovery Protocol 更新を送信する頻度を指定するには、コンフィギュレーションモードで **cdp timer** コマンドを使用します。

**cdp timer seconds**

デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**no cdp timer**

構文の説明

<b>timer</b>	指定した間隔で更新されます。
<i>seconds</i>	Cisco ISE サーバが Cisco Discovery Protocol 更新を送信する頻度を秒単位で指定します。値の範囲は、5 ~ 254 秒です。

コマンド デフォルト

更新間隔値のデフォルトは 60 秒です。

コマンドモード

コンフィギュレーション (config) #

### 使用上のガイドライン

Cisco Discovery Protocol パケットを存続可能時間、つまり保持時間の値とともに送信します。受信デバイスは、保持時間の経過後に、Cisco Discovery Protocol パケットの Cisco Discovery Protocol 情報を廃棄します。

**cdp timer** コマンドに指定できる引数は 1 つだけです。複数指定した場合は、エラーが発生します。

### 例

```
ise/admin(config)# cdp timer 60
ise/admin(config)#
```

### 関連トピック

[cdp holdtime](#), (125 ページ)

[cdp run](#), (126 ページ)

## clock timezone

時間帯を設定するには、コンフィギュレーションモードで **clock timezone** コマンドを実行します。

**clock timezone** *timezone*

時間帯をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**no clock timezone**

### 構文の説明

<b>timezone</b>	システムの時間帯を設定します。
<i>timezone</i>	標準時に表示する時間帯の名前。最大 64 文字の英数字をサポートします。

### コマンド デフォルト

協定世界時 (UTC)

### コマンド モード

コンフィギュレーション (config) #

## 使用上のガイドライン

システムの内部的には、UTC での時刻が保持されます。特定の時間帯がわからない場合は、地域、国、都市を入力できます（システムに入力する共通の時間帯およびオーストラリアとアジアの時間帯については、表 4-1、4-2、4-3 を参照）。



(注) これ以外にも使用可能な時間帯がいくつかあります。 **show timezones** を入力すると利用可能なすべての時間帯のリストが Cisco ISE サーバに表示されます。該当地域の時間帯に最も適した時間帯を選択します。

### 例

```
ise/admin(config)# clock timezone EST
ise/admin(config)# exit
ise/admin# show timezone
EST
ise/admin#
```

### 関連トピック

- [show timezones, \(113 ページ\)](#)
- [show timezone, \(113 ページ\)](#)
- [Cisco ISE ノードの時間帯の復元, \(129 ページ\)](#)
- [共通の時間帯, \(130 ページ\)](#)
- [オーストラリアの時間帯, \(131 ページ\)](#)
- [アジアの時間帯, \(131 ページ\)](#)

## Cisco ISE ノードの時間帯の復元

警告 インストール後に Cisco ISE アプライアンス上で時間帯を変更すると、そのノード上で Cisco ISE アプリケーションを使用できなくなります。ただし、初期設定ウィザードで時間帯の設定を求めるプロンプトが表示されたら、優先する時間帯（デフォルト UTC）をインストール中に設定できます。

時間帯の変更は、導入の異なる Cisco ISE ノードタイプに影響を与えます。

影響から回復するには、次の手順を使用します。

### スタンドアロンまたはプライマリ ISE ノード

インストールの後の時間帯の変更は、スタンドアロンまたはプライマリ ISE ノードでサポートされていません。

誤って時間帯を変更した場合は、次の手順を実行します。

- 時間帯に戻ります。（変更される前の時間帯）。

- そのノードの CLI から **application reset-config ise** コマンドを実行します。
- そのノードで時間帯が変更される前の、正常な既知の最終バックアップから復元します。

### セカンダリ ISE ノード

セカンダリ ノードで時間帯を変更すると、導入に使用できなくなります。

プライマリノードの時間帯と同じになるようにセカンダリノードの時間帯を変更する場合、次の手順を実行します。

- セカンダリ ノードの登録を解除します。
- プライマリ ノードと同じになるように時間帯を修正します。
- そのノードの CLI から **application reset-config ise** コマンドを実行します。
- プライマリ ノードにセカンダリ ノードとしてノードを再登録します。

## 共通の時間帯

表 6: 表 4-1 共通の時間帯 (続き)

略語または名前	時間帯名
欧州	
GMT、GMT0、GMT-0、GMT+0、UTC、Greenwich、Universal、Zulu	グリニッジ標準時 (UTC)
GB	英国
GB-Eire、Eire	アイルランド
WET	西ヨーロッパ時間 (UTC)
CET	中央ヨーロッパ標準時 (UTC + 1 時間)
EET	東ヨーロッパ時間 (UTC + 2 時間)
米国とカナダ	
EST、EST5EDT	東部標準時、UTC - 5 時間
CST、CST6CDT	中央標準時、UTC - 6 時間
MST、MST7MDT	山岳部標準時、UTC - 7 時間



略語または名前	時間帯名
PST、PST8PDT	太平洋標準時、UTC - 8 時間
HST	ハワイ標準時、UTC - 10 時間

## オーストラリアの時間帯



(注) オーストラリアの時間帯では、国と都市をスラッシュ (/) で区切って入力します (例 : Australia/Currie)。

表 7: 表 4-2 オーストラリアの時間帯 (続き)

Australia			
オーストラリア首都 特別地域 (ACT)	Adelaide	Brisbane	Broken_Hill
Canberra	Currie	Darwin	Hobart
Lord_Howe	Lindeman	Lord Howe Island (LHI)	Melbourne
North	New South Wales (NSW)	Perth	Queensland
South	Sydney	Tasmania	Victoria
West	Yancowinna		

## アジアの時間帯



(注) アジアの時間帯には、東アジア、南アジア、東南アジア、西アジア、および中央アジアがあります。地域と都市または国をスラッシュ (/) で区切って入力します (例 : Asia/Aden)。

表 8 : 表 4-3 アジアの時間帯 (続き)

Asia			
Aden	Almaty	Amman	Anadyr
Aqtau	Aqtobe	Ashgabat	Ashkhabad
Baghdad	Bahrain	Baku	Bangkok
Beirut	Bishkek	Brunei	Calcutta
Choibalsan	Chongqing	Colombo	Damascus
Dhakar	Dili	Dubai	Dushanbe
Gaza	Harbin	Hong_Kong	Hovd
Irkutsk	Istanbul	Jakarta	Jayapura
Jerusalem	Kabul	Kamchatka	Karachi
Kashgar	Katmandu	Kuala_Lumpur	Kuching
Kuwait	Krasnoyarsk		

## conn-limit

送信元 IP アドレスからの着信 TCP 接続制限を設定するには、コンフィギュレーションモードで **conn-limit** コマンドを使用します。この機能を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

### 構文の説明

<1-2147483647>	TCP 接続の数。
<i>ip</i>	(任意)。TCP 接続制限を適用する送信元 IP アドレス。
<i>mask</i>	(任意)。TCP 接続制限を適用する送信元 IP マスク。
<i>port</i>	(任意)。TCP 接続制限を適用する宛先ポート番号。

### コマンド デフォルト コマンド モード

デフォルトの動作や値はありません。  
コンフィギュレーション (config) #

## 使用上のガイドライン

99 を超える TCP 接続に、この **conn-limit** コマンドを使用します。100 未満の接続の場合は、次の警告が表示されます。

```
% Warning: Setting a small conn-limit may adversely affect system performance
```

### 例

```
ise/admin(config)# conn-limit 25000 ip 77.10.122.133 port 22
ise/admin(config)# end
ise/admin
```

### 関連トピック

[rate-limit](#), (166 ページ)

# do

コンフィギュレーションモードまたは任意のコンフィギュレーションサブモードから EXEC システム レベルのコマンドを実行するには、任意のコンフィギュレーション モードで **do** コマンドを使用します。

**do EXEC commands**

## 構文の説明

<i>EXEC commands</i>	EXEC システム レベルのコマンドを実行することを指定します (表 9 : 表 4-4 do コマンドのコマンドオプション (続き) を参照)。
----------------------	---

表 9 : 表 4-4 do コマンドのコマンドオプション (続き)

コマンド	説明
<b>application configure</b>	特定のアプリケーションを設定します。
<b>application install</b>	特定のアプリケーションをインストールします。
<b>application remove</b>	特定のアプリケーションを削除します。
<b>application reset-config</b>	アプリケーションコンフィギュレーションを工場出荷時のデフォルト設定にリセットします。
<b>application reset-passwd</b>	指定したユーザのアプリケーションパスワードをリセットします。

コマンド	説明
<b>application start</b>	特定のアプリケーションを起動またはイネーブルにします。
<b>application stop</b>	特定のアプリケーションを停止またはディセーブルにします。
<b>application upgrade</b>	特定のアプリケーションをアップグレードします。
<b>backup</b>	バックアップ (Cisco ISE と Cisco ADE OS) を実行して、そのバックアップをリポジトリに保存します。
<b>backup-logs</b>	Cisco ISE サーバに記録されているすべてのログをリモートの場所にバックアップします。
<b>clock</b>	Cisco ISE サーバのシステム クロックを設定します。
<b>configure</b>	設定モードを開始します。
<b>copy</b>	コピー元からコピー先に任意のファイルをコピーします。
<b>debug</b>	さまざまなコマンド状況 (たとえば、バックアップと復元、コンフィギュレーション、コピー、リソースのロック、ファイル転送、ユーザ管理など) で、エラーまたはイベントを表示します。
<b>delete</b>	Cisco ISE サーバ上のファイルを削除します。
<b>dir</b>	Cisco ISE サーバのファイルを一覧表示します。
<b>forceout</b>	特定の Cisco ISE ノード ユーザのすべてのセッションを強制的にログアウトします。
<b>halt</b>	Cisco ISE サーバをディセーブルにするか、シャットダウンします。
<b>mkdir</b>	新しいディレクトリを作成します。
<b>nslookup</b>	リモート システムの IPv4 または IPv6 アドレス、あるいはホスト名を問い合わせます。
<b>password</b>	CLI アカウント パスワードを更新します。
<b>patch</b>	パッチバンドルをインストールする、またはアプリケーションのパッチをアンインストールします。
<b>ping</b>	リモート システムの IPv4 アドレスまたはホスト名を特定します。

コマンド	説明
<b>ping6</b>	リモートシステムの IPv6 アドレスを特定します。
<b>reload</b>	Cisco ISE サーバを再起動します。
<b>restore</b>	復元を実行して、リポジトリからバックアップを取得します。
<b>rmdir</b>	既存のディレクトリを削除します。
<b>show</b>	Cisco ISE サーバに関する情報を提供します。
<b>ssh</b>	リモートシステムとの暗号化されたセッションを開始します。
<b>tech</b>	Technical Assistance Center (TAC) コマンドを提供します。
<b>telnet</b>	リモートシステムへの Telnet 接続を確立します。
<b>terminal length</b>	端末回線のパラメータを設定します。
<b>terminal session-timeout</b>	すべてのターミナルセッションに対して、無活動タイムアウトを設定します。
<b>terminal session-welcome</b>	すべてのターミナルセッションで表示される初期メッセージをシステムに設定します。
<b>terminal terminal-type</b>	現在のセッションの現在の回線に接続されている端末のタイプを指定します。
<b>traceroute</b>	リモート IP アドレスのルートを追跡します。
<b>undebg</b>	さまざまなコマンド状況（たとえば、バックアップと復元、コンフィギュレーション、コピー、リソースのロック、ファイル転送、ユーザ管理など）で、 <b>debug</b> コマンドの出力（エラーまたはイベントの表示）をディセーブルにします。
<b>write</b>	強制的にセットアップユーティリティを実行してネットワークコンフィギュレーションをプロンプトするスタートアップコンフィギュレーションを消去し、実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーし、コンソールに実行コンフィギュレーションを表示します。

### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンドモード

コンフィギュレーション (config) # または任意のコンフィギュレーションサブモード (config-GigabitEthernet) # と (config-Repository) #

## 使用上のガイドライン

この **do** コマンドは、Cisco ISE サーバの設定中に、EXEC コマンド (**show**、**clear**、**debug** などの各コマンド) を実行する場合に使用します。EXEC コマンドの実行後、システムは使用していたコンフィギュレーションモードに戻ります。

### 例

```
ise/admin(config)# do show run
Generating configuration...
!
hostname ise
!
ip domain-name cisco.com
!
interface GigabitEthernet 0
 ip address 172.23.90.113 255.255.255.0
 ipv6 address autoconfig
!
ip name-server 171.70.168.183
!
ip default-gateway 172.23.90.1
!
clock timezone EST
!
ntp server time.nist.gov
!
username admin password hash $1$JbbHvKVG$xMZ/XL4tH15Knf.FfcZZr. role admin
!
service sshd
!
backup-staging-url nfs://loc-filer02a:/vol/local1/private1/jdoe
!
password-policy
 lower-case-required
 upper-case-required
 digit-required
 no-username
 disable-cisco-passwords
 min-password-length 6
!
logging localhost
logging loglevel 6
!
--More--
ise/admin(config)#
```

## end

現在のコンフィギュレーションセッションを終了して、EXEC モードに戻るには、コンフィギュレーションモードで **end** コマンドを使用します。

このコマンドには、キーワードおよび引数はありません。

**end**

---

#### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

---

#### コマンド モード

コンフィギュレーション (config) #

---

#### 使用上のガイドライン

このコマンドは、現在のコンフィギュレーション モードやサブモードにかかわらず、EXEC モードに移行します。

このコマンドは、システム設定を終了し、EXEC モードに戻って、検証手順を実行する場合に使用します。

#### 例

```
ise/admin(config)# end  
ise/admin#
```

#### 関連トピック

[exit](#), (137 ページ)

## exit

コンフィギュレーション モードを終了して、CLI モード階層で次に高いモードに移行するには、コンフィギュレーション モードで **exit** コマンドを使用します。

#### exit

このコマンドには、キーワードおよび引数はありません。

---

#### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

---

#### コマンド モード

コンフィギュレーション (config) #

---

#### 使用上のガイドライン

**exit** コマンドは、Cisco ISE サーバで、現在のコマンド モードを終了して、CLI モード階層で次に高いコマンド モードに移行する場合に使用します。

たとえば、EXEC モードに戻るには、コンフィギュレーションモードで **exit** コマンドを使用します。コンフィギュレーションサブモードで **exit** コマンドを使用すると、コンフィギュレーションモードに戻ります。最高レベルの EXEC モードでは、**exit** コマンドは EXEC モードを終了し、Cisco ISE サーバから切断します。

### 例

```
ise/admin(config)# exit
ise/admin#
```

### 関連トピック

[end](#), (136 ページ)

[exit](#), (137 ページ)

## hostname

システムのホスト名を設定するには、コンフィギュレーションモードで **hostname** コマンドを使用します。

**hostname** *hostname*

### 構文の説明

<i>hostname</i>	ホストの名前。19 文字までの英数字と下線 ( _ ) をサポートします。ホスト名はスペース以外の文字で始める必要があります。
-----------------	---

### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンド モード

コンフィギュレーション (config) #



使用上のガイドライン



(注) 「hostname」コマンドの CLI 設定変更中に「Ctrl+C」を発行すると、ホスト名を変更する場合、一部のアプリケーション コンポーネントは古いホスト名を持ち、他のコンポーネントは新しいホスト名を使用する状態になる可能性があります。これにより、Cisco ISE ノードは機能していない状態になります。

これを回避するには、別の「hostname」コンフィギュレーション CLI を発行して、ホスト名を目的の値に設定します。

現在のホスト名を変更するには、**hostname** コマンドを使用します。シングル インスタンス タイプのコマンドである **hostname** は、システムの設定時に一度だけ実行します。ホスト名には 1 つの引数を含める必要があります。引数がない場合、エラーが発生します。

このコマンドで Cisco ISE サーバのホスト名を更新する場合は、次の警告メッセージが表示されま

```
% Warning: Updating the hostname will cause any certificate using the old
% hostname to become invalid. Therefore, a new self-signed
% certificate using the new hostname will be generated now for
% use with HTTPs/EAP. If CA-signed certs were used on this node,
% please import them with the correct hostname. In addition, if
% this ISE node will be joining a new Active Directory domain,
% please leave your current Active Directory domain before
% proceeding. If this ISE node is already joined to
% an Active Directory domain, then it is strongly advised
% to rejoin all currently joined join-points in order to
% avoid possible mismatch between current and previous
% hostname and joined machine account name.
```

例

```
ise/admin(config)# hostname new-hostname
% Changing the hostname will cause ISE services to restart
Continue with hostname change? Y/N [N]: y
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Log Collector...
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Log Processor...
ISE Identity Mapping Service is disabled
ISE pxGrid processes are disabled
Stopping ISE Application Server...
Stopping ISE Certificate Authority Service...
Stopping ISE Profiler Database...
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Session Database...
Stopping ISE AD Connector...
Stopping ISE Database processes...
ISE Database processes already running, PID: 9651
Starting ISE Monitoring & Troubleshooting Session Database...
Starting ISE Profiler Database...
Starting ISE Application Server...
Starting ISE Certificate Authority Service...
Starting ISE Monitoring & Troubleshooting Log Processor...
Starting ISE Monitoring & Troubleshooting Log Collector...
Starting ISE AD Connector...
Note: ISE Processes are initializing. Use 'show application status ise'
      CLI to verify all processes are in running state.
ise-1/admin#
```

# icmp echo

インターネット制御メッセージプロトコル (ICMP) のエコー応答を設定するには、コンフィギュレーションモードで **icmp echo** コマンドを使用します。

**icmp echo** {*off*|*on*}

## 構文の説明

<b>echo</b>	ICMP エコー応答を設定します。
<i>off</i>	ICMP エコー応答をディセーブルにします。
<i>on</i>	ICMP エコー応答をイネーブルにします。

## コマンド デフォルト

システムは ICMP エコー応答がオン (イネーブル) の場合と同様に動作します。

## コマンド モード

コンフィギュレーション (config) #

## 使用上のガイドライン

ICMP エコー応答をオンまたはオフにするには、この **icmp echo** を使用します。

### 例

```
ise/admin(config)# icmp echo off
ise/admin(config)#
```

### 関連トピック

[show icmp-status](#), (93 ページ)

# interface

インターフェイスのタイプを設定してインターフェイスコンフィギュレーションモードを開始するには、コンフィギュレーションモードで **interface** コマンドを使用します。このコマンドには、**no** 形式はありません。



(注) VMware 仮想マシンで使用可能なインターフェイスの数は、仮想マシンに追加されるネットワーク インターフェイス (NIC) の数によって異なることがあります。

**interface GigabitEthernet {0|1|2|3}**

構文の説明

<b>GigabitEthernet</b>	ギガビット イーサネット インターフェイスを設定します。
0 ~ 3	設定するギガビット イーサネット ポートの数。



(注) **interface** コマンドでギガビットインターネットポートの数を入力した後、**config-GigabitEthernet** コンフィギュレーション サブモードを開始します (この「構文の説明」を参照)。

構文の説明

<b>do</b>	EXEC コマンド。このモードで EXEC コマンドを実行できません。
<b>end</b>	<b>config-GigabitEthernet</b> サブモードを終了し、EXEC モードに戻ります。
<b>exit</b>	<b>config-GigabitEthernet</b> コンフィギュレーション サブモードを終了します。
<b>ip</b>	ギガビット イーサネット インターフェイスの IP アドレスとネットマスクを設定します。
<b>ipv6</b>	DHCPv6 サーバから IPv6 アドレス自動設定および IPv6 アドレスを設定します。
<b>no</b>	このモードのコマンドを否定します。2つのキーワードを使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>ip</b> : インターフェイスの IP アドレスとネットマスクを設定します。</li> <li>• <b>ipv6</b> : インターフェイスの IPv6 アドレスを設定します。</li> <li>• <b>shutdown</b> : インターフェイスをシャットダウンします。</li> </ul>
<b>shutdown</b>	インターフェイスをシャットダウンします。

### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション (config-GigabitEthernet) #

### 使用上のガイドライン

**interface** コマンドは、さまざまな要件をサポートするサブインターフェイスを設定するために使用できます。

#### 例

```
ise/admin(config)# interface GigabitEthernet 0
ise/admin(config-GigabitEthernet) #
```

#### 関連トピック

- [do](#), (133 ページ)
- [ip address](#), (145 ページ)
- [ipv6 address autoconfig](#), (142 ページ)
- [ipv6 address dhcp](#), (144 ページ)
- [shutdown](#), (174 ページ)

## ipv6 address autoconfig

IPv6 ステートレス自動設定をイネーブルにするには、コンフィギュレーションモードで **interface GigabitEthernet 0** コマンドを使用します。このコマンドには、**no** 形式はありません。

IPv6 アドレス自動設定は、Linux ではデフォルトでイネーブルです。Cisco ADE 2.0 は、イネーブルになっている任意のインターフェイスの実行コンフィギュレーションで IPv6 アドレス自動設定を示します。

**interface GigabitEthernet** {0 | 1 | 2 | 3}

### 構文の説明

<b>GigabitEthernet</b>	ギガビット イーサネット インターフェイスを設定します。
0 ~ 3	設定するギガビット イーサネット ポートの数。

### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。 ション (config-GigabitEthernet) #

## 使用上のガイドライン

IPv6 ステートレス自動設定には、予測可能な IP アドレスを持つというセキュリティ面の落とし穴があります。この落とし穴は、プライバシーの拡張によって解決されます。**show** コマンドを使用して、プライバシー機能拡張がイネーブルになっていることを確認できます。

### 関連トピック

- [show interface, \(95 ページ\)](#)
- [ip address, \(145 ページ\)](#)
- [shutdown, \(174 ページ\)](#)
- [ipv6 address dhcp, \(144 ページ\)](#)
- [show running-config, \(108 ページ\)](#)
- [IPv6 自動設定の設定, \(143 ページ\)](#)
- [プライバシー拡張機能の確認, \(144 ページ\)](#)

## IPv6 自動設定の設定

IPv6 ステートレス自動設定をイネーブルにするには、インターフェイス コンフィギュレーションモードで **interface GigabitEthernet 0** コマンドを使用します。

```
ise/admin# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
ise/admin(config)# interface GigabitEthernet 0
ise/admin(config)# (config-GigabitEthernet)# ipv6 address autoconfig
ise/admin(config)# (config-GigabitEthernet)# end
ise/admin#
```

IPv6 自動設定がイネーブルの場合、実行コンフィギュレーションは次のようなインターフェイス設定を表示します。

```
!
interface GigabitEthernet 0
 ip address 172.23.90.116 255.255.255.0
 ipv6 address autoconfig
!
```

インターフェイス設定を表示するには、**show interface GigabitEthernet 0** コマンドを使用できます。次の例では、インターフェイスに 3 個の IPv6 アドレスがあることを確認できます。最初のアドレス (3ffe 以降) は、ステートレス自動設定を使用して取得されます。

ステートレス自動設定が機能するには、そのサブネットで IPv6 ルートアドバタイズメントがイネーブルになっている必要があります。次のアドレス (fe80 以降) は、ホストの外部にスコープが存在しないリンクローカルアドレスです。

IPv6 自動設定または DHCPv6 設定に関係なくリンクローカルアドレスが常に表示されます。最後のアドレス (2001 以降) は、IPv6 DHCP サーバから取得されます。

```
ise/admin# show interface GigabitEthernet 0
eth0      Link encap:Ethernet HWaddr 00:0C:29:AF:DA:05
inet addr:172.23.90.116 Bcast:172.23.90.255 Mask:255.255.255.0
inet6 addr: 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05/64 Scope:Global
inet6 addr: fe80::20c:29ff:feaf:da05/64 Scope:Link
```

```

inet6 addr: 2001:558:ff10:870:8000:29ff:fe36:200/64 Scope:Global
UP BROADCAST RUNNING MULTICAST MTU:1500 Metric:1
RX packets:77848 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
TX packets:23131 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
collisions:0 txqueuelen:1000
RX bytes:10699801 (10.2 MiB) TX bytes:3448374 (3.2 MiB)
Interrupt:59 Base address:0x2000
ise/admin#

```

## プライバシー拡張機能の確認

プライバシーの拡張機能がイネーブルであることを確認するには、**show interface GigabitEthernet 0** コマンドを使用できます。2つの自動設定アドレスが表示されます。1つのアドレスはプライバシー拡張なしで、もう1つはプライバシー拡張ありです。

次の例では MAC は 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05/64 で、非 RFC3041 アドレスには MAC が含まれています。プライバシー拡張アドレスは 302:11:2:9d65:e608:59a9:d4b9/64 です。

出力は次のように表示されます。

```

ise/admin# show interface GigabitEthernet 0
eth0      Link encap:Ethernet HWaddr 00:0C:29:AF:DA:05
          inet addr:172.23.90.116 Bcast:172.23.90.255 Mask:255.255.255.0
          inet6 addr: 3ffe:302:11:2:9d65:e608:59a9:d4b9/64 Scope:Global
          inet6 addr: 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05/64 Scope:Global
          inet6 addr: fe80::20c:29ff:feaf:da05/64 Scope:Link
          UP BROADCAST RUNNING MULTICAST MTU:1500 Metric:1
          RX packets:60606 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
          TX packets:2771 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
          collisions:0 txqueuelen:1000
          RX bytes:9430102 (8.9 MiB) TX bytes:466204 (455.2 KiB)
          Interrupt:59 Base address:0x2000
ise/admin#

```

## ipv6 address dhcp

IPv6 アドレス DHCP をイネーブルにするには、コンフィギュレーションモードで **interface GigabitEthernet 0** コマンドを使用します。このコマンドには、**no** 形式はありません。

**interface GigabitEthernet {0|1|2|3}**

### 構文の説明

<b>GigabitEthernet</b>	ギガビットイーサネットインターフェイスを設定します。
0 ~ 3	設定するギガビットイーサネットポートの数。

### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション (config-GigabitEthernet) #

## 使用上のガイドライン

### 例

```
ise/admin# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
ise/admin(config)# interface GigabitEthernet 0
ise/admin(config-GigabitEthernet)# ipv6 address dhcp
ise/admin(config-GigabitEthernet)# end
ise/admin#
```

IPv6 DHCP がイネーブルの場合、実行コンフィギュレーションは次のようなインターフェイス設定を表示します。

```
!
interface GigabitEthernet 0
 ip address 172.23.90.116 255.255.255.0
 ipv6 address dhcp
!
```



(注) IPv6 ステータス自動設定および IPv6 アドレス DHCP は相互に排他的ではありません。同じインターフェイスに IPv6 ステータス自動設定および IPv6 アドレス DHCP の両方を指定できます。

どの IPv6 アドレスが特定のインターフェイスで使用されているかを表示するには、**show interface** を使用できます。

IPv6 ステータス自動設定および IPv6 アドレス DHCP の両方がイネーブルの場合、実行コンフィギュレーションは次のようなインターフェイス設定を表示します。

```
!
interface GigabitEthernet 0
 ip address 172.23.90.116 255.255.255.0
 ipv6 address dhcp
!
```

### 関連トピック

- [show interface, \(95 ページ\)](#)
- [ip address, \(145 ページ\)](#)
- [shutdown, \(174 ページ\)](#)
- [ipv6 address autoconfig, \(142 ページ\)](#)
- [show running-config, \(108 ページ\)](#)

## ip address

GigabitEthernet インターフェイスの IP アドレスとネットマスクを設定するには、インターフェイス コンフィギュレーションモードで **ip address** コマンドを使用します。

**ip address** *ip-address network mask*

IP アドレスを削除するか、IP プロセッシングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**no ip address**



(注) 複数のインターフェイスで、同じ IP アドレスを設定できます。この設定により、2つのインターフェイス間の切り替えに必要なコンフィギュレーション手順を制限できます。

構文の説明

<i>ip-address</i>	IPv4 アドレス。
<i>network mask</i>	関連付けられた IP サブネットのマスク。

コマンド デフォルト

イネーブル。

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション (config-GigabitEthernet) #

使用上のガイドライン



(注) 「ip address」コマンドの CLI 設定変更中に「Ctrl+C」を発行すると、IP アドレスを変更する場合、一部のアプリケーション コンポーネントは古い IP アドレスを使用し、他のコンポーネントは新しい IP アドレスを使用する状態になる可能性があります。

これにより、Cisco ISE ノードは機能していない状態になります。これを回避するには、別の「ip address」コンフィギュレーション CLI を発行して、IP アドレスを目的の値に設定します。

アドレスとネットマスクを必ず 1 つずつ指定する必要があります。指定しない場合、エラーが発生します。

例

```
ise/admin(config)# interface GigabitEthernet 1
ise/admin(config-GigabitEthernet)# ip address 209.165.200.227 255.255.255.224
Changing the hostname or IP may result in undesired side effects,
such as installed application(s) being restarted.
.....
To verify that ISE processes are running, use the
'show application status ise' command.
ise/admin(config-GigabitEthernet)#
```



関連トピック

- [shutdown, \(174 ページ\)](#)
- [ip default-gateway, \(147 ページ\)](#)
- [interface, \(140 ページ\)](#)
- [show interface, \(95 ページ\)](#)

## ip default-gateway

IP アドレスを指定してデフォルト ゲートウェイを定義または設定するには、コンフィギュレーションモードで **ip default-gateway** コマンドを使用します。

**ip default-gateway ip-address**

この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**no ip default-gateway**

構文の説明

<b>default-gateway</b>	IP アドレスを指定してデフォルト ゲートウェイを定義します。
<i>ip-address</i>	デフォルト ゲートウェイの IP アドレス。

コマンド デフォルト

ディセーブル。

コマンド モード

コンフィギュレーション (config) #

使用上のガイドライン

複数の引数を指定した場合、または引数を指定していない場合はエラーが発生します。

デフォルト ゲートウェイの IP アドレスを変更すると、**Inline Posture** ノード固有のすべてのネットワーク設定に変更が反映されたときに、**Inline Posture** アプリケーションが再起動されます。

例

```
ise/admin(config)# ip default-gateway 209.165.202.129
ise/admin(config)#
```

関連トピック

- [ip address, \(145 ページ\)](#)

# ip domain-name

Cisco ISE サーバがホスト名を完成させるために使用するデフォルトのドメイン名を定義するには、コンフィギュレーションモードで **ip domain-name** コマンドを使用します。

**ip domain-name** *domain-name*

この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**no ip domain-name**

## 構文の説明

<b>domain-name</b>	デフォルトのドメイン名を定義します。
<i>domain-name</i>	ホスト名を完成させるために使用するデフォルトのドメイン名。2～64文字の英数字で指定します。

## コマンド デフォルト

イネーブル。

## コマンド モード

コンフィギュレーション (config) #

## 使用上のガイドライン



(注) 「ip domain-name」コマンドの CLI 設定変更中に「Ctrl+C」を発行すると、IP ドメイン名を変更する場合、一部のアプリケーションコンポーネントは古いドメイン名を持ち、他のコンポーネントは新しいドメイン名を使用する状態になる可能性があります。

これにより、Cisco ISE ノードは機能していない状態になります。これを回避するには、別の「ip domain-name」コンフィギュレーション CLI を発行して、ドメイン名を目的の値に設定します。

入力した引数が多すぎる場合または不足している場合、エラーが発生します。

このコマンドで Cisco ISE サーバのドメイン名を更新する場合は、次の警告メッセージが表示されます。

```
Warning: Updating the domain name will cause any certificate using the old
domain name to become invalid. Therefore, a new self-signed certificate using the new domain
name will be generated now for use with HTTPs/EAP. If CA-signed certificates were used on
this
node, please import them with the correct domain name. In addition, if this ISE node will
be
joining a new Active Directory domain, please leave your current Active Directory domain
```

before  
proceeding.

例

```
ise/admin(config)# ip domain-name cisco.com
ise/admin(config)#
```

関連トピック

[ip name-server](#), (150 ページ)

# ip host

eth1、eth2、eth3 など eth0 以外のホストエイリアスと完全修飾ドメイン名 (FQDN) 文字列をイーサネット インターフェイスに関連付けるには、コンフィギュレーション モードで **ip host** コマンドを使用します。

**ip host IP-address host-alias FQDN-string**

ホストエイリアスと FQDN の関連付けを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**no ip-host IP-address host-alias FQDN-string**

構文の説明

<b>host</b>	eth1、eth2、eth3 など、eth0 以外のホストのエイリアスと FQDN 文字列をイーサネット インターフェイスに設定します。
<b>IP-address</b>	ホストの IPv4 アドレス。
<i>host-alias</i>	ホストのエイリアスは、ネットワーク インターフェイスに割り当てる名前です。
<i>FQDN-string</i>	ネットワーク インターフェイスの完全修飾ドメイン名 (FQDN)。

コマンドモード

コンフィギュレーション (config) #

使用上のガイドライン

IP アドレス マッピングのホストエイリアスと完全修飾ドメイン名 (FQDN) 文字列を追加するには、**ip host** コマンドを使用します。eth1、eth2、eth3 などのイーサネット インターフェイスに一致する FQDN を検索する場合に使用します。ホストのエイリアスの定義を表示するには、**show running-config** コマンドを使用します。



(注) eth0 の IP アドレスからホスト名へのマッピングは、**hostname** コマンドおよび **ip domain-name** コマンドによって規定される、`/etc/hosts` ファイルの次のような値を使用して形成されます。  
`<ipaddressofeth0> <hostnamevalue> <hostnamevalue>.<domain-namevalue>`

例

```
ise/admin(config)# ip host 172.21.79.96 isel isel.cisco.com
Host alias was modified. You must restart ISE for change to take effect.
Do you want to restart ISE now? (yes/no) yes
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Log Processor...
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Log Collector...
Stopping ISE Application Server...
Stopping ISE Profiler DB...
Stopping ISE Monitoring & Troubleshooting Session Database...
Stopping ISE Database processes...
Starting ISE Database processes...
Stopping ISE Database processes...
Starting ISE Database processes...
Starting ISE Monitoring & Troubleshooting Session Database...
Starting ISE Profiler DB...
Starting ISE Application Server...
Starting ISE Monitoring & Troubleshooting Log Collector...
Starting ISE Monitoring & Troubleshooting Log Processor...
Note: ISE Processes are initializing. Use 'show application status ise'
      CLI to verify all processes are in running state.
ise/admin(config)#
```

関連トピック

[ip domain-name](#), (148 ページ)

# ip name-server

DNS クエリー実行時に使用するドメイン ネーム サーバ (DNS) を設定するには、コンフィギュレーションモードで **ip name-server** コマンドを使用します。1～4 台の DNS サーバを設定できます。

**ip name-server ip-address {ip-address\*}**

この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**no ip name-server ip-address {ip-address\*}**



(注) このコマンドの **no** 形式を使用すると、コンフィギュレーションからすべてのネームサーバが削除されます。このコマンドの **no** 形式と IP 名の 1 つを使用すると、その IP ネームサーバだけが削除されます。

構文の説明

<b>name-server</b>	使用するネームサーバの IP アドレスを設定します。
--------------------	----------------------------

<i>ip-address</i>	ネーム サーバのアドレス。
<i>ip-address*</i>	(任意)。追加のネーム サーバの IP アドレス。 (注) ネーム サーバに 3 つの IPv4 アドレスと 1 つの IPv6 アドレスを設定できます。

**コマンド デフォルト**

デフォルトの動作や値はありません。

**コマンド モード**

コンフィギュレーション (config) #

**使用上のガイドライン**

**ip name-server** コマンドを使用して追加された最初のネームサーバは最初の位置に配置されます。システムはそのサーバを最初に使用して、IP アドレスを解決します。

IPv4 または IPv6 アドレスを使用してシステムにネームサーバを追加できます。1 つのコマンドで、1 ~ 3 つの IPv4 アドレスを設定できます。システムにすでに 3 台のネームサーバが設定されている場合、少なくとも 1 台を削除するまでネームサーバを追加できません。

1 台のネームサーバを最初の位置に配置して、サブシステムがまずそのサーバを使用するようにするには、このコマンドの **no** 形式を使用してすべてのネームサーバを削除してから処理を進める必要があります。

Cisco ISE サーバを再起動しないように選択できますが、それでも変更は有効になります。

**例 1**

```
ise/admin(config)# ip name-server ?
<A.B.C.D> Primary DNS server IP address
<A.B.C.D> DNS server 2 IP address
<A.B.C.D> DNS server 3 IP address
<X:X:X::X> IPv6 DNS server address
ise/admin(config)# ip name-server
```

**例 2**

IP ネームサーバを設定した後に、次の出力が表示されます。

```
ise/admin# show run | in name-server
ip name-server 171.70.168.183 171.68.226.120 64.102.6.247
ip name-server 3201:db8:0:20:f41d:eee:7e66:4eba
ise/admin#
```

**例 3**

```
ise/admin(config)# ip name-server ?
```

```
ip name-server 10.126.107.120 10.126.107.107 10.106.230.244
DNS Server was modified. If you modified this setting for AD connectivity, you must restart
ISE for the change to take effect.
Do you want to restart ISE now? (yes/no)
```

関連トピック

[ip domain-name](#), (148 ページ)

# ip route

スタティック ルートを設定するには、コンフィギュレーションモードで **ip route** コマンドを使用します。スタティック ルートを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**ip route** *prefix mask gateway ip-address*

**no ip route** *prefix mask*

構文の説明

<i>prefix</i>	宛先の IP ルート プレフィクス。
<i>mask</i>	宛先のプレフィクス マスク。
<i>ip-address</i>	ネットワークに到達するために使用可能なネクストホップの IP アドレス。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

コンフィギュレーション (config) #

使用上のガイドライン

スタティック ルートは手動で設定されます。これによって、柔軟性が低くなります（ネットワーク トポロジの変更に動的に適応できません）が、安定性は非常に高くなります。スタティック ルートでは、維持するためにルーティングの更新を送信される必要がないため、帯域幅使用率が最適化されます。また、ルーティング ポリシーの実施が容易になります。

**ip route** コマンドは個々の Cisco ISE ノードでスタティック ルートを定義するために使用できますが、このコマンドは、各インターフェイスのデフォルトルートを定義し、マルチインターフェイス IP ノード固有の非対称 IP 転送の影響を減らすために拡張されました。

単一のデフォルトルートがマルチインターフェイスノードに設定されている場合、ノードのいずれかの IP インターフェイスから受信したすべての IP トラフィックは、非対称 IP 転送を生成する

デフォルト ゲートウェイのネクストホップにルーティングされます。 Cisco ISE ノードに複数のデフォルト ルートを設定すると、非対称転送の影響がなくなります。

次の例に、複数のデフォルト ルートを設定する方法を示します。

Cisco ISE ノード eth0、eth1、eth2、および eth3 インターフェイスの次のインターフェイス設定についてそれぞれ考えてみてください。

```
ISE InterfaceIPNetworkGateway
192.168.114.10 192.168.114.0 192.168.114.1
192.168.115.10 192.168.115.0 192.168.115.1
192.168.116.10 192.168.116.0 192.168.116.1
192.168.117.10 192.168.117.0 192.168.117.1
```

**ip route** コマンドは、ここでは各インターフェイスのデフォルト ルートを定義するために使用されます。

```
ise/admin(config)# ip route 0.0.0.0 0.0.0.0 192.168.114.1
ise/admin(config)# ip route 0.0.0.0 0.0.0.0 192.168.115.1
ise/admin(config)# ip route 0.0.0.0 0.0.0.0 192.168.116.1
ise/admin(config)# ip route 0.0.0.0 0.0.0.0 192.168.117.1
ise/admin(config)# ip default-gateway 192.168.114.1
```



(注) 上記の「ip default-gateway」は、すべてのインターフェイスのラストリゾートのルートです。

**show route** コマンドは、**ip route** コマンドを使用して作成されたスタティック ルート（デフォルトルートとデフォルト以外のルート）および「ip default gateway」コマンドを使用して設定されたルートを含むシステムによって作成されたルートの出力を表示します。これは、各ルートの発信インターフェイスを表示します。



(注) インターフェイスの IP アドレスを変更した場合、到達不能なゲートウェイのためにいずれかのスタティックルートが到達不能になると、そのスタティックルートは実行コンフィギュレーションから削除されます。到達不能になったルートはコンソールに表示されます。

## 例 2

```
ise/admin(config)# ip route 192.168.0.0 255.255.0.0 gateway 172.23.90.2
ise/admin(config)#
```

# kron occurrence

1 つ以上のコマンド スケジューラ コマンドが、特定の日に、または繰り返される基準で実行されるようにスケジューリングするには、コンフィギュレーションモードで **kron occurrence** コマンドを使用します。このスケジュールを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**kron occurrence occurrence-name**

### 構文の説明

**occurrence** コマンドスケジューラ コマンドをスケジューリングします。

*occurrence-name* オカレンスの名前。最大 80 文字の英数字をサポートします。  
(次の「注」と「構文の説明」を参照)。



(注) **kron occurrence** コマンドで *occurrence-name* を入力すると、**config-Occurrence** コンフィギュレーションサブモードに入ります (次の「構文の説明」を参照)。

構文の説明

<b>at</b>	指定した日時にオカレンスが実行されるように指定します。 使用方法 : <b>at</b> [ <i>hh:mm</i> ] [ <i>day-of-week</i>   <i>day-of-month</i>   <i>month day-of-month</i> ]
<b>do</b>	EXEC コマンド。このモードで EXEC コマンドを実行できません。
<b>end</b>	<b>kron-occurrence</b> コンフィギュレーションサブモードを終了し、EXEC モードに戻ります。
<b>exit</b>	<b>kron-occurrence</b> コンフィギュレーションモードを終了します。
<b>no</b>	このモードのコマンドを否定します。 3つのキーワードを使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>at</b> : 使用方法 : <b>at</b> [<i>hh:mm</i>] [<i>day-of-week</i>   <i>day-of-month</i>   <i>month day-of-month</i>]</li> <li>• <b>policy-list</b> : オカレンスによって実行されるポリシーリストを指定します。最大 80 文字の英数字をサポートします。</li> <li>• <b>recurring</b> : ポリシーリストの実行を繰り返します。</li> </ul>
<b>policy-list</b>	オカレンスによって実行されるコマンドスケジューラポリシーリストを指定します。
<b>recurring</b>	繰り返して実行するオカレンスを指定します。 (注) <b>kron</b> オカレンスが繰り返されない場合、スケジュールバックアップの <b>kron</b> オカレンスの設定が実行後に削除されます。

コマンド モデル

デフォルトの動作値は **config(occurrence) #**



## 使用上のガイドライン

**kron occurrence** コマンドおよび **policy-list** コマンドを使用して、1つ以上のポリシー リストを同じ時間または間隔で実行されるようにスケジュールします。

EXEC CLI コマンドを含むコマンドスケジューラ ポリシーを作成して、指定した時刻に Cisco ISE サーバで実行されるようにスケジュールするには、**cli** コマンドとともに **kron policy-list** コマンドを使用します。



(注) **kron** コマンドを実行すると、一意の名前（タイムスタンプの追加により）でバックアップバンドルが作成されるため、ファイルが互いに上書きされることはありません。



(注) [管理 (Administration)] > [システム (System)] > [バックアップと復元 (Backup and Restore)] ページを使用して、GUIから設定および監視バックアップをスケジュールすることをお勧めします。

### 例 1：週次バックアップ

```
ise/admin(config)# kron occurrence WeeklyBackup
ise/admin(config-Occurrence)# at 14:35 Monday
ise/admin(config-Occurrence)# policy-list SchedBackupPolicy
ise/admin(config-Occurrence)# recurring
ise/admin(config-Occurrence)# exit
ise/admin(config)#
```

### 例 2：日次バックアップ

```
ise/admin(config)# kron occurrence DailyBackup
ise/admin(config-Occurrence)# at 02:00
ise/admin(config-Occurrence)# exit
ise/admin(config)#
```

### 例 3：週次バックアップ

```
ise/admin(config)# kron occurrence WeeklyBackup
ise/admin(config-Occurrence)# at 14:35 Monday
ise/admin(config-Occurrence)# policy-list SchedBackupPolicy
ise/admin(config-Occurrence)# no recurring
ise/admin(config-Occurrence)# exit
ise/admin(config)#
```

### 関連トピック

[kron policy-list](#), (156 ページ)

# kron policy-list

コマンドスケジューラポリシーの名前を指定し、kron-Policy List コンフィギュレーションサブモードを開始するには、コンフィギュレーションモードで **kron policy-list** コマンドを使用します。コマンドスケジューラポリシーを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**kron policy-list** *list-name*

## 構文の説明

<b>policy-list</b>	コマンドスケジューラポリシーの名前を指定します。
<i>list-name</i>	ポリシーリストの名前。最大 80 文字の英数字をサポートします。



(注) **kron policy-list** コマンドで *list-name* を入力すると、config-Policy List コンフィギュレーションサブモードに入ります (この「構文の説明」を参照)。

## 構文の説明

<b>cli</b>	スケジューラによって実行されるコマンド。最大 80 文字の英数字をサポートします。
<b>do</b>	EXEC コマンド。このモードで EXEC コマンドを実行できます。
<b>end</b>	config-Policy List コンフィギュレーションサブモードを終了し、EXEC モードに戻ります。
<b>exit</b>	このサブモードを終了します。
<b>no</b>	このモードのコマンドを否定します。次の 1 つのキーワードを使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• cli : スケジューラによって実行されるコマンド。</li> </ul>

## コマンドデフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンドモード

コンフィギュレーション (config-Policy List) #

使用上のガイドライン

EXEC CLI コマンドを含むコマンドスケジューラポリシーを作成して、指定した時刻に ISE サーバで実行されるようにスケジューリングするには、**kron policy-list** コマンドとともに **cli** コマンドを使用します。**kron occurrence** コマンドおよび **policy list** コマンドを使用して、1 つ以上のポリシーリストを同じ時間または間隔で実行されるようにスケジュールします。

例

```
ise/admin(config)# kron policy-list SchedBackupMonday
ise/admin(config-Policy List)# cli backup SchedBackupMonday repository SchedBackupRepo
ise/admin(config-Policy List)# exit
ise/admin(config)#
```

関連トピック

[kron occurrence, \(153 ページ\)](#)

# logging

ログレベルを設定するには、コンフィギュレーションモードで **logging** コマンドを使用します。

**logging loglevel {0|1|2|3|4|5|6|7}**

この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**no logging**

構文の説明

loglevel	logging コマンドのログレベルを設定するコマンド。
0 ~ 7	<p>ログメッセージをセットする目的のプライオリティレベル。プライオリティレベルは以下のとおりです（キーワードの番号を入力）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0-emerg（緊急事態）：システムが使用不可。</li> <li>• 1-alert（アラート）：ただちに処置が必要。</li> <li>• 2-crit（クリティカル）：クリティカルな状態。</li> <li>• 3-err（エラー）：エラー状態。</li> <li>• 4-warn（警告）：警告状態。</li> <li>• 5-notif（通知）：正常であるが、重要な状態。</li> <li>• 6-inform：（デフォルト）情報メッセージ。</li> <li>• 7-debug：デバッグメッセージ。</li> </ul>

使用上のガイドライン

このコマンドの動作を **loglevel config** コマンドが必要です。

例

```
ise/admin(config)# logging loglevel 0
ise/admin(config)#
```

関連トピック

[show logging](#), (99 ページ)

## max-ssh-sessions

分散展開の各ノードについて、コマンドライン インターフェイス (CLI) の同時セッションの最大数を設定するには、コンフィギュレーションモードで **max-ssh-sessions** コマンドを使用します。

**max-ssh-sessions** {0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10}

構文の説明

1 ~ 10

同時 SSH セッションの数。デフォルトは 5 です。

コマンド デフォルト

許可される最大同時 CLI セッション数のデフォルトは、Cisco ISE 管理者ポータルから 5 に設定されます。

コマンド モード

コンフィギュレーション (config) #

使用上のガイドライン

max-ssh-sessions パラメータはコマンドライン インターフェイスから設定可能ではありません。アクティブ CLI セッションの最大数は、プライマリ管理 ISE 管理者ポータルから複製されます。

CLI セッションの最大数を超えると、このセッションを閉じているコマンドライン インターフェイスに「最大アクティブ SSH セッション数に到達 (Maximum active ssh sessions reached)」メッセージが表示され、下部に「未接続：続行するには Enter または Space を押します (Not connected - press Enter or Space to connect)」というメッセージが表示されます。

コンソールから CLI にログインし、**forceout username** コマンドを使用すると、ユーザをログアウトさせてアクティブな SSH セッションの数を削減できます。

コマンドライン インターフェイス (CLI) セッションの最大数を設定するためのナビゲーションパスは、Cisco ISE 管理者ポータルの [セッション (Session) ] タブの次の場所にあります。[管理 (Administration) ]>[システム (System) ]>[管理者アクセス (Admin Access) ]>[設定 (Settings) ]>[アクセス (Access) ]。

関連トピック

[show running-config](#), (108 ページ)

# ntp

NTP コンフィギュレーションを指定するには、コンフィギュレーションモードで **ntp** コマンドを **authenticate**、**authentication-key**、**server**、および **trusted-key** コマンドとともに使用します。

**ntp authenticate**

**ntp authentication-key** <key id> md5hash | plain <key value>

**ntp server** {ip-address | hostname} key <peer key number>

**ntp trusted-key** <key>

**no ntp server**

構文の説明

<b>authenticate</b>	すべての時刻源の認証をイネーブルにします。
<b>authentication-key</b>	信頼できる時刻源の認証キーを指定します。
<b>server</b>	使用する NTP サーバを指定します。
<b>trusted-key</b>	信頼できる時刻源のキー番号を指定します。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

コンフィギュレーション (config) #

使用上のガイドライン

**ntp** コマンドを使用して NTP コンフィギュレーションを指定します。

NTP サービスをデバイスで停止するには、**no ntp** コマンドをキーワードまたは **authenticate**、**authentication-key**、**server**、および **trusted-key** などの引数とともに入力する必要があります。たとえば、以前に **ntp server** コマンドを発行した場合は、**server** とともに **no ntp** コマンドを使用します。

例

```
ise/admin(config)# ntp ?
```

```

authenticate          Authenticate time sources
authentication-key    Authentication key for trusted time sources
server                Specify NTP server to use
trusted-key           Key numbers for trusted time sources
ise/admin(config)#
ise/admin(config)# no ntp server
ise/admin(config)# do show ntp
% no NTP servers configured
ise/admin(config)#
    
```

### 関連トピック

- [ntp authenticate, \(160 ページ\)](#)
- [ntp authentication-key, \(161 ページ\)](#)
- [ntp server, \(162 ページ\)](#)
- [ntp trusted-key, \(165 ページ\)](#)
- [show ntp, \(102 ページ\)](#)

## ntp authenticate

すべての時刻源の認証をイネーブルにするには、**ntp authenticate** コマンドを使用します。NTP 認証キーのない時刻源は同期されません。

この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

### ntp authenticate

#### 構文の説明

**authenticate** 全ての時刻源の認証をイネーブルにします。

#### コマンド デフォルト

なし

#### コマンド モード

コンフィギュレーション (config) #

#### 使用上のガイドライン

**ntp authenticate** コマンドを使用して、すべての時間源の認証をイネーブルにします。このコマンドは任意であり、このコマンドを指定しなくても認証は機能します。

一部のサーバのみが認証を必要とする混在モードで認証する場合、つまり一部のサーバのみ認証用に設定されているキーが必要な場合は、このコマンドを実行してはなりません。

例

```
ise/admin(config)# ntp authenticate
ise/admin(config)#
```

関連トピック

- [ntp, \(159 ページ\)](#)
- [ntp authentication-key, \(161 ページ\)](#)
- [ntp server, \(162 ページ\)](#)
- [ntp trusted-key, \(165 ページ\)](#)
- [show ntp, \(102 ページ\)](#)

## ntp authentication-key

時刻源に認証キーを指定するには、固有識別子およびキー値を指定して、**ntp authentication-key** コマンドをコンフィギュレーション コマンドで使用します。

**ntp authentication-key** *key id* **md5 hash | plain** *key value*

この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**no ntp authentication-key**

構文の説明

<b>authentication-key</b>	信頼できる時刻源の認証キーを設定します。
<i>key id</i>	このキーに割り当てる ID。1 から 65535 までの数値がサポートされます。
<b>md5</b>	認証キーの暗号化タイプ。
<b>hash</b>	認証のハッシュされたキー。暗号化タイプに続けて、暗号化された (ハッシュされた) キーを指定します。最大 40 文字までサポートします。
<b>plain</b>	認証用のプレーンテキストのキー。暗号化タイプに続けて、暗号化されていないプレーンテキスト キーを指定します。15 文字までで指定します。
<i>key value</i>	上記の <b>md5 plain   hash</b> のいずれかに一致する形式のキー値。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

コンフィギュレーション (config) #。

## 使用上のガイドライン

**ntp authentication-key** コマンドを使用して NTP 認証の認証キーを持つ時間源を設定し、関連するキー ID、キー暗号化タイプ、およびキー値の設定を指定します。このキーを **ntp server** コマンドに追加する前に、このキーを信頼リストに追加します。

信頼リストに追加されている NTP 認証キーのない時刻源は同期されません。



(注) **show running-config** コマンドは、セキュリティのため、Message Digest 5 (MD5) プレーン形式で入力されたキーを常にハッシュ形式に変換して表示します。たとえば、**ntp authentication-key 1 md5 hashee18afc7608ac7ecdbeefc5351ad118bc9ce1ef3** です。

### 例 1

```
ise/admin# configure
ise/admin(config)#
ise/admin(config)# ntp authentication-key 1 md5 plain SharedWithServe
ise/admin(config)# ntp authentication-key 2 md5 plain SharedWithServ
ise/admin(config)# ntp authentication-key 3 md5 plain SharedWithSer
```

### 例 2

```
ise/admin(config)# no ntp authentication-key 3
(Removes authentication key 3.)
```

### 例 3

```
ise/admin(config)# no ntp authentication-key
(Removes all authentication keys.)
```

### 関連トピック

- [ntp, \(159 ページ\)](#)
- [ntp authenticate, \(160 ページ\)](#)
- [ntp server, \(162 ページ\)](#)
- [ntp trusted-key, \(165 ページ\)](#)
- [show ntp, \(102 ページ\)](#)

## ntp server

NTP サーバによるシステムのソフトウェアクロックの同期を許可するには、コンフィギュレーションモードで **ntp server** コマンドを使用します。それぞれ別個の行にキーを指定した最大 3 台のサーバを許可します。キーはオプションパラメータですが、NTP 認証にはキーが必要です。

Cisco ISE には、常に有効で到達可能な NTP サーバが必要です。



キーはオプションパラメータですが、NTP サーバを認証する必要がある場合は、キーを設定する必要があります。

NTP サーバを削除し、別の 1 台を追加する場合にのみ、このコマンドの **no** 形式を使用して、この機能をディセーブルにします。

**ntp server** {*ip-address* | *hostname*} *key* <*peer key number*>

構文の説明

<b>server</b>	システムによって、指定されたサーバと同期されます。
<i>ip-address</i>   <i>hostname</i>	時計の同期を提供するサーバの IP アドレスまたはホスト名。引数は 255 文字までの英数字で指定します。
<i>key</i>	(任意)。ピアのキー番号。最大 65535 桁までサポートします。  このキーは、 <b>ntp authentication-key</b> コマンドを使用してキー値指定して定義する必要があります。また、 <b>ntp trusted-key</b> コマンドを使用して信頼キーとして追加される必要もあります。  認証を実行するために、キーとキーの値は実際の NTP サーバに定義されているキーと同じ値にする必要があります。

コマンド デフォルト

デフォルトで設定されているサーバはありません。

コマンド モード

コンフィギュレーション (config) #

使用上のガイドライン

システムによって指定されたサーバと同期できるようにするには、この **ntp server** コマンドを信頼キーとともに使用します。

キーはオプションですが、NTP 認証には必要です。このキーを最初に **ntp authentication-key** コマンドに定義して、このキーを **ntp trusted-key** コマンドに追加すると、それを **ntp server** コマンドに追加できるようになります。

**show ntp** コマンドは同期化のステータスを表示します。設定されたいずれの NTP サーバも到達可能ではなく、認証されていない場合 (NTP 認証が設定されている場合)、このコマンドによって最小のストラタムを持つローカルへの同期が表示されます。

NTP サーバが到達可能ではないか、適切に認証されていない場合、このコマンド統計についての到達度はゼロになります。

Cisco ISE 管理者ポータルに NTP サーバ コンフィギュレーションと認証を定義するには、『[Cisco Identity Services Engine User Guide, Release 1.2](#)』の「System Time and NTP Server Settings」の項を参照してください。



(注) このコマンドは、同期プロセス時に矛盾した情報を表示します。同期プロセスは、完了までに最大 20 分かかることがあります。

#### 関連トピック

- [ntp, \(159 ページ\)](#)
- [ntp authenticate, \(160 ページ\)](#)
- [ntp authentication-key, \(161 ページ\)](#)
- [ntp trusted-key, \(165 ページ\)](#)
- [show ntp, \(102 ページ\)](#)
- [NTP サーバ認証の信頼キーの設定, \(164 ページ\)](#)
- [同期化のステータスの確認, \(165 ページ\)](#)

## NTP サーバ認証の信頼キーの設定

NTP サーバによるシステムのソフトウェアクロックの同期を許可するには、コンフィギュレーションモードで **ntp server** コマンドを使用します。

```
ise/admin(config)# ntp server ntp.esl.cisco.com key 1
% WARNING: Key 1 needs to be defined as a ntp trusted-key.
ise/admin(config)#
ise/admin(config)# ntp trusted-key 1
% WARNING: Key 1 needs to be defined as a ntp authentication-key.
ise/admin(config)#
ise/admin(config)# ntp authentication-key 1 md5 plain SharedWithServe
ise/admin(config)#

ise/admin(config)# ntp server ntp.esl.cisco.com 1
ise/admin(config)# ntp server 171.68.10.80 2
ise/admin(config)# ntp server 171.68.10.150 3
ise/admin(config)#
ise/admin(config)# do show running-config
Generating configuration...
!
hostname ise
!
ip domain-name cisco.com
!
interface GigabitEthernet 0
 ip address 172.21.79.246 255.255.255.0
 ipv6 address autoconfig
!
ip name-server 171.70.168.183
!
ip default-gateway 172.21.79.1
!
clock timezone UTC
!
ntp authentication-key 1 md5 hash ee18afc7608ac7ecdbefc5351ad118bc9ce1ef3
ntp authentication-key 2 md5 hash f1ef7b05c0d1cd4c18c8b70e8c76f37f33c33b59
ntp authentication-key 3 md5 hash ee18afc7608ac7ec2d7ac6d09226111dce07da37
ntp trusted-key 1
```

```
ntp trusted-key 2
ntp trusted-key 3
ntp authenticate
ntp server ntp.esl.cisco.com key 1
ntp server 171.68.10.80 key 2
ntp server 171.68.10.150 key 3
!
--More--
```

## 同期化のステータスの確認

同期化のステータスを確認するには、**show ntp** コマンドを使用します。

### 例 1

```
ise/admin# show ntp
Primary NTP : ntp.esl.cisco.com
Secondary NTP : 171.68.10.80
Tertiary NTP : 171.68.10.150
synchronised to local net at stratum 11
time correct to within 448 ms
polling server every 64 s
remote          refid          st t when poll reach  delay  offset  jitter
=====
*127.127.1.0    .LOCL.           10 l  46  64  37   0.000   0.000   0.001
171.68.10.80   .RMOT.           16 u  46  64   0   0.000   0.000   0.000
171.68.10.150  .INIT.           16 u  47  64   0   0.000   0.000   0.000
Warning: Output results may conflict during periods of changing synchronization.
ise/admin#
```

### 例 2

```
ise/admin# show ntp
Primary NTP : ntp.esl.cisco.com
Secondary NTP : 171.68.10.150
Tertiary NTP : 171.68.10.80
synchronised to NTP server (171.68.10.150) at stratum 3
time correct to within 16 ms
polling server every 64 s
remote          refid          st t when poll reach  delay  offset  jitter
=====
127.127.1.0    .LOCL.           10 l  35  64  377   0.000   0.000   0.001
+171.68.10.80  144.254.15.122  2 u  36  64  377   1.474   7.381   2.095
*171.68.10.150 144.254.15.122  2 u  33  64  377   0.922  10.485   2.198
Warning: Output results may conflict during periods of changing synchronization.
ise/admin#
```

## ntp trusted-key

信頼リストに時刻源を追加するには、固有識別子とともに **ntp trusted-key** コマンドを使用します。

### ntp trusted-key key

この機能をディisableにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

### no ntp trusted-key

#### 構文の説明

<b>trusted-key</b>	このキーに割り当てる ID。
--------------------	----------------

<i>key</i>	信頼できる時刻源にキー番号を指定します。これは、NTP 認証キーとして定義する必要があります。最大 65535 桁までサポートします。
------------	---

### コマンド デフォルト

なし

### コマンド モード

コンフィギュレーション (config) #

### 使用上のガイドライン

このキーを NTP サーバに追加する前に、このキーを NTP 認証キーとして定義し、信頼リストにこのキーを追加します。信頼リストに追加されたキーは、システムで NTP サーバによって同期できるもののみ使用できます。

#### 例 1

```
ise/admin# configure
ise/admin(config)#
ise/admin(config)# ntp trusted-key 1
ise/admin(config)# ntp trusted-key 2
ise/admin(config)# ntp trusted-key 3
ise/admin(config)# no ntp trusted-key 2
(Removes key 2 from the trusted list).
```

#### 例 2

```
ise/admin(config)# no ntp trusted-key
(Removes all keys from the trusted list).
```

#### 関連トピック

- [ntp, \(159 ページ\)](#)
- [ntp authenticate, \(160 ページ\)](#)
- [ntp authentication-key, \(161 ページ\)](#)
- [ntp server, \(162 ページ\)](#)
- [show ntp, \(102 ページ\)](#)

## rate-limit

送信元 IP アドレスからの TCP/UDP/ICMP パケットの制限を設定するには、コンフィギュレーションモードで **rate-limit** コマンドを使用します。この機能を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**rate-limit 250 ip-address net-mask port**

構文の説明

<1-10000>	1 秒あたりの平均 TCP/UDP/ICMP パケット数。
<b>ip-address</b>	パケット レート制限を適用する送信元 IP アドレス。
<b>net-mask</b>	パケット レート制限を適用する送信元 IP マスク。
<b>port</b>	パケット レート制限を適用する宛先ポート番号。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

コンフィギュレーション (config) #

使用上のガイドライン

なし。

例

```
ise49/admin(config)# rate-limit 4000 ip 20.20.20.20 port 443
% Notice : Actual rate limit rounded up by iptables to 5000 per second
ise49/admin(config)# do show running-config | incl rate
rate-limit 5000 ip 20.20.20.20 port 443
ise49/admin(config)#
ise49/admin(config)# rate-limit 6000 ip 10.10.10.10 port 443
% Notice : Actual rate limit rounded up by iptables to 10000 per second
ise49/admin(config)# do show running-config | incl rate
rate-limit 10000 ip 10.10.10.10 port 443
rate-limit 5000 ip 20.20.20.20 port 443
ise49/admin(config)#
```

関連トピック

[conn-limit](#), (132 ページ)

# password-policy

システムに対するパスワードをイネーブル化または設定するには、コンフィギュレーションモードで **password-policy** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**password-policy options**



(注) **password-policy** コマンドには、ポリシー オプションが必要です（「構文の説明」を参照）。  
**password-expiration-enabled** コマンドは、他の password-expiration コマンドの前に入力する必要があります。



(注) **password-policy** コマンドを入力すると、config-password-policy コンフィギュレーション サブモードに入ります。

構文の説明

<i>digit-required</i>	ユーザパスワードに数字を含むことを必須にします。
<i>disable-cisco-password</i>	パスワードに、「Cisco」や「Cisco」を含む語を使用できないようにします。
<i>disable-repeat-chars</i>	同じ文字が5つ以上含まれているパスワードをディセーブルにします。
<i>do</i>	EXEC コマンド。
<i>end</i>	コンフィギュレーションモードを終了します。
<i>exit</i>	このサブモードを終了します。
<i>lower-case-required</i>	ユーザパスワードに小文字が含まれている必要があります。
<i>min-password-length</i>	有効なパスワードの最小文字数。最大 40 文字までサポートします。
<i>no</i>	コマンドを無効にするか、またはデフォルト値を設定します。
<i>no-previous-password</i>	前回のパスワードの一部を再使用できないようにします。
<i>no-username</i>	パスワードにユーザ名を含めることを禁止します。
<i>password-delta</i>	文字数が古いパスワードと異なるようにします。
<i>password-expiration-days</i>	パスワードの有効日数。3650 までの整数をサポートします。
<i>password-expiration-enabled</i>	パスワードの有効期限をイネーブルにします。  (注) <b>password-expiration-enabled</b> コマンドは、他の password-expiration コマンドの前に入力する必要があります。

<i>password-expiration-warning</i>	パスワードの期限が迫っていることを通知する警告を開始するまでの日数。 3650 までの整数をサポートします。
<i>password-lock-enabled</i>	指定した回数の試行が失敗したら、パスワードをロックします。
<i>password-lock-retry-count</i>	試行回数を指定します。この回数の試行が失敗するとユーザパスワードがロックされます。 20 までの整数をサポートします。
<i>password-time-lockout</i>	アカウントロックアウトをクリアするまでの時間を設定します (分単位)。 5 分から 1440 分までの時間値をサポートします。
<i>special-required</i>	ユーザパスワードに特殊文字が含まれている必要があります。
<i>upper-case-required</i>	ユーザパスワードに大文字が含まれている必要があります。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

コンフィギュレーション (config-password-policy) #

使用上のガイドライン

なし。

例

```
ise/admin(config)# password-policy
ise/admin(config-password-policy)# password-expiration-days 30
ise/admin(config-password-policy)# exit
ise/admin(config)#
```

# repository

バックアップを設定するためにリポジトリ サブモードを開始するには、コンフィギュレーションモードで **repository** コマンドを使用します。

**repository** *repository-name*

構文の説明

*repository-name* リポジトリの名前。最大 80 文字の英数字をサポートします。



(注) **repository** コマンドでリポジトリの名前を入力すると、**config-Repository** コンフィギュレーションサブモードに入ります（「構文の説明」を参照）。

構文の説明

<b>do</b>	EXEC コマンド。このモードですべての EXEC コマンドを実行できます。
<b>end</b>	<b>config-Repository</b> サブモードを終了し、EXEC モードに戻ります。
<b>exit</b>	このモードを終了します。
<b>no</b>	このモードのコマンドを否定します。 2つのキーワードを使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>url</b> : リポジトリの URL。</li> <li>• <b>user</b> : リポジトリにアクセスするためのユーザ名とパスワード。</li> </ul>
<b>url</b>	リポジトリの URL。最大 300 文字の英数字をサポートします（表 4-5 を参照）。
<b>user</b>	アクセスするためのユーザ名とパスワードを設定します。最大 30 文字の英数字をサポートします。



(注) **server** はサーバ名です。**path** は /subdir/subsubdir を指します。NFS ネットワーク サーバのサーバ名の後には、コロン (:) が必要です。

表 10 : 表 4-5 URL キーワード (続き)

キーワード	コピー元またはコピー先
<b>URL</b>	サーバおよびパス情報を含む、リポジトリの URL を入力します。最大 80 文字の英数字をサポートします。
<b>cdrom:</b>	ローカルの CD-ROM ドライブ (読み取り専用)。



キーワード	コピー元またはコピー先
<b>disk:</b>	ローカルストレージ。 ローカルリポジトリのすべてのファイルを表示するには、 <b>show repository repository_name</b> を実行します。  (注) すべてのローカルリポジトリは、 <b>/localdisk</b> パーティションに作成されます。リポジトリの URL で <b>disk://</b> を指定すると、システムは、 <b>/localdisk</b> に対する相対パスでディレクトリを作成します。たとえば、 <b>disk://backup</b> と指定すると、ディレクトリは <b>/localdisk/backup</b> に作成されます。
<b>ftp:</b>	FTP ネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL。 <b>ftp://server/path</b> という URL を使用します
<b>http:</b>	HTTP ネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL (読み取り専用)。
<b>https:</b>	HTTPS ネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL (読み取り専用)。
<b>nfs:</b>	NFS ネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL。 <b>nfs://server:/path</b> という URL を使用します
<b>sftp:</b>	SFTP ネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL。 <b>sftp://server/path</b> という URL を使用します
<b>tftp:</b>	TFTP ネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL。 <b>tftp://server/path</b> という URL を使用します  (注) Cisco ISE アップグレードの実行に、TFTP リポジトリは使用できません。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

コンフィギュレーション (config-Repository) #

## 使用上のガイドライン

**url sftp** をサブモードで設定する場合は、最初に RSA フィンガープリント (AKA ホスト キー) をターゲット SFTP ホストから ISE にロードする必要があります。CLI で **crypto host\_key add** コマンドを使用してこれを実行できます。

この機能をディセーブルにするには、サブモードで **host-key host** コマンドの **no** 形式を使用します。

Cisco ISE 管理者ポータル の [管理 (Administration)] > [システム (System)] > [メンテナンス (Maintenance)] > [リポジトリ (Repository)] > [リポジトリの追加 (Add Repository)] でセキュアな FTP リポジトリを設定すると Cisco ISE は常に次の警告を表示します。

このリポジトリを使用できるようにするには、SFTP サーバのホスト キーをホスト キー オプションを使用して CLI を介して追加する必要があります。

ホスト キーを設定せずに、セキュアな FTP リポジトリにバックアップしようとする と、対応するエラーが Cisco ADE のログにスローされます。

### 例 1

```
ise/admin# configure terminal
ise/admin(config)# repository myrepository
ise/admin(config-Repository)# url sftp://ise-pap
ise/admin(config-Repository)# host-key host ise-pap
host key fingerprint added
# Host ise-pap found: line 1 type RSA
2048 f2:e0:95:d7:58:f2:02:ba:d0:b8:cf:d5:42:76:1f:c6 ise-pap (RSA)
ise/admin(config-Repository)# exit
ise/admin(config)# exit
ise/admin#
```

### 例 2

```
ise/admin# configure terminal
ise/admin(config)# repository myrepository
ise/admin(config-Repository)# url sftp://ise-pap
ise/admin(config-Repository)# no host-key host ise-pap
ise/admin(config-Repository)# exit
ise/admin(config)# exit
ise/admin#
```

### 関連トピック

- [backup, \(30 ページ\)](#)
- [restore, \(63 ページ\)](#)
- [show backup, \(85 ページ\)](#)
- [show repository, \(107 ページ\)](#)

## service

管理するサービスを指定するには、コンフィギュレーションモードで **service** コマンドを使用します。

**service sshd**

この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**no service**

構文の説明

<b>sshd</b>	Secure Shell Daemon。SSH のデーモンプログラムです。
<b>enable</b>	sshd サービスをイネーブルにします。
<b>key-exchange-algorithm</b>	sshd サービスで許可するキー交換アルゴリズムを指定します。
<b>diffie-hellman-group14-sha1</b>	キー交換アルゴリズムを diffie-hellman-group14-sha1 に制限します
<b>logLevel</b>	sshd からセキュア システム ログに対するメッセージのログレベルを指定します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 : 抑止</li> <li>• 2 : 致命的</li> <li>• 3 : エラー</li> <li>• 4 : 情報 (デフォルト)</li> <li>• 5 : 冗長</li> <li>• 6 : デバッグ</li> <li>• 7 : デバッグ 1</li> <li>• 8 : デバッグ 2</li> <li>• 9 : デバッグ 3</li> </ul>

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

コンフィギュレーション (config) #

使用上のガイドライン

なし。

例

```
ise/admin(config)# service sshd
ise/admin(config)# service sshd enable
ise/admin(config)# service sshd key-exchange-algorithm diffie-hellman-group14-sha1
ise/admin(config)# service sshd loglevel 4
ise/admin(config)#
```

# shutdown

インターフェイスをシャットダウンするには、インターフェイスコンフィギュレーションモードで **shutdown** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

このコマンドには、キーワードおよび引数はありません。

## コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンド モード

コンフィギュレーション (config-GigabitEthernet) #

## 使用上のガイドライン

このコマンドを使用してインターフェイスをシャットダウンすると、そのインターフェイスを経由した Cisco ISE アプライアンスへの接続性が失われます。これは、アプライアンスの電源が投入されていても変わりません。

ただし、アプライアンス上に別の IP を使用して 2 番目のインターフェイスを設定し、そのインターフェイスがシャットダウンされていないければ、その 2 番目のインターフェイス経由でアプライアンスに接続できます。

インターフェイスをシャットダウンする別の方法として、ONBOOT パラメータを使用して、/etc/sysconfig/network-scripts にある ifcfg-eth[0,1] ファイルを変更することもできます。

- インターフェイスをディセーブルにするには、ONBOOT="no" と設定します。
- インターフェイスをイネーブルにするには、ONBOOT="yes" と設定します。

**no shutdown** コマンドを使用して、インターフェイスをイネーブルにすることもできます。

例

```
ise/admin(config)# interface GigabitEthernet 0
ise/admin(config-GigabitEthernet)# shutdown
```

## 関連トピック

[interface](#), (140 ページ)

- [ip address, \(145 ページ\)](#)
- [show interface, \(95 ページ\)](#)
- [ip default-gateway, \(147 ページ\)](#)

## snmp-server community

簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) へのアクセスを許可するコミュニティアクセスストリングを設定するには、コンフィギュレーションモードで **snmp-server community** コマンドを使用します。

**snmp-server community community-string ro**

この機能をディisableにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**no snmp-server**

### 構文の説明

<b>community</b>	SNMP コミュニティストリングを設定します。
<i>community-string</i>	パスワードのように機能するアクセス文字列。これによって SNMP へのアクセスが許可されます。空白は使用できません。最大 255 文字の英数字をサポートします。
<b>ro</b>	読み取り専用アクセスを指定します。

### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンド モード

コンフィギュレーション (config) #

### 使用上のガイドライン

**snmp-server community** コマンドでは、コミュニティストリングと引数 **ro** を指定する必要があります。指定しない場合、エラーが発生します。

Cisco ISE の SNMP エージェントは、読み取り専用の SNMP v1 アクセスと SNMP v2c アクセスを次の MIB に提供します。

- SNMPv2-MIB
- RFC1213-MIB
- IF-MIB
- IP-MIB

- IP-FORWARD-MIB
- TCP-MIB
- UDP-MIB
- HOST-RESOURCES-MIB
- ENTITY-MIB : 次の 3 つの MIB 変数のみが ENTITY-MIB でサポートされます。
  - 製品 ID : entPhysicalModelName
  - バージョン ID : entPhysicalHardwareRev
  - シリアル番号 : entPhysicalSerialNumber
- DISMAN-EVENT-MIB
- NOTIFICATION-LOG-MIB
- CISCO-CDP-MIB

例

```
ise/admin(config)# snmp-server community new ro
ise/admin(config)#
```

関連トピック

- [snmp-server host](#), (177 ページ)
- [snmp-server location](#), (178 ページ)
- [snmp-server contact](#), (176 ページ)

## snmp-server contact

SNMP 接続の管理情報ベース (MIB) 値をシステムに設定するには、コンフィギュレーションモードで **snmp-server contact** コマンドを使用します。システム連絡先情報を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**snmp-server contact** *contact-name*

構文の説明

<b>contact</b>	この管理対象ノードの担当者を指定します。最大 255 文字の英数字をサポートします。
<i>contact-name</i>	ノードのシステム連絡先情報を表す文字列。最大 255 文字の英数字をサポートします。

使用上の注意事項

このコマンドの動作は、値は `config` #。

例

```
ise/admin(config)# snmp-server contact Luke
ise/admin(config)#
```

関連トピック

- [snmp-server community, \(175 ページ\)](#)
- [snmp-server host, \(177 ページ\)](#)
- [snmp-server location, \(178 ページ\)](#)

## snmp-server host

SNMP トラップをリモートユーザに送信するには、コンフィギュレーションモードで **snmp-server host** コマンドを使用します。

**snmp-server host** {*ip-address* | *hostname*} **version** {*1* | *2c*} *community*

トラップ転送を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

構文の説明

<b>host</b>	SNMP 通知を受信するホストを設定します。
<i>ip-address</i>	SNMP 通知ホストの IP アドレス。最大 32 文字の英数字をサポートします。
<i>hostname</i>	SNMP 通知ホストの名前。最大 32 文字の英数字をサポートします。
<b>version</b> { <i>1</i>   <i>2c</i> }	(任意)。トラップの送信に使用する SNMP のバージョン。デフォルトは 1 です。  version キーワードを使用する場合は、次のキーワードのいずれかを指定します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 : SNMPv1。</li> <li>• 2c : SNMPv2C。</li> </ul>
<i>community</i>	通知処理で送信されるパスワードに類似のコミュニティストリング。

コマンド デフォルト

ディセーブル。

コマンドモード

コンフィギュレーション (config) #

## 使用上のガイドライン

SNMP がすでに設定されている場合、Cisco ISE ではアプライアンスの起動（リロード）時に「coldStart(0)」トラップを送信します。Cisco ISE では、最初に起動するときは「coldStart(0)」トラップを送信する Net-SNMP クライアントを使用し、停止するときは企業固有のトラップ「nsNotifyShutdown」を使用します。

**snmp-server host** コマンドを使用して SNMP を再設定した後では、通常は、標準の「coldStart(0)」トラップでも「warmStart(1)」トラップでもなく、企業固有のトラップ「nsNotifyRestart」を生成します。

## 例

```
ise/admin(config)# snmp-server host isel version 2c public
ise/admin(config)# snmp-server community public ro
2012-09-24T18:37:59.263276+00:00 isel snmptrapd[29534]: isel.cisco.com [UDP:
[192.168.118.108]:44474]: Trap ,
DISMAN-EVENT-MIB::sysUpTimeInstance = Timeticks: (29) 0:00:00.29, SNMPv2-MIB::snmpTrapOID.0
= OID: SNMPv2-MIB::coldStart,
SNMPv2-MIB::snmpTrapEnterprise.0 = OID: NET-SNMP-MIB::netSnmpAgentOIDs.10
ise/admin(config)# snmp-server contact admin@cisco.com
2012-09-24T18:43:32.094128+00:00 isel snmptrapd[29534]: isel.cisco.com [UDP:
[192.168.118.108]:53816]: Trap ,
DISMAN-EVENT-MIB::sysUpTimeInstance = Timeticks: (33311) 0:05:33.11, SNMPv2-MIB::snmpTrapOID.0
= OID: NET-SNMP-AGENT-MIB::nsNotifyRestart, SNMPv2-MIB::snmpTrapEnterprise.0 = OID:
NET-SNMP-MIB::netSnmpNotificationPrefix

ise/admin(config)# snmp-server community new ro
ise/admin(config)# snmp-server host 209.165.202.129 version 1 password
ise/admin(config)#
```

## 関連トピック

- [snmp-server community, \(175 ページ\)](#)
- [snmp-server location, \(178 ページ\)](#)
- [snmp-server contact, \(176 ページ\)](#)

# snmp-server location

SNMP ロケーションの MIB 値をシステムに設定するには、コンフィギュレーションモードで **snmp-server location** コマンドを使用します。システム ロケーション情報を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**snmp-server location** *location*

## 構文の説明

<b>location</b>	この管理対象ノードの物理的な場所を設定します。最大 255 文字の英数字をサポートします。
<i>location</i>	システムの物理ロケーション情報を表す文字列。最大 255 文字の英数字をサポートします。



### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンド モード

コンフィギュレーション (config) #

### 使用上のガイドライン

*word* の文字列では、単語の間にアンダスコア ( \_ ) またはハイフン ( - ) を使用することをお勧めします。 *word* の文字列で単語の間に空白を使用する場合、文字列を二重引用符 ( " ) で囲む必要があります。

#### 例 1

```
ise/admin(config)# snmp-server location Building_3/Room_214
ise/admin(config)#
```

#### 例 2

```
ise/admin(config)# snmp-server location "Building 3/Room 214"
ise/admin(config)#
```

#### 関連トピック

- [snmp-server community, \(175 ページ\)](#)
- [snmp-server host, \(177 ページ\)](#)
- [snmp-server location, \(178 ページ\)](#)

## username

SSH を使用して Cisco ISE にアクセスできるユーザを追加するには、コンフィギュレーションモードで **username** コマンドを使用します。ユーザがすでに存在する場合は、このコマンドを使用してパスワード、特権レベル、または両方を変更します。システムからユーザを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**username** *username* **password** **hash** | **plain** {*password*} **role** **admin** | **user** **email** {*email-address*}

既存のユーザに対しては、次のコマンド オプションを使用します。

**username** *username* **password** **role** **admin** | **user** {*password*}

構文の説明

<i>username</i>	引数 <b>username</b> には1つの単語のみを指定できます。空白や二重引用符 (") は使用できません。最大 31 文字の英数字をサポートします。
<b>password</b>	パスワードを指定します。
<i>password</i>	パスワード。40 文字までの英数字で指定します。パスワードは、すべての新規ユーザに指定する必要があります。
<b>hash   plain</b>	パスワードのタイプ。最大 34 文字の英数字をサポートします。
<b>role admin   user</b>	ユーザのユーザ ロールと特権レベルを設定します。
<b>disabled</b>	ユーザの電子メールアドレスに従って、ユーザをディセーブルにします。
<b>email</b>	ユーザの電子メールアドレスを設定します。
<i>email-address</i>	ユーザの電子メールアドレスを指定します。たとえば、 <code>user1@mydomain.com</code> のように指定します。

コマンド デフォルト

設定時の初期ユーザです。

コマンド モード

コンフィギュレーション (config) #

使用上のガイドライン

**username** コマンドでは、**username** および **password** キーワードの後に、**hash | plain** および **admin | user** オプションを指定する必要があります。

例 1

```
ise/admin(config)# username admin password hash ##### role admin
ise/admin(config)#
```

例 2

```
ise/admin(config)# username admin password plain Secr3tp@swd role admin
ise/admin(config)#
```

**例 3**

```
ise/admin(config)# username admin password plain Secr3tp@swd role admin email  
admin123@mydomain.com  
ise/admin(config)#
```

**関連トピック**

[password-policy](#), (167 ページ)

[show users](#), (116 ページ)

**username**